

幼児の教育

第五十二卷 第十二號



發行 日本幼稚園協會
發賣 フレーベル館

12

フレイベル館の

二十九年新学期用品

半世紀のけんさんと、さんしんな企画、良心的な製品で御好評を頂いてまいりましたフレイベル館の保育用品。

二十九年新学期用品も左の通り製作致して居ります。御用命は貴園もよりの本社代理店へ直接御申しつけ願います。

No. 58	ポ園 スタ 募集 ―(A)	(一枚)	二五円
No. 57	保 育 証 書 ―(小)	(一枚)	五円
No. 56	保 育 証 書 ―(大)	(一枚)	七円
No. 55	保 育 料 袋	(一枚)	二五〇
No. 53	卒 園 臺 帳	(一部)	二円
No. 51	つうえん ブック	(一部)	一五円
No. 50	園 の た よ り	(一部)	一五円
No. 48	身 体 検 査 表	(一枚)	二円
No. 47	園 籍 簿	(一枚)	二円
No. 45	保 育 日 誌 用 紙	(一枚)	二円
No. 41	幼 児 指 導 要 録	(一枚)	五円

No. 132	折 紙 (特製4寸)	(一束)	四〇円
No. 131	折 紙 (特製5寸)	(一束)	五〇円
No. 128	自由画帳 (小)	(一冊)	二五円
No. 127	自由画帳 (小)	(一冊)	三〇円
No. 126	自由画帳 (大)	(一冊)	三五円
No. 119	おさいく帳 (大)	(一冊)	三五円
No. 118	おさいく帳 (小)	(一冊)	三〇円
No. 112	ぬりえ (上級)	(一冊)	三五円
No. 111	ぬりえ (初級)	(一冊)	三五円
No. 103	出席カード用貼紙 (箱)	二〇〇円	
No. 101	出席カード	(一組)	三五円
No. 75	綴込表紙 (B5判)	(一組)	五〇円
No. 74	園のたより用 ゴム印	(一組)	二〇〇円
No. 72	出 席 簿	(一枚)	二円
No. 60	ポ園 スタ 募集 ―(C)	(一枚)	二五円
No. 59	ポ園 スタ 募集 ―(B)	(一枚)	二五円

No. 171	組別名札 (桜型)	(一枚)	二円
No. 169	たのしい おしごと (No. 2)	(一部)	四五円
No. 168	たのしい おしごと (No. 1)	(一部)	四五円
No. 167	え あ そ び	(一部)	四〇円
No. 160	はさみ (先丸鉄)	(一箇)	三五円
No. 159	お道具箱 (紙製品)	(一箇)	三五円
No. 158	お道具箱 (木製品)	(一箇)	六〇円
No. 157	まんてん くれよん (八色)	(一箱)	四〇円
No. 156	まんてん くれよん (一〇色)	(一箱)	五〇円
No. 155	まんてん くれよん (二色)	(一箱)	六〇円
No. 134	折紙 (並製4寸)	(一束)	二八円
No. 133	折紙 (並製5寸)	(一束)	三八円

株式会社 フレイベル館
東京都千代田区神田小川町二丁目五番地
振替・東京・一九六四〇番

幼 児 の 教 育

第五十二卷

第十二号

昭和二十八年十二月

目 次

表 紙……………三 岸 節 子

人間性の涵養(拾遺2)……………倉 橋 惣 三……(2)	
(ヌース) 大きな舞台と小さな舞台……………及 川 ふ み……(4)	
幼稚園の「社会」の指導はどうしたらよいか……………鈴 木 信 政……(6)	
保育者の精神衛生(2)……………西 木 脩……(14)	

改訂された「音楽リズムの指導書」にもとづいて

……………山 村 き よ……(19)	
冬の室内衛生(暖房其の他の注意)……………広 瀬 興……(24)	
クリスマスのおはなしと幼児……………上 沢 謙 二……(28)	
和歌俳句にある「雪」……………石 井 庄 司……(33)	
アメリカ通信(8)……………津 守 真……(39)	
☆この子供たち(7)☆……………松 原 至 大……(42)	
第五十二巻 総目録……………(49)	

編 集 主 幹 倉 橋 惣 三

協 力 委 員 牛 島 義 友 及 川 ふ み 斎 藤 文 雄

多 田 鉄 雄 波 多 野 完 治 山 下 俊 郎

編 集 委 員 西 山 浪 太 郎 (五十音順)

発 行

日 本 幼 稚 園 協 会

人間性の涵養（拾遺二）

倉 橋 惣 三

イギリスに人道協会というのがある。人道というから人間が人間えの道をいうことかと思うと、実は動物愛護協会のことである。動物を愛する心は、人間の心を以て動物に対することである。人が人に対して、己れの苦痛を以て他の苦痛を察し、己れの快を以て、他の快をはかるのを、動物世界にまで移すのである。移すというよりも、ひろげるというか、及ぼすといをうか。及ぼすというよりも、そのひろい豊かな感情が、人間にだけではなく、余りて動物にまで及ぶ意であり、同法ということはいふすべてそうであらう。

東洋でいう、惻隱のこゝろと同じである。動物愛護運動が、単に動物の幸福を増すのみでなく、人間性を向上するとして奨励されるのも、この解釈によるものである。幼児に対する人間性の涵養の途として、重んぜられる所以も、そこにある。

動物を愛するにも、愛玩に止まることがあり、それは子供に対する場合にも同じことがあるが、人間性の発露とは、似て非なること甚しいことである。小動物を幼児に与える場合、細心の注意を要することであらう。その愛憐と愛玩の別は、わたくし達、おとなのすることによるのであらうか。動物愛護を以てヒューマニテの教育に資する英国の例は、賢明といわなくてはならない。純愛よりも、小動物の風流的愛玩性に豊む我国の風習において、特にこの点を注意したい。

愛玩でなく、真に先方を愛することは、相手をしてその処を得せしめることである。相手の志を遂げしめることである。というところが大きく異なるが、その気もちを察して、妨げざることである。近頃デモクラチックの語が行われてこと細かに説かれもするが、要は、人の心もちへの察しを通すことであらう。抑圧的干渉をしないのみ

ならず、うるさい、おせつかいに人を邪魔しないことである。

デモクラチックといえは、新しいが、物分りのいゝ所謂苦勞人は、人に対して、自分の領域をわきまえる。うるさい口出しをしないばかりでなく、余計なおせつかいをやかない。ひつこくなく、さっぱりと、その相手と交る。ひつこくない江戸氣質の老人などによく見るところであるが、干渉しないというだけで冷淡なのは、支那の仙人や、雅客に似て、あき足らない淡さがあつたりする。

わたしは、或時、電車の中で、一人の職人風の若い衆が、混み合いの乗客をかき分けて、赤ン坊をおぶっているおかみさんの傍へ近づき、ぬけかゝつて居るかんざしを一寸差して、御免なせいといって電車を降りていったのを見たことがある。その職人は、多分さつきから、そのかんざしの落ちかゝつているのが氣になつてならなかつたのであらう。そうして、がまん出来なくなつて、声だけかけて、その親切をごめんなせえと云いながして、そのまゝ降りていったのであらう。

デモクラシーは、人のことに出しやばらないといつて、決して不親切ではない。たゞ、自分の好意を、人に押し

つけない。その職人の「御めんなせい」は、親切をつくして、親切を賞らないデモクラシーである。——民主主義の行いは、その場合いかであるうが、その心の根は一つである。他人のことに氣を配つて、しかもその人格を冒さないことである。親切をしようとすると、ひつこくなり勝ちだ。愛と愛玩との差もそこにある。この訓練のないところに真のデモクラシーはあらわれない。人権論者に案外デモクラシーがなくて、英國のレーバー諸君の日常行動にその真髓があつたりする所似である。

デモクラシーは要するに、相互の人間愛である。人間性のない社会に、デモクラシーはない。

新しい教育は、デモクラチックな人間をつくることである。という、むづかしそうだったり、倫理道德の訓練であつたりするようであるが、つまりは、人情の養いであり、人情は言葉や、教訓では養えない。人間と人間との自然の触れあひのうちにのみ養われる。それは、幼児期の人間的やわらかさにおいてのみ、それがよく行われる。道德のおきてにしたりすると、却つてその自然を失うであらう。



大きな舞台と、小さな舞台

及 川 ふ み

この夏のはじめに戸倉ハル先生は急に渡仏された。

例年七月二十一日から、お茶の水女子大学で開催される、戸倉先生を講師とする幼稚園の講習会のことを大きな気がかりに残して、世界女子体育指導者会議に参加のための渡仏であった。

そのローマからの御手紙の中に

フランスから、ドイツ スイス イタリアと歩きまし

た。ドイツはすごい戦災です。東京以上の様に思えます。若い女の子は、おしろいも、口べにもつけず、青年は短パンツでおそろしい意気で御座います。それにしても日本はあまくて、サカダチしている感じがいたします。

今日はローマにつきました。(八月十一日) 大理石の町古典な様子、ローマは一日にしてならぬの感を深ういたします。フランスにまさる美術を明日から見てまいります。三日たちましたら、スペインに渡ります。

「幾山河こえさりゆかば悲しさの

果てなん国ぞ今日も旅ゆく」
とあった。

戸倉先生は、この後アメリカに渡られて、十月のうちには、なつかしの故国に帰朝なさる予定です。

外遊中においての、女子体育、幼児のリズム遊び等の御専門のことについては、いづれ皆さん方と共に、その見聞の実情を伺いもし、又来るべき講習会にはそれらを

とり入れられた、大きな抱負に発表されることも期待されて楽しみなことである。

広い欧米の世界を狭しとして、その見学の地域を西え西へと移しながら、世界の文化を目に耳に（とくに戸倉先生には、手に、足に、とつけ加えたい）吸収されてお帰りになることとおまちしている次第である。

広い世界のことから、国内の狭い話に、急に舞台がまわってしまつて与味もさめてしまうのであるが、自分はこの夏、福島を最始に、茨城、埼玉、山梨、神奈川などと、東京の周辺地域を歩いた。そしてそれぞれ異った土地の幼稚園を見学し、先生方にも親しくお目にかかる機会が出来て、楽しい旅をつづけたのであった。

東京での研究発表会や、講習会に参加下さる先生方の現場の実状がよく見られてまことにうれしかった。その土地々々で、その設備の点や、人の点、幼児の状態、保護者の状況など様々の悪い事情の中で、ただひたむきに

幼児の教育に強い力を注がれているそのけなげなありのままの姿であつた。

幼稚園教育がここ数年とみに進展して、その増設、教員の増加など著しい、したがって先生方は若く、新らしくこの道に進まれた方の多いことである。各地の協議会では、幼児指導の内容面のことはもとより、小学校と幼稚園との諸問題、家庭と幼稚園との諸問題などについても日常熱心に研究されていて、活潑な意見発表の交換があつて、たのもしく感じられた。これに参加させてもらつて、大いに啓発される点が多々あつた。

この現情の熱意を見るにつき、よき指導書、参考書をおくつてこれにこたえたいことを痛感させられた。それにつけても保育要領にかわるべき、幼稚園教育課程の一日も早くこれらの方々におくられることである。

燈下親しむ秋幼児の教育にたづさわられる諸先生方の御健闘をいのる。

幼稚園の「社会」の指導は

どうしたらよいか



鈴木 信 政

まえがき

戦後、社会科が時代の寵児として脚光を浴びて登場した。これについて幼児教育の面にも「社会」という形で、従来の保育項目の一つとして考えられて来た。上級学校社会科がその指導にかなりの困難さをもつと同様に、この「社会」も、その指導に当っては充分研究して取りかゝらねばならないかと思う。そこで、この新設の「社会」について愚考を述べ、よき指導の一助に資したいと思う。尙、本稿は既刊の「幼稚園教育の指導」(一般篇及音楽リズム篇)に続くものである。

一、「社会」の設定されたいきさつ

二、「社会」のねらい

三、「社会」の具体的指導目標

四、「社会」の指導はどうすればよいか

五、「社会」指導上どんな点に注意すればよいか

六、参考文献及び資料

〔註〕 一の「社会」の設定されたわけについては既に第五回日本保育学会において、千葉大学教育学部附属幼稚園長宮内孝氏が発表されていられる本稿においても氏の所説を参考にさせて頂いた点が多い。厚く謝意を表しておく。

一、「社会」の設定されたいきさつ

戦後、学校の教科目に「社会科」という新しい教科目が出現してこれまで何十年か親しまれて来た修身・地理・歴史の三科目は忽然と姿を消してしまった。この社会科の取扱については、その当初から今もって、すっきりしない。その内容を取り上げてみると、従来の三科目の代替品と見なされる点が多いからであらう。いわば「社会科」は今次の戦争によって生まれだた混血児みたいなものである。昨今、文部当局の間に、復元的な動きが盛んとなり、その出生認知に大章となっている。アメリカに於ては、「社会科」に当る Soc

ial Problems は中心的な位置を占め、良く指導されていると聞く
がこれから模造した日本の「社会科」は今後どのようなになるか、大
きな課題となっているわけである。

さて、幼稚園の「社会」も御他聞に洩れず、この「社会科」と歩
みを一にしているともみられる。戦後、文部当局の試案として刊行
された幼児教育の手引書「保育要領」を見て

1・見学 2・リズム 3・休息 4・自由遊び 5・音楽
6・お話 7・絵画 8・製作 9・自然観察 10・ごっこ遊び
劇遊び、人形芝居 11・健康保育 12・年中行事
の十二項目が挙げられて居り、「社会」という項目はない。

この保育要領は戦後の新しい保育の方向付けをしたことは否めな
い事実である。今日においても、家庭教育の手引書としてみるとき
世の父親母親にとって好個の参考書として役立つものであろう。然
し、学校教育の一環となった幼稚園の立場からみれば、

○内容は豊富だが、雑然と項目を羅列しているに過ぎない。

○生活訓練的なもの。学習的なもの。教科的なもの。を同列に並
べている。

○健康保育というような奇妙な表現を使ったものもある。

というわけで、保育項目という点から論ずることは無理かと思う。
何はともあれ、保育要領は指導要領の刊行されるまでは唯一の手掛
りとして、その存在価値をもちつづけるであらう。

幼稚園教育の大きな使命の一として、幼児の社会性の芽生えを育
成するということを考えるとき、この「社会」に当るべきものがこ
れまでになかったかを一応検討してみる必要があろう。大正十五年

に初めて単独に公布された幼稚園令の施行規則第二条にそれらしい
ものが見当る。即ち、「幼稚園、保育項目ハ遊戲・唱歌・観察・談話
手技等トス。」とあり、新しく設けられた。観察とは「自然及び人事ニ
関スル観察ヲナサシメルコト」としている。自然観察と人事観察、
即ち自然と社会とについての極く初歩的なものを味わせることを要
求したものと解したい。上述の十二項目の中の、自然観察は云わず
もがな、見学・自由遊び・ごっこ遊び・劇あそび・年中行事等のも
つ内容を含むものと考えられる。然し、「社会」という表現は使って
いない。

昭和二十三年の秋頃、さきの保育要領の改訂を企図して保育カリ
キュラム運動の兆があらわれた。文部当局の音頭で、同二十四年一
月、幼稚園教育課程及び指導要録に関する研究協議会が発足され
た。当局の基本的な行き方は幼稚園教育と小学校教育との関連、幼
稚園カリキュラムの設定、設置基準の問題、幼児指導要録の設定、
音楽リズム特に「動きのリズム」の研究と指導等を如何にすべきか
を協議決定するに在ったと思う。この協議会（委員会）の答申は一
応文部省案作成に当ったの骨子とはなったが、小学校との関連とい
う点から、当初の形とは大へん違ったものとなってしまった。

昭和二十六年三月三日付文部省通達の幼児指導要録を見ると、

1・身体の状態 2・健康の習慣 3・しごとの習慣 4・社会
生活 5・自然 6・言語 7・音楽 8・絵画製作

の八項目となっている。「指導要録の趣旨とその取扱について」の
通達に、これらの項目は「小学校との連関をじゅうぶん考慮し、かつ
幼児の全体的発達に必要なもののみを選んでいる。」と述べ、当局の

自信たっぷりな所を見せている。ともかくこの通達において、はじめて社会という表現をつかつて、「社会生活」という項目を設けられたわけである。然し、この「社会生活」だけに生活をつけているのはおかしい。「しごこの習慣」と「社会生活」とを合せて「社会」という表現を用いれば、すつきりしたものになるう。

前に述べた協議会の活動と前後して、文部当局においては、幼稚園から高等学校までに対し、学校の教育課程及び統制の基準に関する法律案」なるものを準備したようである。これによると、幼稚園の教育課程は次のように規定されるらしい。

「幼稚園の活動及び経験は健康、社会、自然、言語、絵画製作、音楽リズムの領域に関するものとする。」

因に、教科とか科目とか言わず、また従来の保育項目とも言わず経験領域乃至活動領域という表現を用い、よく幼稚園教育らしいところをあらわさんがための苦心の跡がよく見られる。即ち、今日一般には「保育内容」といわれているものがこれに当るのである。この法案は種々の事情で未だ公にされていないが、保育カリキュラム改造運動とからみつき、巷間に一早く流布され、既定のもののように経験内容の項目として平然と使われている。上級学校「社会科」との連関における「社会」を幼稚園教育の面にとり入れて来た所に一歩前進の相が見られる。

二、「社会」のねらい

元来、「社会科」教育はものごとを自分で考え、批判し、協同社会のため誤りなく行動のとれる人間をつくることを目的としているの

である。昭和二十六年七月発行の小学校学習指導要領社会科篇第三章社会科学習内容に、特に幼稚園の項を設けて、

「幼稚園では、おうちごっこ、おきゃくごっこ、お店ごっこ、乗物ごっこなどによって、おとなの仕事や、周囲の事物の用途などを、ごくおおまかに、初歩的に理解させるとともに、次にあげるような生活態度を養うことをめざすべきであらう。

○仕事のしかたをよく守る。

○自分から進んでやる。

○仕事をやりとげる。

○材料や道具を分け分けて使う。

○物や道具をたいせつにする。

○遊び方や道具の使い方をくふうする。

○ひとと仲よく遊ぶ。

○ひとの物を大事にする。

○順番をよく守る。

○ひとに迷惑にならないように静かにする。

○慎重のある動作や態度がとれる。

○ひとに親切にする。

○公正に遊びや仕事をする。

○責任をもって分担した仕事をする。

○ひとに協力する。」

と、述べて十五の目当てを挙げている。これは幼児指導要録の「しごこの習慣」と「社会生活」の項目に挙げている事項と殆ど同一であって、その表現の仕方を少しく変えたに過ぎない。さてこう考え

てくると、幼児指導要録の「しごとの習慣」と「社会生活」とを統合したものが「社会科」に相当すると見て差支えなからう。この考え方は幼稚園と小学校との連なりの上からも、他の項目の表現上の釣合の上からも、更に幼児教育の社会化を重要視する点からも妥当ではなからうか。そして保育内容を従来通り幾つかの項目に分けるとすれば、学校教育法第七十八条（目標）の第二号及び第三号の目標を主として達成するために、「社会」なる項目を設定することが最も望ましいと思われる。

さてそれでは、この「社会」はどんなことをねらっているのか。四・五才頃の幼児は好奇心が強く、四肢や感覚器官を盛んに動かして、周囲の事物に触れてみたり、その名前を知りたがったり、その用途を知りたがったりする。大体自己中心的な言動が多いが、社会的協同性も次第に芽生えてきて、友達と協同して遊んだり、或いは仕事することを好むようになる。特に、ごっこ遊びを好み、これによって大人の生活をまねることに興味をもつ。まだ想像の世界と現実の世界とが十分に分化していないし、その判断力なり、理解力なりもほんとうに幼稚なものである。

幼児は幼稚園乃至保育所に入ることにより、家庭や近隣社会のよき自然発生的社会から意図的な人為的な社会へと入りこむ。そしてここで、幼児は今までは異なった社会で、しかも今までは異なった体験生活を体験するようになるのである。即ち、年令や経験の程度が余り違っていない仲間の一員として、そのグループに参加し、その中における行動の仕方や必要な仕事の習慣を身につけていく。と同時に、自主自律の芽生えを養っていくのである。

三「社会」の具体的指導目標

幼稚園における指導は、小学校でいう学習指導と生活指導とを相即的・一体的に取扱うことを強く要求される。即ち、小学校の教科に準ずるような形で示されている経験内容乃至保育内容は総て総合的な遊びや仕事を通して指導されるものであつて、養護の面を含んだ生活指導を主としてしているものである。そしてやがて学習指導と生活指導へと分化していく。その分化の兆しを孕んだ末分化の状態に在るのが幼稚園における指導であると考えてよい。その分化の兆しは年令や経験が少ないほど、より漠然としていて、年令や経験の増すに従つて、より明瞭になってくることはもとよりである。

幼児の自発的な活動はとぎれとぎれに断続するのではなく、常に何らかの連関をもつて、次々と発達していくものである。ずっと以前に経験された活動が現在の活動に影響して、その中に甦えつつあるということは極く自然なことであり、また望ましいことである。従つて先生はこれまでなされた指導の成果やその時の幼児の状況、また今後の指導の見通しなどについて、十分考慮すると同時に、幼児の生活経験をよく調べ、その興味や能力を正しく掴み、これを教育目標に照らして、周到な指導計画を立てることが最初の、そして絶対に必要な措置であらう。

さて、「社会」を指導するに当って、具体的な目標はどのようにしたらよいか。参考までに、その主なるものを挙げてみよう。

(1)喜んで集団生活に参加するように導く。

○友だちや先生と仲よく遊ぶ。

○年上の者や年下の者とも仲よく遊ぶ。

○どの友だちとも仲よく遊ぶ。

○友だちに好かれる。

○グループでごっこ遊びや仕事をする。

○新しいことでも喜んでやる。

○友だちと一緒に遠足・見学などに参加することを喜んでやる。

○自分から進んで遊びや仕事に参加する。

(2) ひとのことをよく考えて、親切な態度をとるよう導く。

○友だちが困っているとき、いたわってやる。

○小さいものへの思いやりがある。

○ひとの面倒をよくみる。

(3) グループの簡単なきまりが守れるよう導く。

○グループのきまりをよく理解する。

○良いこと悪いことを正しく判断する。

○どこでも公正な行動がとれる。

○誤ったことをしたとき素直に反省する。

○ひとのまちがった行動につりこまれない。

○まちがった行動をした友だちには注意してやる。

○云いつけ口をしない。

(4) ひとに迷惑をかけないように導く。

○大勢で話をきくとき、自分勝手な行動をしない。

○ひとが遊んだり、仕事をしているとき邪魔をしない。

○休息をするときは静かにする。

○必要なとき廊下は静かに歩く。

(5) 責任をもって、分担した仕事をやりとげるよう導く。

○当番を忘れずにやる。

○きめられた仕事は最後までやる。

○与えられた仕事は困難になってもすぐなげ出さない。

○ひとをあてにしない。

○興味のない仕事でもやってみる。

○仕事の誤りをひとになすらない。

(6) 順番をよく守るよう導く。

○自分の順番をまっけて仲よくやる。

○教材や教具をうけるときの順番をまつ。

○水吞・手洗・足洗などのとき順番をまつ。

○整列するとき自分の順番をよく守る。

(7) 自他の物をはっきり区別し、取扱えるよう導く。

○自分の物・ひとの物の権利を理解する。

○共有物・公有物を大切にし、仲よく使う。

○自分のものをひとに気持よく貸してやる。

○公有物は許可なく家に持ち帰らない。

(8) 進んで仕事をする習慣をつけるよう導く。

○遊びが終ったら後片付などを自分から進んでやる。

○自分から進んで当番をやる。

○自分から進んで先生の手伝いをやる。

(9) ひとと仲よく仕事する習慣をつけるよう導く。

○ひとの気持を理解して仲よく仕事する。

○道具を分け合って仕事をやる。

○できない友だちに手をかしてやる。

○ひとの誤ちを恕してやる。

○やってみてできないときに、ひとから助けてもらう。

(10)工夫努力し、やりとげる習慣をつけるように導く。

○仕事するとき、すぐひとの助力を求めない。

○ひとのまねをしないでやる。

○解らなかつたらよく考える。

○我慢して最後までやりとおす。

○やり出したら完成するまでやる。

(11)仕事の仕方がよく守れるように導く。

○指導されたように順序よくやれる。

○登園したら、持物の始末をしてから遊ぶ。

(12)物や道具などを大切にするように導く。

○物や道具を使ったら元の場所におく。

○物や道具は壊れたら直すことを考える。

○物や道具はていねいに扱う。

四「社会」の指導はどうすればよいか。

(1)社会性を発達させるために、教材・教具・遊具などを適当に準備して、遊びや仕事を豊富にする。

幼児は集団生活を通して社会生活の基礎的な態度を学びとっていき、また遊びを通して社会的経験を身につけていくものである。従って幼児が喜んで集団生活に参加できるように環境を整えてやり、或いは遊びの生活を豊かにさせるような教材・教具・遊具など

——特に集団的遊びに適するものが望ましい——を考えたりして、遊びを通して実際の喜びを感得させて、社会性の芽生えをのびその発達を促すことが大切である。

(2)グループで遊びや仕事の経験をする。

幼児は自己の興味なり要求なりによって、自分から仲間を作って活動するものである。例えば、お客様ごっことか、乗物ごっことかお店やごっことか、或いは共同製作とか、無心に楽しく遊んだり仕事をしたりしているうちに、グループへの協力・責任・助け合いなどの態度を身につけていく。

(3)グループで話し合う機会をもつようにする。

子ども同志、或いは先生も参加して、生活発表やその日のできごととなり明日の計画を話し合うことはお互に集団生活の楽しさが味わえると同時に、人前で自分の思ったことが発表できる態度が身につけていくのである。しかしこの年頃の幼児は自己中心的な傾向が強いため、さまざまな問題をよく起こし易いが、そういう問題を適当な時に取り上げ、幼児に考えさせ話し合う機会を与えて、ものごとを正しく判断し、処理していけるように指導することが望ましい。

(4)幼児の興味や必要によって、適当に見学や遠足をし、生活生活の理解を深める。

幼児は地域社会のできごとや身近にあるものに興味(関心)をもつものであるから、見学や遠足の機会をとらえて、地域社会についての初歩的な理解と社会生活に対する基礎的な態度を学びとらせたい。

(5)ごっこ遊びを上手に指導し、活用する。

幼児の遊びの中で、最も興味深いものはごっこ遊びであると思ふ。幼児は家庭や社会で見たこと聞いたことを思い出して遊びに再現し、遊びの中で社会性を獲得し、そして社会生活の態度を身につける。しかし、幼児は乏しい批判力のまにまに、興味もったことをそのまゝ猪突的に再現することもあるから、この自発的活動の中において、社会生活の正しい在り方を指導し、学びとらせるよい機会としたい。

(6) 仕事の必要を感じさせる。

人はそれぞれ仕事を通して社会に奉仕している。将来望ましい社会人となるために、幼児時代から、喜んで仕事するという習慣を身につけておかねばなるまい。そのためには、幼児に仕事の必要さを感じさせるように指導する必要がある。例えばお遊びの後の後片付とか、食事前に机の上を拭くとか、年令相應の仕事を実生活に結びつけて指導すると効果的であろう。

(7) 仕事を楽しく経験させ、満足感を味わせる。

自分の仕事やグループの仕事を楽しむ経験させ、仕事をやりとげることによって、成就感・満足感をもたせたい。また幼児が仕事の必要を感じたとき、進んでやっていくという積極的態度をもたせたい。幼児の気分を引き立て、一層活動的にするような音楽や仕事に熱中できるような落着いた雰囲気などは幼児に仕事を楽しく経験させ、自発活動を促すことに役立つものである。幼児が仕事しているとき、その活動状態をよく観察しながら、励ましたり褒めたりして仕事を最後までやってしまふ強い意志力をもたせ、そして仕事に対する自信と仕事への意欲を深めることが大切である。

五、「社会」の指導上、どんな点に注意すればよいか。

教育が社会的過程であると考えられる限り、幼児は社会を正しく理解し、社会の進歩に積極的に寄与することのできる実践的な性格をもち、現在及び将来の民主的社會の形成者として成長していくように指導されなければならぬ。總ての人の自由は尊重されなければならないけれども、一人の我儘も許されてはならない。一人一人の興味や欲求も、それが社会の福祉を齎らす限りにおいて、対人關係において生活しているものであるから、社会に対する理解・態度・実践力などの望ましい社会的性格の育成は單にそれが社会的必要であるばかりでなく、個々の幼児にとって個人的必要でもある。

このような経験は、集團の中で、集團生活を通して、仲間承認されたり否認されたりすることにより、身につけていくことができるのである。集團的な指導を行うには、

○幼稚園(保育園)やクラスを社会化すること。

○幼児の生活経験の様式を社会化すること。

○二つの必要を認めねばならない。次に指導上の注意事項を二・三挙げてみよう。

(1) 個人差に応じた指導をする。

幼児の社会性の発達には家庭・地域社会・心身の發育などと密接な關係をもつものであるから、これらに対する調査研究を行い、幼児の一人一人を正しく理解して指導を加える。特に入園当初の取扱については細心の注意を払い、無理な要求をしてはならない。

(2) 安定感をもつようにする。

好ましい社会関係は情緒の安定によってつくられるものであるから、環境を作る場合には特にこの点に注意せねばならない。

(3) 自立的な生活態度を身につけるようにする。

自分の身の廻りのことを年相応に処理していけるようにし、早く自立していけるような態度をもつようにさせる。気永に時間をかけ幼児の努力を高く評価してやる。

(4) 自分で遊びや仕事を選択するようにする。

自分の意志や要求によって選んだことは、その結果が良からうとも悪からうとも責任は自分にあるべきものである。

遊びや仕事を選ぶということはその結果を切実に体験していくことになるし、また自主的な生活態度の芽生えをもつようになるからこのような機会をなるべく多く与えてやりたい。

(5) 誤った行動は早く訂正するようにする。

幼児は自分のやったことを時間がたつてから考えるということとは困難であるし、無理でもある。それで、なるべくその時その場で、行動の結果についてよく解らせてやらねばならない。

(6) お互いの権利や特権を認めるようにする。

好ましい自己主張や自己表現を身につけるために、またひとのそれを認めるために、当番の特権やクラスのきまりなどについて、その権利をお互いに認め合うようにしたい。

以上、目ばしい事項を参考までに述べたに過ぎないことをおことわりして置く。更に、集団の分け方・クラス編成の仕方・分団編成の仕方等について解説すべきかと思うが、紙幅の都合で割愛させて

頂く。

◇参考文献及び資料

倉橋惣三著 日本幼稚園史：東洋図書

古木弘造著 幼児保育史：巖松堂

山下俊郎著 幼児心理学：巖松堂

アールノルド・ゲゼル著 山下俊郎訳 乳幼児の心理学：新教育協会

三木安正著 幼児の心理と教育：国土社

鈴木信政・水野久一郎共編 幼稚園教育の指導：弘益印刷

文部省 保育要領：師範学校教科書KK

同 小学校学習指導要領社会科篇：日本書籍KK

幼稚園関係法令集・フレーベル館

文部省初中局第一〇八号通牒・幼稚園の設置基準について

文部省初中局第一〇八号通牒・幼児指導要録の趣旨及びその取扱

について

文部省・幼稚園教育課程及び指導要録協議会記録

(愛知学芸大学教授・愛知学芸大学附属幼稚園長)

×

×

×

×

保育者の精神衛生(二)

西 本 脩

四、理想的保育者の資質

どんな保育者がよい保育者であるか、どんな保育者がよくない保育者であるかを決めること、又どうすれば保育者はよりよい保育の効果を挙げることが出来るかを教育心理学の立場から研究することによって、理想的な保育者のそなえるべき資質が何であるかと云う問題が明らかになったならば、保育者を養成する側の者、保育者の採用選択をする側の者にとっては、一つの評価の基準を得ることになり、これから保育者にならうと志している者や現に保育の仕事にたずさわっている者にとっては、自分が保育者になること、或いは保育者としての仕事を続けることが正しいか否かということを自己判断する為の標準となるでしょう。又自分がよりよい保育者となる為には、どの様な点を改める必要があるかと云うことについての指示となり、目標ともなるでしょう。

理想的保育者の資質を決めるについて、参考にするべき方法は三つあります。(文献4)第一は演繹的方法で、これは保育の本質から理想の保育者の資質を決めようとするものです。第二は帰納的方法で、これは保育の実際から出発して、理想の保育者の資質を決めようとするものです。勿論、理想的保育者とされる者も、それを見る者の立場によって必ずしも同じではありません。幼児の立場から、或いは保育者を監督する立場にある園長、指導主事等の立場から、或いは幼児の保護者やその地域社会の人々の立場から、或いは保育者自身の反省の立場からと云う様に、種々の場合が考えられますがその目的としている所は、実際に成功している保育者はどのような資質を持っているか、保育者として失敗した原因はどんな資質によるのかを調査しようとするもので、多くは統計的方法によって行われています。第三は歴史的方法で、これは歴史上に大保育者として名を残している著名な人々(例えばベスタロッチ、フレーベル等)

について、その人物や心理的特性を、伝記なり、自叙伝なりを参考として、分析的に蒐録して行く方法であり、又保育理論家や保育実家が保育者の資質について發表した論説を比較検討することもこの方法に属します。

これらの三つの方法は、それ／＼長所を持っていますが、それと共に、避けることの出来ない欠点をも持っているのです、その中の一つの方法だけによって、一方的に、理想の保育者はかく／＼でなければならぬと決めてしまうことは危険です。どの方法にも偏らずこれらの方法がそれ／＼の立場において与えてくれる多くの示唆に富んだ資料を参考として総合的に考察することが必要です。勿論、完全な理想の保育者の資質を決めることは不可能でしょう。たとえ決めることが出来たとしても、私達は完全な理想の保育者になることは出来ないでしょう。けれども多少でもよりよい保育者になろうとする者は、その時代の、その社会の理想の保育者となる為に、その修養の目標として、理想の保育者の資質について絶えず研究しなければなりません。

私は理想的保育者の資質を決める為の一つの参考資料として、帰納的方法による調査を行いました。それは幼稚園の園児の保護者一〇〇〇人について、「どんな先生をよい先生と思うか」「どんな先生をよくない先生と思うか」と云う問を發し、その回答を得、それによって彼等の望む良い保育者がどの様な者であるかを調べたのです。詳細は(文献5)を見て頂くと致しましょう。

さて、保育者として望ましい性格とか資質とか云う場合、それは決して、所謂「先生型」^{イグ}、「保母型」^{ログ}と云われる様な、版でおした様なきまりきった一つの規格型があるとか云うことを意味するものではありません。およそ保育者として一番大切な性格或いは資質は、何よりも先ず「人間らしさ」と云うことでしょう。人間らしい人間を作ると云う保育においては、人間らしい保育者と云うことが何よりも大切です。「先生も人間である」とか、「先生となる前に、先ず人間でなければならぬ」と云う様なことが云われるのも、この辺の氣持を表わしたものでしょう。それでは、人間保育者として、精神衛生の立場から見た場合、一般的に云って、どんな資質が要求されるでしょうか。

理想の保育者は偏った人ではなく、調和のとれた人であり、横道に逸れた人ではなくて、正道を行く人です。又健康で能率的に働ける身体を持ち、悪意や偏見を持たず、安定した情緒の持主で、楽しく明るく、幼児と共に生活し、幼児と共に遊ぶことの出来る人でなければなりません。更に人間らしい保育者は、象牙の塔に立籠って社会から孤立する人ではなく、物事に対して、社会の人々と共通な関心や理解を持ち、科学や芸術に関する一般的な教養を持ち、又健全な趣味や娯楽を嗜む人でなければなりません。特に幼児を指導する保育者としては、幼児を愛し、幼児に関心を持ち、幼児をよく理解し、子供の発達段階を知り、幼児を尊敬する人でなければなりません。この様な保育者の指導によってのみ、幼児は身体的にも、知

的にも、情緒的にも、社会的にものび／＼と成長発達することが出来ます。

およそ保育者と幼児との人格的關係を大きく分類しますと、次の三つに區別されるでしょう。

1 保育者と幼児との間が、相互の敬愛と信頼によって、よく結ばれている場合

2 保育者は幼児を疑い、幼児は保育者を恐れ、両者の気持が離れてしまっている場合

3 保育者も幼児も、格別お互の存在を念頭におかず、お互に無關心の状態である場合

この三つの型は、勿論、それぞれ最も極端な型を示したものですから、実際の場合においては、この三つが色々な程度で混合しているでしょう。この中で、第一の型が、最も望ましいものであることは、云う迄もありません。幼児が保育者に対して無關心であったりまして、保育者から離れてしまう様では、もはや保育者としての第一の資格を失ったことになります。

それでは、どの様な場合に、幼児は保育者から離れて行くのでしょうか。何よりもいけないのは、幼児にとって、唯恐しい保育者になることです。この様な保育者の前では、幼児は小さくなって、思うことも云えず、したがって消極的な行動をとる様になります。この様な保育者に受け持たれている間は、幼児はおじん／＼した落ち着きのない性格をうえつけられ、裏表のある行動をすることを学ぶわ

けでして、一生の中の最も大切な時期を、日蔭で過すことになります。殊にいけないことは、保育者が自分の感情を統制出来ないで、自分の不平や不満のはけ口を幼児に向けて、あたりちらす様な場合です。これでは、幼児は安心して保育者に対することは出来なく、精神的に極めて不健康な状態におかれるわけです。

けれども、幼児にこわがられない様にしようとして、故意に子供にこびたり、子供の機嫌をとったり、又子供のすることに対して、全く放任したりすることはよくありません。そんなことでは矢張り幼児からの敬愛を受けることは出来ないでしょう。要は、幼児を心から愛し、幼児と共に遊び、一人々々の個性を尊重して、個別的に指導する工夫と努力を惜しまないで、忍耐強く、幼児の成長発達を見守る保育者となることです。子供には子供の世界があります。それを大人の頭だけで片付けようとして、余り功を急いだりしますと、つい叱ってばかりいる様になり、子供は段々、保育者から離れます。植物でも、暖い太陽の恵みによって成長します。子供の成長発達にとって、何よりも大切なものは、保育者の暖い愛情です。こうしたふん囲気にあつてこそ、幼児の精神の健康が保たれるのです。

保育者は、自分の性格、人々が幼児の精神の健康に与える影響の大きいことを自覺して、よりよい保育者となるように、修養に努めなければなりません。たとえ、人間の生れつき―素質的要因―は

變更出来ないとしても、修養と努力によって、保育者としての望ましい姿に近づくことは出来ますから。

五、保育者の精神的健康への方法

幼児の精神の健康を願うのでしたら、先ず保育者自身が健康な精神の持主でなければなりません。保育者も人間である限りは、一人々々異った個性を持っています。けれども、どの様な個性を持っているにせよ、いやくも保育者である限りは、健康な精神の持主であることが絶対に必要であります。

それでは、保育者が精神の健康を保ち、増進するには、どの様な点に注意したらよいでしょうか。次にその主なものを挙げて見ましょう。

1 健康な身体の持主であること。医師の検査を受け、悪い所があったなら、治さなければいけません。

2 適当なりクリエーションの時（余暇）を持ち、スポーツやその他の娯楽、趣味の生活を楽しむゆとりがあること。映画を見たり読書をしたりすることもよろしいが、戸外の運動は、内向性になり勝ちな保育者の生活を外に向けてくれますし、いつ迄も若さを保つことが出来るから、よろしいでしょう。

3 友人を作り、その助力を得ること。数人の友人を持つことはよいことですが、友人は量よりも質であり、信頼出来る者を友達として選びなさい。自分の最も信頼出来る友人（或いは先輩、家族

等）に自分の悩みを打ち開けることによって、慰めともなり、又よい助言が得られるかも知れません。

4 社会に住んで、社会から離れないこと。その為にはP・T・Aの会合において、一般社会の人々と触れることもよろしいし、適当な範囲で流行にそって、服を着ることもよいでしょう。又いつも世界、国家、社会の動向等社会的問題に関心をそいで、自分の意見を持つと云うことも必要です。（社会人として正しい人生観、広い人間的教養を持つ為に）

5 心のわだかまりは発表して、速かに解消させること。しやくにさわるがあれば、社会的に役に立って害にならない、間接的な表現の形式を求めて、それを行いなさい。

6 自分のトラブルに関しては遠慮なく専門家に相談すること。

7 個人的、家庭的或いは経済的生活において不安のないこと。戦後社会の秩序は漸く安定したと云え、保育者の待遇は依然として改然されていない。一日も早く解決されるように努力しなければなりません。正当に主張すべきものは主張すべきですが、反面、保育者が保育者としての立場を確立する態度を持って、自らが保育の重要な意義を認識することが必要です。

8 保育者としての仕事に誇りを持つこと。一人々々の保育者が保育と云う重要な仕事に選ばれ、従事していると云う責任を自覚すること。それによって保育者に対する社会の認識を改めさせ、社会的地位の向上をはかりましょう。

9 園長が保育者に対して民主的態度で接し、又保育者同志の間

が相互に明るい気持ちで尊敬しあい、協力しあうこと。園長はそれぞれの保育者が精神的健康を得るように、助けることが必要です。勿論それぞれの保育者は自分の身体的健康と精神的健康を保つために自ら努力すべきことは云う迄ありませんが、これらの問題は一人々々の保育者の個人的努力によってだけでは解決されないことも多いのです。ですから園長はそれらの保育者の個性や長所をよく理解し、各自の最大限の能力を発揮出来るようにしてやることが大切です。各々の保育者が、園長が、真に自分達を理解し、受け入れてくれていると云う確信に基づいた安定感をもって活動出来る様な状態にすることが必要です。又保育者が自分達の困難な問題や障害を安心して打開け、相談し、親しくその助力を求められる様な態度を持つことが必要です。この様に、園長と各保育者が親しみに満ちた人間関係の中にあつて始めて、保育者は他の多くの困難な条件を克服しながら、よりよい精神的健康を得ることが出来るようになるでしょう。

10 自己を尊敬し、自分を信ずること。この様な人であつて始めて、他を尊敬し、他を信ずることが出来ます。

11 一般社会が、保育者であるからと云つて、ことさらに他の人々と区別した見方をしないこと。

12 特に幼児に関心を持ち、幼児を理解する様に努めること。

13 自己を反省し、自己をまともに評価し、よりよい保育者にな

る為に、たえず自分をみがくよう努力すること。

保育者として最も大切なことは、自分の職業の偉大な価値を認識することであり、信ずることです。幼児の幼い魂をはぐくむことによって、社会は進歩して行きます。この保育の持つ重大な意義を確信して、保育者の使命観に徹することです。そうすれば、比較的、物質的には恵まれないにも拘らず、幼い生命の健やかに伸びて行くのを見ることが出来る所に、他のどの様な職業でも味わうことの出来ない精神的な満足を得ることが出来るでしょう。

参考文献

- 1 平井信義 子供の精神衛生（「保育」第七卷第十二号、一九五二年一月）
 - 2 松村康平、幼児の精神衛生（「幼児の教育」第五二巻第七号、一九五三年七月）
 - 3 西本 脩 保育者の精神衛生（一）——保育者の悩みについての調査——（「幼児の教育」第五一卷第九号、一九五二年九月）
 - 4 宗像誠也 教師の心理（岩波講座「教育学」第二冊、一九三一年）
 - 5 西本 脩 両親から見た理想の保育者——理想的保育者の資質に関する研究——（「幼児の教育」第五二巻第九号一九五三年九月）
- （神戸頌栄保育短期大学教授）

改訂された

「音楽リズムの指導書」にもとづいて



山 村 き よ

昭和二十三年に「音楽リズム改訂委員会」がもたれてから五年越しでようやく今年の五月に文部省からかねて作成中の音楽リズム指導書が発行されました。中味を拝見してまず驚いた一人です。こんなにも簡単にまとまっていたのかと……改訂委員の一人に加えていた私はあの三十何回にわたって熱心に御協議下さった先生方がそれぞれの専門的立場で沢山の資料を示して下さって、御高説のプリントが回を重ねる度に厚く重って行ったことを知っているだけに、資料の中のものをもっともつと沢山皆さんにお目にかけられたらと残念に思う一人です。そういう意味ではあの指導書に印刷されている活字の一つ一つに重要な意味がふくまれているわけで、一字ものこさずに充分よみとらねばならないという感じを人一倍多く持っている者の一人ともいえるでしょう。この「書」が出ない前に中間報告の意味で文部省が全国を三班に分けて説明会をもたれたことがあります。その直後から「資料編はまだか、まだか」としつこく皆さんからたずねられただけにこの本を手にして一番喜ん

だのも又私かも知れません。資料編がいつまでも出なかったために一番多くの問題をもった「動きのリズム」ではあちこちに「イミテーション」とも考えられるような説明書がかかれたり、又発表会をもたれたりして内容は今までの表情遊戯の取扱い方と少しも変わっていないのに「動きのリズム」の改訂されたものとして図まで昔のまのような示し方をしては多方面に発表されたことなどもあってここにも根柢よくはった「幼稚園のマナーリズム」を感じてきた一人です。

そこでもう少し具体的な指導過程、指導の実際を示していただき度いものと再々文部省にもお願いしてみたり資料を提きようしてきたりしましたが、あの頃はCIEの関係もあつたり、又「文部省」の立場としては、又昔のような模倣を主にした「幼稚園の表情遊戯」と同じようなことになるのではないかと心配されてか?……:とうとうのせていただくことが出来ませんであの沢山の資料はどこえやら……ほんとに最後までこの二、三の方々と一生懸命

に協力してきただけに残念に思っています。しかしこれが発行される運びになったことについては他の方々には想像も出来ないような苦心をされた文部省の先生方、ことに初等科の鹿内先生（その頃は中島先生）に感謝しなければならぬと思います。これを手にした人達の中には「なあんだ、こんな簡単なものだったのか」と思われた方もあるかと思いますが、資料の一つ一つを選ぶにも多くの立派な先生方が、それぞれ専門的立場から選んで下さった尊い御協力を感謝しなければならぬと思います。そしてあの中にもられてあることは、今までの幼稚園の唱歌遊戯の取扱い方とは違ったところに着眼して編纂されていることを充分知って「思いきったきり替え」をして指導せねばならないと思います。そこで次のようなことを考えてみました。詳しいことはあの指導書を充分およみ下さればわかりますので私は大体の着眼点のみを引き出して、それに適當する実際の指導例をのべてみたいと思います。

(1) 目標の中から、

幼児に「いろいろの音楽的経験を与えて美しい心情を養い、幼児の生活を豊かにする」このいろいろというところに新しい着眼点がおかれているわけです。

(2) 指導過程の中から

- 1 聞くこと
- 2 歌うこと
- 3 ひくこと
- 4 動きのリズム

右にあげられた四つのことの二つ二つが次に示すように「基本的

なことがら」を考慮しながら指導されなければならないのです。

イ 幼稚園の中に「いつ」「どこにでも」自然と音楽的気分が味はえるように充分な用意を必要とします。

ロ 機会をとらえて指導をすることも忘れないように、又幼児の即興的な作詞、作曲などみつけ出さねばなりません。

ハ 多面的な取扱いをする。

一つの材料を歌うだけでなく、歌って、おどって、リズムにのって気持ちのまゝに自由に表現出来るように誘導しなければなりません。

ニ より音楽を沢山させること。

今までの幼稚園では割合にきくことが困難とされていたように思うので、きくやすい環境におくこと、レコードばかりでなく幼児が興味のもてるようないろいろのものをつかって「きく生活」を多く考えて指導せねばなりません。

ホ 音楽によってそれぞれの個性をのばしてやらねばなりません。

へ 大きくなって役立つような音楽的発声その他の基礎を養うことに努力せねばなりません。

ト いつも幼児の成長発達段階に充分注意して「無理」のない指導をしながらある程度の「評価」が常に先生の頭の中にはつきりと考えられて居らねばなりません（昔は気分のままに歌っていて歌詞が少々まちがっていても、音程がはずれていても割合に気にしないで次に進んだようにも思われます。）

(3) 評価の中から

○幼稚園でも家庭でも自分から喜んで音楽をきく様になったか。

○音楽に対して自由に反応する力ができたか。

○静かにしてきく習慣ができたか。

○らかな声で歌うようになったか。

○ことばをはっきり歌うようになったか。

○リズムを正しく歌うようになったか。

○音程を正しく歌うようになったか。

○ひとりで歌うようになったか。

○音楽をきいて、顔に表情を示したり、からだを動かしたり、運動を起したりするようになったか。

○速度を正しく歩くようになったか。

○大きく、のびのびとした動きが出来るようになったか。

○リズムカルなうごきを楽しむようになったか。

○音楽に合わせて正確に楽器が打てたか。

○幾種類かのリズム楽器が打てたか。

○楽器を大切にすることができたか。

○合奏において協同的態度ができたか。

(附)

音楽リズムで先生方が一番苦心され、相当地に重要視して考えて居られるのは遊ギ会とか学芸会、誕生祝会などに見せるために「上手にさせ度い」「ほめられたい」という気持ちから幼児には程度の高すぎる要求をもって居られるのではないでしょうか？ 幼児の興味、活動を中心に無理のない指導過程が順序よくくりかえされた上で、その基礎の上に立って程度の高いものに進むべきであって、常には基礎的な指導もなされずに気分のまゝに行っていて、遊ギ会とか、

学芸会の近くになると「せっかちに」同じことを何回もくりかえし練習しては出来上りの「うまさ」ばかりを求めているような指導法にひきずられているお子さん達を度々見かけます。(四、五才の小さい子供に「茶のおぢさん、白雪姫、その他程度の高い幼児の生活には縁遠いようなものを一生懸命練習させて」)

次に新しい音楽リズムの指導書にもとずいて「四月」入園したばかりの幼児を取扱う實際例をかんたんにのべてみましょう。次に示すようなことが先生方に沢山用意されていて計画的にくり返し、くり返し指導されて五月、六月、と進むにつれて効果を表わして、七月の七夕祭には何んらの練習もせずそのまゝの姿で舞台にのせられるべきだと思えます。

(指導の實際例その一)

入園当初は個人差のある家庭環境から音楽生活にも非常にまちまちな生活をしてきているのでことさら幼稚園の生活の中には自然に音楽が流れるよう用意しておきます(朝のラヂオ「歌のおばさん」先生の歌声、レコードなど)

(→アンダンテの速度で歌ったり、手をたたいたり、歩いたり、スキップをします。

○音楽をきいて手をたたく。

○自由にすぎなようにあるく。

○歌いながら拍手をする。

○いばってあるく。

○すましてあるく。

○ハンドカスターをたたきながらあるく。

○お友達と二人であるく。三人であるく。

○手をつないであるく。手をふってあるく。

○ならんであるく。

○歌いながらあるく。(靴がなる、結んで開いてなど)

○スキップをする。

○手をたゝきながらスキップをする。

○ハンドカスタをたゝきながらスキップをする。

○二人でスキップ、三人でスキップ。など。

○以上のようなことは先生が先頭につかないで(昔のように)子供達だけで先生の正しくひくピアノの音や、リズムのはっきりした曲のレコードに合わせて毎日楽しくくりかえしながら先生の頭の中には始終次のような評価をしながら五月に進みます。

(評価)

○先生のひくピアノの曲や、レコードに合っているかどうか。

○レコードや、先生のひくピアノ、又は歌声にだまって耳をかたむけているかどうか。

○音楽に反応している様子が見えているかどうか。

○幼稚園の中に自然と音楽が流れているかどうか。

○音楽リズムの指導を喜んでうけているかどうか。

○以上のような過程を通った上で次のような計画的なまとまった指導もいたします。

(指導の実例その二)

○主題 「さくらのトンネル」

(目標)

新しい子供を対照に唱歌「さくら」を指導しながら、曲に合わせて歩くうちにアンダンテの速度感を完全に体得させます。

(第一次指導)

○唱歌「さくら」(文部省指導書ⅠP)を先生のピアノでメロディ

ーだけきかせたり、歌ってきかせたのち、みんなで歌います。

(きれぎれに指導するのではなく始めから終りまで一度になんべん

もくりかえしながら)

○手をたゝきながら歌います。

○年長組の子供がいたら「桜のトンネル」をつくらせます。(でなければ一番せいの高い子供を選んで自由につくらせます)

○歌いながら「さくら」のトンネルの門をくぐって通ります。

(第二次指導)

○二人で手をつないで歌いながらトンネルをくぐります。

○さくらの花をみながらトンネルをくぐります(二人で手をつないだまま)

○(年長組幼児がトンネルをつくっている場合は、ときどき風にさく

らの花びらがゆれるように暗示を与えます)

(第三次指導)

○みんながさくらの花になったつもりで足ぶみしながら輪になります。

○(年長組幼児がいる場合は花輪つなぎを連想させて輪になりチェ

ーンのように一人おきにぬって歩く。新入園児は歌いながら拍手

をする)

(評価)

○先生のひくピアノに合って歌えたか。

○歌詞をはっきりおぼえたか。

○曲に合せて歩けたか。

○歌いながらあるけたか。

○音を意識して歩いていったか。

○みんなが喜んで参加していたか。

（指導例その三）

◎主題「いあいさつ」

（目標）

新入園児がお友達と「おはよう」の挨拶も自然にできるように、しかも楽しいリズムにのせてアンダンテの速度感を完全に体得させます。

（第一次指導）

○先生のひく正しいピアノの音に合わせて「靴がなるの」唱歌を歌います（歌いながら歌詞のまちがいを直します）

○拍手しながら歌います。（歌詞をはっきりと）

○さあ、これからみんなで元氣よく幼稚園に行きましょう。（歩きながら歌う）

○いろいろな路を通して元氣に歌を歌って行きましょう。（自由な方向にピアノ音に合わせて歩かせる）

（第二次指導）

○お友達に出あったら止って「おはようございます」のあいさつをしましょうね。

（先生は曲の都合のよい所でピアノを止めます、少しはなれてい

てもかまはない）

○みんなの言葉だけはっきりとあいさつをしながらおじぎをする。

○さあ、また歩きましょう、こんどはなるべくお友達にあえるように歩きましょうね。（先生のピアノの音で歩きます。こうしたことを二三回くりかえす内にピアノが止ったらすぐ止る、なり出したら歩き出すように指導する）

（第三次指導）

○幼稚園の御門が見えたからスキップでいきましょう。（ピアノに合わせてスキップ）

○又お友達にあったから「いあいさつ」をしましょう。（さっきのくりかえし）

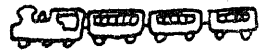
○幼稚園の先生が見えたからお友達と二人でスキップしながらそばに行って「いあいさつ」をしましょう。

（みんながかわるがわる幼稚園の先生になってアンダンテの速度正しく歩く）

○幼稚園の先生にはみんなが自表な表現をするように暗示を与えます。

○曲を止めて、「先生おはようございます。」

以上は「たあいなあいさつ」であるけれど幼稚園生活第一歩の新入園児は喜んでリズムにのってきます。時には歌をやめて「曲だけ」で自由に表現させてもよく、レコードをかけて子供達同志で面白く、楽しんで音楽に反応しています。評価は前の場合と同じで四月中にこれだけのことが完全にできて次に進み「アレグロの速度感」「速度の変化」「動きのリズムに入る自由表現」（41頁に続く）



冬の室内衛生（暖房其他の注意）

—— 厳寒に耐えられる抵抗力を強めるために ——

廣

瀬

興

冬が近づくと、誰しも火鉢が恋しく、室内の生活が多くなりま
す。ことに、体の弱い万事に、消極的な幼児は戸外の遊びを嫌い、
日光や外気に触れる機会は少く、一層、抵抗力を弱める原因となり
ます。何んと云っても、厳寒に耐えられる丈夫な体力は初秋の頃よ
り努めて、薄着で戸外を飛び歩き、外気と日光に充分に触れる習慣
と、好き嫌いなく何んでもよく食べること、よく安眠をとらせるこ
とが第一です。

しかし、乳幼児は寒風の吹きすさむ雪深い北国地方などでは厳寒
ともなれば、勢い、室内にとじこまざるを得ません。従って、私共
は冬に向って、どうしたなら、室内でも保健的生活をしてゆくこと
ができるかをよく知っておくことが大切です。

▽暖房の注意 第一に、冬の室内生活で最も注意せねばならな
いのは、暖房の問題でしょう。室内に暖房を用いなくても済むよう
な時はよいが、無理をして用いないと、却って、寒さのため厚着し
たり、或はそのため運動が不活潑となったりすることになります。
室内を適当な温度に保って快適にしてやるのが賢明です。

一般に、我国では暖房としては火鉢、炬燵（こたつ）、薪、石炭な
どのストーブがありますが、いずれにしても、その室の構造によっ
ては余程注意せねば相当の害毒となります。在来の日本家屋で室も
広く、板張の天井、紙障子であれば、自然に空気の流通もよく、室
内空気の清浄も比較的よく保たれるが、近頃のように洋風の建築に
なり、壁やガラス障子で密閉されると、僅かの火鉢やこたつの有毒
ガスでも中毒を起すことがある。しばしば経験するのは応接間で煙
突のないガスストーブを使用する時でありましょう。頭痛、めま
い、嘔気、失心など起すのはその適例であります。

一体、木炭にかぎらず、たどん、煉炭、石油、石炭、それから、
お勝手のガスでも、兎に角、物が燃えるときはその炭素（C）が酸素
（O₂）と化合してあのような光や熱のエネルギーを出すのですが、そ
のときは全部完全に燃えて了うのではなく、必ず、炭酸ガス（CO₂）と
一酸化炭素ガス CO が残ります。そして、この二つのガスは有毒な
のです。しかし、炭酸ガスの方は平素、生理的に、私共の肺胞内に
5%含まれていますから、室内の空气中に5%以上含まれない限

り、害毒はないものです。そして、普通はそんなに多量になることはないのです。しかし、一酸化炭素ガスの方は極めて微量でも中毒を起させるので危険であります。

一酸化炭素ガス(CO)の中毒は私共がしめきった狭い室で火鉢に当たっているとき、よく経験する頭痛、めまい、嘔気などの症状で、その特長は個人差が強く、人によって中毒に強弱のあること、又、年令が少いほど重い即ち乳児ほど感受性が強いということです。

急性中毒のときは前述のように、前頭部の圧重感から始まり、前頭痛、めまい、あくび、耳鳴り、視力もうろう、歩行困難、痺れん、失心、嘔吐、呼吸困難、チノーゼ(口唇の紫らん色)血圧低下など、逆には心臓麻痺で死に至ります。又、三八—三九度の発熱を伴うこともあります。

慢性中毒はこたつに始終当っている癖とか室内で火鉢にばかり当たっているとか、微量のCOを毎日数時間宛呼吸しているとき起る場合で、却ってこの方が知らず知らずの中に、抵抗力を弱め、病気にかかり易くなり、貧血性黄色調の皮膚、常習性の頭痛を訴え、神経質となり疲れ易く、注意力散まん、記憶力減退不眠症になったりする、小学生など成績が落ちてくる。

CO₂に比してCOは極めて猛毒であって、〇・〇二%で二—三時間内に前頭痛が起り中毒症状が始まる、〇・〇八%では二時間で失心するようになる、〇・一六%で二時間で致死、〇・三二%では三〇分で死に致るほどであります。

では、物が燃える場合どの位のCOが発生するかというと、薪木などの燃火(煙)には〇・一—〇・五%、木炭八・五%、煙草の煙り〇・五—一・〇%、燈用ガス五・〇—一〇・〇%の如く、極めて多量のCOが含まれている。猶、燈用ガス(お勝手のガスも同じ)には

その他ベンツオール、トルオール、煉炭豆炭にはCOの他、亜硫酸ガスの如き有毒ガスが含まれているから一層危険であります。

一般に炭火や煉炭など始め、青い焰や臭いにおいの出るときが有毒で赤熱して下えれば害がないと思っている人が多いが、これは大きな誤りで、青い焰、臭いは前記のような別の有毒ガスでは、CO元来、無色、無味、無臭、無刺激性であることを忘れてはならない。

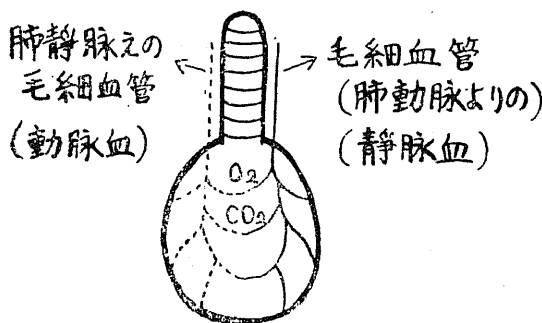
それに、煉炭や炭火は始め毒力が強くだんだん薄くなってゆくように思えるが決してそうではなく、却って、終りになるほど不完全燃焼とCOの環元のため、COは多量に発生するものです。次の表によってその様子がよく判ります。

煉炭ストーブ燃焼の経過中発生するCO量

経過時間	発生量(%)
1	0.22
2	0.21
3	0.15
4	0.23
5	0.02
6	0.05
7	0.13
8	0.39
9	0.78
10	0.82

即ち、径15cmの孔明煉炭ストーブを燃焼させその直上で燃焼ガスを採集分析したもので、初期(第1—2時)と最盛期(第3—7時)と衰える時期(第8時以後)の三期の比率が、四—一—一五の割合になっていることに注意しなければなりません。最後に近くに從って却って毒力が強くなってくるというわけであります。

以上のような理由で、どんなストーブでも必ず煙突をつけることは絶体に必要です。よく、応接間に煙突のないガスストーブをみうけますが実に危険です。又、高温高湿で密閉された室内でガス風呂に煙突もなかったら、気分が悪くなり、ぶっ倒れるのは当然です。この冬、石油コンロが流行した頃、乳児の吐乳や消化不良、肺炎の原因になったことをしばしば経験しました。肺炎患児の室内に夜通



し火鉢を置いてはどんなにベニシリンを打っても、なか／＼、治りません。又、乳児を夜中コタツに寝かせて死に至らしめる例も稀れではありません。こんな重い例ばかりでなく、冬中、火鉢やコタツに子供を当らせておけば、所謂、慢性中毒となつて体質は悪くなり、抵抗力は弱まつて、感冒にかゝり易く、食欲は進まず、病氣にばかりかゝること、なります。

冬はお天氣のよいときは寒くとも成るべく戸外に出し、日光にあて、良い空気を吸わせること、室は時々あけて換氣に注意すること、殊に寝る前には必ず室内の空気を交換するか、欄間をあけて寝るようにする。乳児などは湯タンポで暖をとつて寢室には火鉢やストーブをおかない方がよい。病室も同様であります。

一酸化炭素ガスの中毒の原因は血液の中の酸素の欠乏が主因です。私共が呼吸作用を営むとき肺胞内でガス交換即ち体組織内を流れて来た汚れた血液(静脈血)が肺胞周囲の毛細管を通るとき、吸氣によつて肺胞内に入った酸素と交換されます。静脈血球中の炭酸ガスは肺胞内に発散し(即ち前

述のように、肺胞内には常に五%存する理由)反対に、肺胞内の酸素は肺胞壁を通して血球中の血色素と結合する力(親和力という)のあるため血球内に侵入します。そして、今迄の汚い静脈血を清い動脈血に変えて了う。そしてその動脈血は肺静脈となつて心臓の左心房次で左心室に入り更に臓収縮によつて全身の組織に酸素を供給するのであります。

ところが、もし、 O_2 と同時に CO を吸入すると O_2 が血色素と結合する親和力より CO と血色素の親和力の方が三百倍も強いために O_2 をおしのけて CO の方が血球内に侵入し O_2 の少い血液となつて、心臓に入り次で全身の細胞に循環することになり、酸素欠乏状態となるわけです。これを細胞の窒息と云います。そのために、あのような全生理器官の障害となるのです。

それ故、 CO 中毒のときは室内に新しい空気を入れ、人工呼吸を行つたり、ビタミンCや輸血したりします。また、冬、室内生活の多い時期は殊に乳幼児は努めて室外に出すこと、果実や新しい野菜などビタミンC豊富のものを与えることが必要で、これを怠ると知らず知らずの中に、上記の理由によつて、全ての生理作用が衰へ、抵抗力が弱まり、病氣にかゝり易くなるのです。

▼塵埃を少くすること 次に注意すべきは、埃塵(ほこり)の問題です。冬期、日本家屋の疊の生活は特に注意せなければなりません。扁桃腺肥大、引きては感冒やその他呼吸器病の原因となります。また、過敏性(アレルギー)の児は喘息の原因ともなります。

また、家庭の職業によつてはことさらにほこりの出るものもあります。例えば麻裏の内職、綿をあつかうもの、農家のわらづくりなどいろいろあります。これらの家庭は乳幼児に対して特に注意してやらねばなりません。枯草熱と称して枯草を扱う季節に発病する

一種の喘息性疾患すらあります。トラコーマなどもほこりの多いことが禁もつです。近年は蛔虫卵もほこりによって媒介されるものが多いと云われております。鼻汁中に蛔虫卵を発見したり、母乳栄養の生れて間もない乳児が蛔虫を排出するなどはほこりが原因しないとは云えないでしょう。

一般の家庭のみならず、幼稚園保育所なども注意すべきで、努めて、ほこりの少い保育をするよう工夫をすべきで、室内の掃除も、湿った新聞紙とか鋸屑を撒布した後清掃するがよい。勿論、時々換気して新しい空気を入れることを忘れてはならない。

マ室内の乾燥を防ぐこと 室内の暖房やほこりに関係のあることは室内の乾燥度です。兎角、火鉢やストーブを用いると室が乾燥し、従ってほこりが多くなるものです。そればかりでなく、極度に乾燥すると扁桃腺や咽喉を痛め、引いては呼吸器病の原因となります。

私共の環境氣候の良否は温度と湿度と氣流の三つの組み合わせの良し悪しで定めます。冬期は室外の空氣すら乾燥しがちですから猶更、室内の乾燥を防ぎ、ストーブや火鉢の上にやかん其他をのせて、適度の濕氣を保つようにすべきです。

正確に云えば、室内の最適氣候は濕度計の濕球度が華氏五六一六〇度の時です。

▽日光を充分とり入れること 日光の問題も重要であります。

冬期は戸外でも日光の紫外線の不足勝ちの時であるから、ましてや室内生活には特に注意すべきであります。

私共の健康に最も必要なのは日光光線中の紫外線の中でも、波長三二〇—二九五〇Å (オングストローム 10^{-10} cm) で、これを研究者の名に因んでドルノ線といっています。紫外線が不足すると

体内にビタミンDが減少し、そのため、食物としてカルシウム(石灰分)をどんなに摂っても、それを利用することができず、従って、骨組織の材料であるカルシウムが不足して、骨質に障害が起る。これを佝僂病(くる病)というが、乳児であると頭蓋骨の一部に軟い部ができた、肋骨と肋軟骨の結合部が腫大して念珠のようになり、多汗症、脾臓の腫大、脚彎曲、関節腫大が起ったりします。幼児になっても鳩胸、漏斗胸、背柱彎曲、虚弱體質を残します。このようなはっきりした症状が出ていなくともレントゲン検査すると漸く判る程度のものであるわけです。このような乳幼児は極めて抵抗力が弱く、かぜ引き易く、又、他の病氣にもかかり易いばかりでなく、かゝると重くなります。肺炎のとき、ペニシリン療法しても癒らないような幼児は多くはこんな體質のものです。

この病氣は東北や北陸地方に多いわけですが、近年、関東は勿論、九州方面にもぞく／＼発見されています。それは検査が発達したこともありすが、住宅や栄養など環境がだん／＼悪くなったためでもあります。アパートの北側の生活や、樹木の下に住居など注意せねばなりません。

くる病はビタミンDと紫外線との三角関係ですから、栄養としてビタミンDの多い肝臓類、人参、青菜のような有色野菜、干した鰯、鰯など、干椎茸、ビタミンAD剤、肝油など有効です。

それ故、冬期には、室内に努めて日光を入れることです。ガラス越しの日光はトルノ線がガラスに吸収されて無効となります。先年、東北のある鉱山の不良住宅改善のとき、破れ障子を全部ガラスに代えたところ、却って雪の時期に室内生活が多くなり、くる病性體質の乳幼児の多く発生した例があります。

ドルノ線の透過率(%)

(38頁に続く)

クリスマスのおはなし

と 幼児

上 沢 謙 二

マ繰返されて飽きたお話

年毎にクリスマス

スがめぐってくる。今年も千九百五十三回目のクリスマスがめぐってくる。

クリスマスがくる毎に語られるのは、キリスト誕生のものがたりである。しかも、幾度くりかえされても飽きないのは、キリスト誕生のものがたりである。何千回何万回語られて、その度毎に、小さなつぶらな瞳をかがやかせ、まばたかせたことだろう。

だから、キリスト誕生に関するものがたりは、おそらくかぞえきれないほどあるだろう。実にいろいろな人によって、いろいろな書かれ、作られた。

マクリスマス・トリイの話 ものがたりとして最もあらわれたのは、チャールズ・デッ

ケンスの「クリスマス・Carol」と、ヘンリー・ヴァンダイタの「ゼ・アザ・ワイズマン」であろう。しかしいずれも結構が複雑で場景が曲折して分量的にも長く、子供へのお話としては、必ずしも適当でない。

ものがたりの世界から降って幼児ばなしの世界へはいると、よく取りあげられる題材は、クリスマス・トリイである。これに関する童話はずいぶん多いが、汎く知られているのはアンダーセンの「フアー・トリイ」である。

山に生えた樅の木が、町の華やかな生活とクリスマス・トリイの話を聞いて、そこへいきたいとあこがれる。遂に望みが叶って有頂天になっていると、お祝いは終って、トリイは棄てられて焼かれる。灰になりながら「ああ

やっぱ山にいたほうがよかった」と思う筋である。こういうような行き方の童話は他にも少なからず見られるが、ジョーヂ・コーの「仕事を見つけたもみの木」も、大体似ている。但しコーのは、山のもみの木がクリスマス・トリイになって「ああ、自分のような小さなものでも、神さまはちゃんと仕事を与えてくださる」と悟ったところで終りになっている。

ところが、ノルウェーの伝説に「小さいもみの木」というのがある。森の大きな木の中に生えた一本のもみの木が、じぶんが小さくて、何の役にもたないことを悲しんでいると、そばの白樺が「クリスマス・トリイになれるかも知ない」と教えてくれる。わけはわかかったが、もみの木はそうなりたいたいと思っていると、或る日、子供が来て、伐られて家へもっていかれて、クリスマス・トリイになる。びっくりしてよろこんで「ああ、私は何の役に立つのかわかった。そうだ、私は人間の子供たちを楽しくさせるためにあったのだ。私は小さくておとなしいから」とひとりごとするところで終っている。アンダーセンの「フアー・トリイ」と構想に共通なところ

がある。或はアンダーセンはこれに負うところがあるのではなからうか。

クリスマス・トリイの伝説もたくさんあるが、ドイツに伝わる聖ウィルフレッドに関するものが、いかにも童話的である。彼が伝道のため、雪の日に蝨地をあるいていると、雪神の木と信じている大きな樅を叩んで、泣きながら娘を人身御供として殺そうとしている土人たちを見たので、彼等に真の神の愛を説き、樅の木を伐り倒した。おどろきよるこんだ土人たちは、伐ったあとへ生えた新しい樅を、天幕へもってかえって祝った。それが、クリスマス・トリイの起りだというのである。

マサンタ・クロウズの伝説 子供が待ちかまえているクリスマス・プレゼント。その世界的分配者ともいべきサンタ・クロウズの童話は実に多いが、取立て、代表的というようなのは見当らない。

しかし、伝説には代表的なのがある。小アジアのミラノの監督聖ニコラスにまつわるそれである。情け深いニコラスは始終人を恵んだが、当の相手にさえ知れないように、いつもそつとやった、年を取ってからは、白い長いひげをはやして、白い馬にのってあるい

たが、子供が大きなので、よくいろいろなものを分け与えた。彼が死んだのは十二月で記念の祭をしたが、それがいつかクリスマスといっしょになって、セント・ニコラスという名はサンタ・クロウズに変わり、白い馬は馴鹿カールになったというのである。

マチャイルド・クライスト

子供のクリスマス——即ち「チャイルド・クライスト」に関するものがたりは数多くあって、ブラッドフォッドは「チャイルド・クライスト・テールズ」という本を著わしているくらいだが、中で、聖クリストファーの伝説が流布されている。力の強い彼は、世界で一番えらい王様に使えようとして、方々がして、結局クリストがそれだとわかったが、どこにいるかわからない。或る賢い人に「川を渡る人たちを渡してやれば、クリストに遇える」といわれて、岸に小屋をつくって住んで、大雨大風の日でも、よるこんで渡してやる。或るあらしの真夜中に、ひとりの子供の声を目をさましてとびおき、肩へ乗せて川へはいったが、その重いこと。やっと向岸へつくと、それが子供のクリストだったというのである。

それから、子供のクリストはクリスマスの

前の晩、あわれな姿の子供になって、トリイが飾られ、御馳走が並べられた方々の家の戸をたたく。けれどもことわられる。遂に貧しい一軒の前に立つと、迎え入れられて親切にされる。そうして夜中になると、俄に部屋じゅうがかがやいて、あわれな子供は子供のクリストになって、貧しい一家を祝福する。こういう筋のお話は幾つかあるが、比較的ドイツに多いようである。

マスペインとロシアの伝説

駱駝に乗ってほるばる山、川、砂漠を越えて旅してくる博士たちは、幼児の興味をひく題目である。前記の「ゼ・アザ・ワイズマン」は、それに取材したものが、スペインの伝説「クリスマスの王さまたち」や、ロシアの伝説「ババウスカおばあさん」も、それに因んだものである。

前者は、或る町の路次の貧しい長屋の子供たちが、同じ長屋に住むおばあさんから、クリスマスにおくりものをもってくる王さまたちの話をきく。ところが、そこへは一度も来たことがないので、無邪気な子供たちは遇って連れてこようと思つて、町の外へ迎えにゆく。夕方になつても来ないので、みんなかえ

つてしまふが、ひとりの子供だけ残つて、乗つてくる動物にやる草を取つて待つているととうとうやつてきて、子供の案内で、はじめ

て路次へはいって行く。それから毎年王さまたちが来て、貧しい子供たちも毎年おくりものをもらえるようになったという内容である。後者は、雪のふる晩、一軒家の中に、ひとりバブウスカおばあさんが火にあたっていると、三人の老人が戸をたゝいて「神様の赤ちゃんがおうまれになったから、お祝いのおくりものをもつていくのだが、いっしょにいかないか」と誘われたが、ことわる。しかし翌朝になつてから思いなおして、おくりものをもつて出される。けれどもどつちへいっていいかわからない。道ゆく人に聞くと「もつといけ」といわれるので、大いそぎであるいて、今もまだたずねまわつてゐる。クリスマス前の晩になると、このおばあさんは一軒々々へはいって行って、キリストへあげるはずのおくりものを、代りに、その家の子供の枕もとへおいていく——というので、この伝説はクリスマスのおくりものとも関係することになる。

マクリスマスの話の話し方 このようなク

リスマスのお話を幼児に話すとして、どんな心が必要だろうか。

問題になるのは、時代が隔たり、場所も隔たつてゐるということである。だから、風俗習慣がちがう。まずそれを理解させなければお話の中で、時々「わからないこと又はもの」にぶつかつて、全体としての興味は減じ、印象は薄れ、感銘は弱まる。つまり充分な効果は發揮されにくいことになる。これは、話者として考えなければならぬ。

ところで、見馴れない、聞き及ばない、ちがつた風俗や習慣を、一々説明して理解させることは、少年少女ならまだしも、幼児の場合には到底困難だろう。だから、幼児の場合には、こういう風俗や習慣には全然ふれない方がよい。それはヌキにして、お話を進めるのである。特別に現代化しようと努める必要はないが、尠くとも現代の知識に合わないもの——もっと適切に言えば、現代の幼児の理解と興味を超えるものは取入れないことである。そうでないと、正しい幼児ばなしにはならないだろう。何となれば「わからない幼児ばなし」なんてあり得ないからである。だから、こういう点は思いきつて切り棄て、よい

と思う。

次に、キリストの取扱方である。キリストは神のひとりごで、常人とはちがう。そこに独自の意味があり、独特の使命がある。だから、話の中でも他のものと区別して取扱われねばならない。たとえばキリストに関する限り敬語的尊称的な言葉を使わなければならないとか、キリストがあらわれる場合は、話し方を特に莊重にしなければならないとかいうようなことである。これはキリストを救主と信ずる信仰から發生したもので、一般的な問題とはいえないかも知れないが、とにかくこういう問題が存在する以上、話者としては一応考へてよいことだろう。

キリストが救主であるかどうかは姑く措くとして、彼が偉大な人物であることは、クリスマスのお話をするほどの人ならば、誰でも認めてゐるだろう。だからこそ、彼の誕生のお話をしようという気になるのだろう。偉大な人物に対して、尊崇の思が湧き、敬慕の情が生まれるのは自然である。その思と情を自然にお話の中にあらわせばよい。否、話者が裏に抱く思と情とは、自然にお話の中にあらわれないではないのである。敢てもったい

なくしようなどすると、そのお話は硬い窮屈なものになってしまうだろう。実は、キリストを神のひとりごと信ずる者が、キリストのお話をするすべし、どうしても、もったいなく荘重になるだろう。それはそれで自然なものである。要するにお話は自然を尊とぶ。「敢て」という人為的な按排が加わると、味いも力もなくなってしまう。

そこで話者としては、心にあるままのキリストを語ればよい。二千年前の離れた人物でなく、特にもつたい存在でなく、今、自分が感じ考えているキリストを、ひたすらに話せばよい。そうすれば、二千年前の、遠いユダヤの人物は、今、ここに生きてくるのである。そうすると、聴く幼児たちも親しみを感ぜ、興味が湧き、印象を生み、感化を受けるようになるのである。話者は、キリストを幼児のものにし、幼児をキリストのものにしなければならぬ。それには遠く離すよりも近づけること、高く挙げるよりもそばにひきよせることである。

マ、幼児はなしの二つの見本　　そういう立場から話されたクリスマスのお話を、一つ見本として掲げよう。

「むかしむかし、若いおじさんとおばさんがいました。おじさんの名はヨセフ、おばさんの名はマリヤといました。ある時、御用があつて、ヨセフさんとマリヤさんは遠くへいくことになりました。それで、マリヤさんは驢馬にのつてヨセフさんは驢馬をひいて出かけました。原っぱをとつて、お山をこえて、川を渡つて、カッポカッポといきました。そうして、そこへつくと、もう夜になつて、まっくらになりました。マリヤさんはとても疲れたので、宿屋へいって、トントンと戸をたたいて『もしもし、今晩ひとばんとめてくださいませんか』というと、中からへんじがあらました『だめだめ、お客がいっぱいだからだめですよ』それからほかの宿屋へいって、トントンと戸をたたいて『もしもし、今晩ひとばんとめてくださいませんか』という、中からへんじがあらました『だめだめ、お客がいっぱいだからだめですよ』『困つたな』ヨセフさんは方々見ると、むこうにあかりが見えました。『ああ、あそこへいってみよう』。いってみると、そこは宿屋でない、うまやでした。うまやですから、人はいません。中にいるのは、馬や、牛や、羊でした。けれ

ども、ヨセフさんも、マリヤさんも、馬や、牛や、羊がすきでした。それでドンドン戸をたたきました。『もしもし、今晩ひとばんとめてくださいませんか』。そうすると、中からへんじがあらました『よろしくございます、ヒーン』『いらっしやい、モー』『おはいりなさい、メー』『ありがとうございます、それでほめんどください』。それでヨセフさんとマリヤさんは、うまやの中へはいっていつてやすみました。だんだん夜中になると、馬さんも、牛さんも、羊さんも、ぐうぐう眠りました。けれども、ヨセフさんとマリヤさんは眠りませんでした。だって、とてもうれしくて眠れなかつたのです。どうしてつて？。かわいひ赤ちゃんが生まれたのですもの。ヨセフさんはお父さんに、マリヤさんはお母さんになつたのですもの、ね。赤ちゃんはオギヤアオギヤアと、元気な声を出しました。『この赤ちゃんに何という名をつけようか』と、ヨセフさんがいうと、マリヤさんは『イエスとつけましょう』と、答えました。赤ちゃんは『イエス』という名がついたのがうれしいように大きな声で、オギヤア、オギヤア！といいました。その声に、馬さんも、牛さんも、羊さ

和歌俳句にある「雪」

石井庄司



朝、雨戸を繰って「雪!」といえ、こどもはすぐ庭にとび出して、犬と共にかけ歩く。そういうげんきなこどもを扱っておられる方々に、日本の古い和歌や俳句に見える「雪」の話をするにはむずかしい。編集の趣旨に合っているか、どうかわからないが、少しく思い出したことを書きつけてみる。

今を去ること千二百七十年のむかし、大和の飛鳥清御原の宮におられた天武天皇は、そこから程遠くないお里においで藤原夫人に一首の歌を送られた。

わが里に大雪降り大原の古りにし里に降
らまくは後

天武天皇

「わが里」とあるのは、天皇の居られる宮居をさし、今の飛鳥小学校のあたりといわれる清御原の宮のこと。そこに、今朝は大雪が降った。まことに美しいながめであるが、さて、そなたの居る大原

の古びた里に降ることは、まだまだあとのことであろう。どうだ、このすばらしい雪景色は、さだめし羨しく思うことであろうというように、天皇は上機嫌で、やや軽く藤原夫人をからかうような、即興のざれた気分の作。一首の調子の上にもそれがよくあらわれている。また雪を珍しがった大和の宮廷の生活もうかがわれる。

これに対して、やがて藤原夫人からは左のような返歌がきた。
わが岡のみづかみ霨神に言ひて降らしめし雪のくだ
けしそこに散りけむ

藤原夫人

夫人の居られた大原は、今の飛鳥小学校の東、飛鳥神社の下を通っていくと約一キロぐらいのところの岡の村で飛鳥村小原の地。夫人は藤原鎌足の女で、五百重いほのあむら娘といい、新田部皇子の母、大原大乃自といわれた。夫人は、後宮に仕える職で、妃につぐものであつた。

さて夫人の歌の意味は、都には大雪が降ったとて大よろこびの天皇に對して、実は、わたくしがこの岡にいる龍神にお祈りをして降

らせた雪からそのまたほんのかけらがそちらの都に降ったのでございましょう。それを「大雪降り」などというわけで、親愛の情こまやかな天皇のお氣持にぴったりと合ったよい歌である。琴瑟相和すというのもこうであるかもしれない。くつろいで軽い氣持のとき、いやに真面目くさって堅くなられたのではやりきれない。實によく呼吸のあつた歌、それが雪を介して出ているところに、この雪の氣持が出ているというべきか。

それから六、七十年も経って、奈良の東大寺の大仏もできた頃、聖武天皇の皇后、光明子に、左の一首がある。

わが背子と二人見ませばいくばらかこの降る雪のうれしからまし

光明皇后

「背子」とは、女性が男性を呼ぶことばで、ここでは聖武天皇をさす。わが背の君と二人で、ご一しょに見るのであったならば、どれほどかこの降る雪がうれしいことでありましょうということ。しかし、實際はそうではなくて、一人で眺めていることのつまらなさ、さびしさを訴えられたもので、雪というのが一入愛情をかきたてるものだと思うれる。残念ながら万葉集には、天皇からの返歌は伝わっていない。

作者が不明であるが、おそらくは一般の女性の作と思われるものに

わが背子を今か今かと出で見れば洙雪降り庭もほども

奈良時代には、男は妻のもとへ通った。そこで、この作者は、わが愛する背の君が、もうおいでになるか、もうおいでになるかと待ちきれないで外に出て見ると、いつの間に降ったのか、夜目にもはつきりと、庭には洙雪が積っていたという作。光明皇后の作のときとはちがって、言いきかすべき相手もなく、ひとりで自分と自分に口ずさんでいたものかもしれない。雪が積ってキリツと身に沁む心が人を思ふ情感とよく合っているようである。

洙雪のほどもほどもに降り敷けば平城の都しおもほゆるかも

大伴旅人

九州の大宰府にいた大伴旅人は、雪の降った日に、はるかに東の方の平城京を恋しがっている。暖かいと言われている九州にも雪が降る。その雪がまばらに降り敷いている景色を見ると、しきりに都のことが思い出されるという作。今も、東京を離れて遠くに行っている方は、雪の朝など、そういう感傷にうたれることもあろう。

旅人の子供の大伴家持は越中の国守として、今の富山県伏木の港のほとりに滞在した。天平勝宝三年には雪が四尺も積つたとある。

新しき年のはじめはいや年に雪踏みならし
常かくにもが 大伴家持

家持は、正月二日国守の公館に宴を設けてこう歌っている。大雪は豊年の前兆ともいわれているので、めでたいことである。新年には、年ごとに降り積む雪を踏みならして、いつもこうして遊びたいものであるということ。家持は、その後、山陰の因幡の国守になって、そこでまた

新しき年のはじめの初春の今日降る雪のい
やしけ吉事 大伴家持

と、またしても、豊年のしるしとしての大雪をほめている。今日は、めでたいお正月であるが、ときしも、豊年のしるしといわれている雪が降る。この降る雪のいよく積み重なるように、ことしは吉事がいよく重ってくれという意味。家持のこの歌は、万葉集の一ばん終りにあって、家持はその後二十四、五年生きながらえたはずのところ以後の歌は一首も伝わっていない。

さて話はもとへもどって、家持がまだ越中の国守であった頃、宴席で久米広綱という人が平城京での歌を伝え読んだことがある。もとの作者は三形沙弥という人。奈良時代の宴席では、自作でなく他人の作を伝誦することがあった。

大殿の このもとほりの 雪な踏みそね しばしばも 降らざ

る雪ぞ 山の上に 降りし雪ぞ ゆめ寄るなや な踏みそ
雪や

反歌

ありつつも見し給はむぞ大殿のこのもとほりの雪な踏みそね

雪の珍しい平城京のことである。たまたま大雪が降った。そこで、この大殿のめぐりの雪を踏みなよ。度々は降らない雪であるぞよ、山にだけ降って里には降らなかった雪であるぞよ。決して雪に近寄るな、人々よ、踏みなよ、雪はと、さながら人のことばをそのまゝ書きつけたように、長短の句を重ねて、動的な感じを与える。今でいう童謡に近い調べである。もちろん大人の作であるが童心の豊かな作である。この歌の作者が面目をほうふつさせる。

反歌は、このまゝにして、この大殿のあるじがごらんになるであろうよ。この大殿のまわりの雪を踏み消すなというほゝえましい情景、万葉集の数ある作品のうちでも、特徴のある作である。

梅が枝に鳴きてうつろふ鶯の羽白たへに 沫
雪ぞ降る

梅が咲き鶯が鳴くようになってから、思いがけず春雪が降るということもある。それを詠んだもの、作者はわからないが、一種花鳥画を見ような歌で、万葉集の歌の時代的推移を思わせる。

次に平安時代の古今集を開くと次のような作がある。

冬ながら空より花の散りくるは雲のあなた
は春にやあるらむ 清原深養父

「雪のふりけるをよみける」とあるので雪景色ということがわかる。雪を花にたとえて、冬でありながら空から花のように降ってくるのを見ると、雲の向うの天は、もう春になっているのであろうかと面白く述べたもの、ただ技巧だけが目立つ。さきにあげた万葉集は鶯が雪の中で鳴いていることをそのまゝ、景色としてよむのちがった見方である。

同じく雪の景色を見ては、月とみまちがうことをいう。

あざほらけ有明の月と見るまでに吉野の里
に降れる白雪 阪上是則

雪が一面に降り積っているのを、有明の月がさしているのかと見たというので、やはりたとえである。美しいことは美しいが、なにが造り物の美しさで、自然がない。

梅が枝に降りつむ雪は一年にふたたび咲け
る花かとぞ見る 藤原公任

これも、さきの万葉の歌と似たような光景である。梅が咲いて春になったと思う頃、また寒さがもどってきて雪が白く積った、それを一年に二度花が咲いたのかと思ったというあいさつである。全く

のあいさつである、座興にことばをもてあそんでいるので、真実性がとぼしくなっている。万葉集を純真なこどもの心とすれば、古今集や拾遺集は、大人の虚飾である。

小倉百人一首にもあって、皆よく知っておられる、赤人の富士山の雪の歌。

田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の
高嶺に雪は降りつ、

これは新古今集にある形で、いわゆる新古今調という後世風になっているもの。万葉集のは

田子の浦ゆうち出でて見れば真白にぞ富士
の高嶺に雪は降りける

前の方のは、いかにもよい調子になっている。しかし、実際の景色としては、はっきり眼に浮かんで来ない。そこは、万葉集ならば「真白にぞ」といい、「富士の高嶺に雪は降りける」とあって、詠歎している。これは、はっきりと富士の姿が眼の前に見えてくる。

この二首を比べて、万葉集の歌風と、後世の新古今集風とのちがいがよくわかると思う。

和歌の世界は広く、まだいくらでもあるが、一応これくらいにして、俳句に移ろう。

蕉芭の作には雪が多い。

酒のめばいとど寐られぬ夜の雪 芭蕉

深川の芭蕉庵にあって、芭蕉はひとり庵にこもっていた。あまりいけぬ口ながら少しばかり酒を飲むと精神がたかぶって、いよゝゝ寐られない。そこには静かに夜の雪が積っているというのである。芭蕉の独居の生活を詠んだものであるが「いとど寐られぬ」というのはおもしろい。芭蕉といえど枯木のような冷い人と思うかもしれないが、こうして激情的な世界もあるのである。また深川の庵へ友人がたずねてきたときには、

君火をたけよき物見せむ雪まろげ 芭蕉
とも詠んだ。さあ君は火をたきつけよ、私はよいものをお目にか
けようといつて、積る雪をまろげて見せたというのである。

初雪に兎の皮の髭つくれ 芭蕉

「山中に子供とあそびて」とある。雪の日に芭蕉は子供らとあそんでいて、雪をかためて兎をこしらえた、その兎のひげを作ってくれというので、無邪気なこともと一体になってあそびに余念のない芭蕉の姿がよくわかる。このような童心もあってこそ芭蕉のさびも生きてくるというものだ。

初雪や水仙の葉のたわむまで 芭蕉

初雪が水仙の葉にたまって、あの柔い緑の葉に白く雪が積って、

それがやゝたわんでいるという、いかにも細かいセンスの句である。

いざ行かむ雪見にころぶところまで芭蕉
馬をさへながむる雪のあしたかな 同

つめたいものが降ってきたからとて、コタツにもぐり込むような芭蕉ではない。雪の中では、じっとしていられない。「いざ行かむ雪見にころぶところまで」というわけでころぶところまで行こう。そこに自由なのびくした生活が出ている。雪の朝は何もかも珍しい。馬に見とれている。

長々と川一筋や雪の原 凡兆
下京や雪積む上の夜の雨 同

印象のはっきりした句、しかも叙法もしっかりしている。「雪積む上の夜の雨」とはじめてできて、あとをなんと付けようかと迷っていたときに、芭蕉から、「下京や」という五文字を置くことを教えられ、それでこの句は完成したのであろう。下京は、京都の市内の上京と下京のちがいは、東京の山の手と下町といったもの。「下京や」と大きくゆつたりとすわり、そして、雪積む上の夜の雨と冷えびえした感じが出ている句である。

おうくといへど敵くや雪の門 去来
雪の夜の静かな境地を、夜になって訪問客のあることを述べたも

ので、ハイハイと返事しても、まだ伝わらぬと見えて、雪の門をた
たいしている光景。芭蕉の作と比べてみると、また別の感じがでてい
る。

わがものと思へば軽し笠の雪

ということとはよく言われている。ときには、こういう句こそ、本
当の俳句だと思っている人があるかもしれない。しかし、これは、
今日の俳句とは縁の遠いもので、けっきょくは川柳か教訓である。
其角の原作は、

我が雪と思へば軽し笠の上

其角

であって、さすがにこれは詩である。しかも、このちがいは、ち
よつと説明だけではわかりにくい。よく考えてみて下さい。

信州柏原の俳諧寺一茶には、土地柄か雪の句が多い。

これがまあ終の栖か雪五尺

一茶

文化九年十二月二十四日、郷里の柏原に帰ってきたときの感慨。

自分と自分をあきらめるころがある。よくも歌ってくれたと思
う。

雪の日や故郷人のふあしらひ

一茶

は、例の故郷の人をよくいわない一茶のひがみ。こういう暗い感
じの作もあるがまた次のような作もある。

うまそうな雪がふうはりくと

一茶

うまそうな雪とは、まるでたべてしまいたいような美事な雪。そ
れを「ふうはりふうはりと」と言ったところがまたおもしろい。

参考文献

万葉集はいろいろあるが、斉藤茂吉「万葉秀歌上・下」(岩波新
書)

額原退蔵編 芭蕉俳句集(岩波文庫)

荻原井泉水編 一茶俳句集(岩波文庫) (教育大学教授)

(27頁より続く)

普通ガラス(厚2mm)

○

バイタガラス(厚2mm)

三六・〇

セロファン

七六

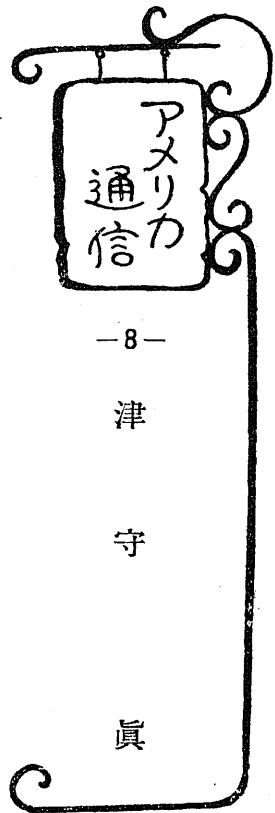
障子紙

四・三一・二・〇

バイタガラスやセロファンの透過性の良いのは結晶性だからであ
ります。近頃、ビニールも良いため温室の障子に使用しています。
従って冬期家庭用の簡易日光浴室にビニールを利用するのは賢明で
す。普通の障子紙の代りにビニールを張ればよいのです。普通ガラ
スの日光浴室は効果の少いことを忘れてはなりません。紫外線は直
日光に当てるのが肝心なのです。

$$(註) \quad 1 \text{ } 10^6 \text{ cm} = 100,000,000 \text{ cm}$$

(母子愛育会福祉部長・医博)



津 守 眞

ヨハネスバークの悲劇のことども

今、アメリカの心ある人々の中で関心の
的になっている問題の一つに、南中央ア
リカのヨハネスバークの黒人問題がある、
或いは日本でも周知の事実かもしれないが
アメリカのニグロの問題も現代尙生きた問
題であるがヨハネスバークの問題はそれ以
上である。此処に金とダイヤモンドの鉱脈
が発見されて以来ヨーロッパ各地特にオラ
ンダから金を目あてに殺到した人々が数百
年来住んでいる、彼らは土着の黒人を駆り
立て、金の採掘に使役しその給料は生活の
資を充すに足りず、ヨハネスバークの黒人
労働者の居住地は貧困を極め道徳頹廢し、

悲惨を極めている。

これに反し白人、所謂ホワイト・ピープ
ルは豪奢を極めた生活をし黒人とは別世界
を作っている。グッチ・リフオーム (Guy
Reform) というクリスト教会が白人
の教会であるが、このドグマによれば黒人
は白人より劣等に作られている故別々に扱
わねばならぬという大変なクリスト教もあ
ったものである。勿論法律によって一切が
区別され、結婚は勿論黒人が白人のものを
侵した時は苛酷な刑が規定され政府は白人
のみを保護して、黒人には教育費福祉費は
一切出さない。政府の方針は明白に黒人を
誅求し、白人を肥せというのである。しか
もヨハネスバークの人口構成は黒人が大多

数で白人は少数なのである。

これらの事はヨハネスバークで仍らいて
きたアメリカ人のミッシェンの人から聞い
た話、多数のミッシェンがヨハネスバーク
の黒人の中に混って働き、この窮状を打開
しようとしている。乍而、暗黒大陸の中
にかくまれた大都市ヨハネスバークは世界
の別天地なのである。私の接する限りのミ
ッドウエストの中流階級は、これらの白人
に非常な憤りを感じている、ヨハネスバ
ークの一黒人牧師によって書かれた「City
the Beloved Country」という本がある。
非常に悲劇の実話が盛られている。

日本で訳されているかどうか知らないが
今、こゝでは大流行である。最近この本に
基いて同名の映画が出来、ミネアポリスで
評判になっている大へんによく出来た映画
である。

今まで数百年つゞいて来たにも拘らず世
界の大衆の眼からかくされていた不義が明
るみに出されつゝあるということは非常に
よい事である、現代このような黒人差別待
遇酷使が公然と行われているなどというこ
とは殆んど信じ難いことであるから、乍而

もう一步更に考えてみよう。一体このよう
な事実を知った者が誰しも黒人に同情を感
じ、白人に憤りを感じる。それは人間の情
である。けれども誰がこんな風にしたのであ
ろう。恐らく最初の白人達は金に目がくら
んで殺到した人々、そして黒人の単純な部
落をめちゃ／＼に破壊して恥じなかった人
は責められるに価しよう。けれどもその子
供、孫達、又その孫達はこのような黒人か
ら一切きりはなされて教育され、育ち、そ
していつか知らぬまに大人になって黒人の
支配者の位置にある自らを発見する。アフ
リカ奥地のヨハネスバークの白人の血をつ
いで生れたばかりに、かくも恐るべき立場
に立たされている、たとえその問題に気づ
いたとしても祖先伝来、うけつがれてきた
社会構成は個人の力をこえて、個人をその
社会の奴隷にしてみよう、その白人達も又
奇しきめぐり合せと云い得るのではなから
うか。この正月の休みに、ミズリー州のパ
ーリヴェルという町で、アメリカ中の新教
の学生の大会が一週間あり参加した会衆三
百人位の中に外人学生が四十人ばかり、お
り、その中にヨハネスバークから来た白人

のオランダ系の女の学生がいた、中々威勢
の良い元気な人でよくしゃべったり議論し
たりしていた。

会の終る頃になって知ったら、この女子
学生が黒人の圧制者たるヨハネスバークの
白人だというわけである。他のアメリカ人
の女の子或いは日本人の女の子と大した変
りがあるわけではない、より残酷だったり
無慈悲だったりするわけでもない。全く同
じ人間なのである。かく生れついた白人も
又気の毒なわけである。さればと云って、
黒人の窮状を見逃してい、というわけでは
ない、われ／＼日本人にとっては世界の最
も果ての出来事であつて、我々には直接縁
遠いこと、云ってすませられる問題であろ
うか。

アメリカのニグロの問題、これはヨハネ
スバークの問題とは比較にならないが、し
かし未だに大きな問題である。南部の差別
待遇は周知の問題であらうが、この北部で
も時々、食堂でニグロに給仕することを拒
否したり、隣の家でニグロの家庭が引越し
てくるのを拒否したりという話を聞くのは
珍らしくない。

これが商売取引、職業の問題になると尙
更である。州立大学でニグロの入学を許さ
ない所が一杯ある。教会ですらも一体ニグ
ロには人間として白人より劣等であるとい
うのであろうか。心理学はそれを否定して
いる。

勿論我々常識としても、人間皆優劣はな
いと考える。白人にも頭の良いのから悪い
のまであるし、ニグロにしても同様であ
る。

ニグロであるが故に劣等であるなどとい
う論理は成り立たない。今アメリカに来て
いる外国人学生は、皆アメリカでニグロの
問題を見て、憤慨する。それは当然であり
斯くあるべきである。アメリカ人自身のこ
の問題に対する反省というのも一九四〇年
以来、急速に進んでいるミネアポリスでは
市長評議会の中に人種問題解決評議会とい
うのが一九四〇年以来組織されており、ニ
グロのみならず各人種に対する偏見と不公
平を除くために極めて活潑に努力してい
る。それらの評議員というのが、我々と始
終顔をつき合せている家庭の主婦だったり
大学の先生の奥さんだったり、牧師さんだ

ったりするのであるから、面白い。昨年と今年と二年に亘って、この市長評議会の議長を務めているのが北川台輔氏という、ミネアポリスの日本人教会の牧師さんで、市民権も持たないのに市長の直接諮問機関の議長をしているわけであるから一寸珍らしい。これらの運動については稿を新めてお話しねばならない。さて、アメリカを訪問する多くの人が、アメリカの人種問題を攻撃するのであるが、日本の国でも同じ事が行われ、又行われようとしている事を我々ははっきり認識しているであらうか。朝鮮人に悪いことは何でもおしつけてしまったり。或いは又最近の黒人或いは白人混血児の問題はどうなることだろうか。

戦後の産物として出来た父なき子であるが故に、或はもとゝの日本人とは異った髪と皮膚と目の色を持って生れて、きたその故にその子供は白眼視されなければならないのだろうか。この子供達が育ちつゝある。そして自己を見た時に青年期になって煩悶するに違いない。この子供達に社会は向その上白い眼を向け、教育の道を限り、職業の道を限るだろうか。社会が白眼を

もって受け容れ、励ましてやれるだろうか。日本の社会で。

幸に、私達のこの問題は、今社会の人々が気がついて出来る限りのことをしてゆけばまだおそくはない。近所の家に、混血児をかくしている家はないだろうか。学校でいじめられている混血児はないだろうか。近所でひそやかにとやかや陰口をきいて

いる人はいないだろうか。皮膚の色が違っても髪の色が違っても、同じ心を持った人間である。

これらの子供達を受けいれられるか否かという事は、日本がこれから世界に立つてゆけるか否かという問題の鍵がかくされている。

(お茶の水女子大学講師)

(23頁より続く)

「自由打ちのリズムあそび」「二拍子、四拍子、三拍子の拍手打ち」などに順序よく進んで、一学期中にこれらのことが「やや完全」に指導されていれば二学期中には幼児達の身についた完全な指導効果が得られるわけです。そして三学期には相当程度の高いリズム打ちや、分奏、の指導にも入れるし、動きのリズムも音楽によく反応した自由表現が楽しくできるようになつてきます。こうした順序を立てての計画的な指導をうけたものが家庭生活にも音楽的な環境に恵まれて成長し、三学期の遊ギ会や学芸会などにすばらしいできばえを見せたからといって「幼稚園にしてはうますぎる」とか「幼稚園で尤うかしいものをやっている」などと批評するのはまちがいで音楽的環境に恵まれた者と、恵まれない者の差は、他の生活とはくらべものにならないほどの個人差をもたせたり又性格の上にも、生活態度の上にもいろいろと影射のあることを考えるとき、音楽リズムの指導には常に苦心を必要とすると同時に先生自身の音楽的研究が必要とされるわけです。

◎註(実際例の三つはあくまでもサンプルで一つの方法をなんべもくりかえさぬよう、このような指導法を沢山に用意されるようにくれぐれも御注意願います)

(東京都文京区立第一幼稚園長)

この子供たち

(7)

イーデイス・ウォートン作
松原至大訳

ボインとその愛人

クリフ・ホキータが、リボンの上に「ファンシー・ガール」と書いた、小さなヨット帽をかぶったチップを抱いて、デッキを歩いている姿は、幸福な父親の見本とも見えた。ホキータは、ボインにほかとの約束をことわらせて、アドリア海を、コーフとアゼンスまでも行こうじゃないかと、無理強いに誘った。ボインは、日あたりのよいところに腰をおろして、子供たちの笑い声にとりまかれながら、自分の椅子のひじに、ジュデイスをよりかからせていた。自分はなぜこの招きに応じないのかと、自らに問うた。これ以上の、よい人生はないかと思つた。伯父のエドワードだったら、きっと承知したであろうと思つた。この時、そばの主人公はデッキ・テブルの上のカクテルを新しくつぎながら、

「面白い連中に紹介するぜ、君。チャンスをとらえるものは、たれだつて成功するよ。なあ、ジュデイス、ボイン君に娘さんを探してあげるかな。」

「この娘さんでたくさん。」ボインはこういって、ジュデイスの手をとって笑つた。うれしさの赤らみが、ジュデイスの顔に見えた。

「まあ、マーティンさん——もし、あなたが——まあ、そんな。」

ジュデイスが、こうは思ったが、ボインは言いたいことをこらえてしまった。ボインはジュデイスに、お別れの贈物をしたいと思った。高価なものでもなくともよいが、レンチ夫人から与えられた失望を、つぐなうことのできるほどの、なにか小さなものを。あの時、ジュデイスが、正直に失望を見せたことは、ボインを驚かせたのであった。しかしジュデイスも、子供にすぎない。世間一般の娘から切りはなして、考えることは、かわいそうだと思ひなおしていたのである。結局あれこれと探している時がなくて、マーセリアで、ありふれた装身具を求めて、別れぎわに、そっと手渡した。ジュデイスは、とても喜んだ。

ボインは、ひとりきない汽車にゆられながら、なぜもつとヴェニスにいなかったのかと、自分で自分に聞いていた。それには、二、三の理由があった。その理由の一つは、数カ月前に、ボインは、ドロマイツのローズ・セラースと会う約束がしてあった。時計と良心を忘れてしまったような今日の時代にも、ボインは時間正しく、良心を持っていた。ヴェネスと、新しく親しみを持った友だちとに、別れ難い思いを抱いたことは、自分の感じている愛情が二つにされたこととなる。だが、ボインは節をまげることだけは、許すことのできない時代に属する男である。一度自分の必要をみたすかに思えた婦人は、永久にその世界の人間であった。だからこの二つのものの間を、さまようなどということは、想像だにつかないことである。ローズ・セラースは、ボインにとって、いつも目あてになる北極星であった。

「なんだ、ばかばかしい。両方を一緒につかむことはできないぞ。」自分で自分をしかってみた。

あれから、まだやつと四十八時間しかたっていないのか。今こうして、クリスタロ群峰の雄大な、銀と真紅の山腹をながめて、山荘のバルコニーに腰をおろしていると、ボインは、自分が考えていたいろいろなことは、峰のかなたの青空に消えて行く、霧のように思えた。ただ、空気が変わったからであろうか。それとも銀のラッパを吹きならすような、この清浄なエーテルの中に、突然はいったからであろうか。一部分は、そうであろう。おそらく——そして大部分は、ボインが心の中でひとり、死んでしまったのだと思っていた人生が、ふしぎにもよみがえって来たためである。

「ほんとに、お氣に召しまして。」と、セラーズが聞いた。ここに来て、初めての朝、樅の香のするバルコニーの上に腰をおろして、谷の向うの絶壁が、ほのほ色から、だんだんに灰色に変わって行くのをながめた時である。

「いかにも、あなたにふさわしいのが、なによりも氣に入りましたよ。」と、ボインは答えた。

「私は、あなたが、ヴェニスと、お金持ちとを後にして、ここに來て下さったのが、うれしゅうございます。それは、この山のためにありがたいことですわ——そして私のために。」

かれ等自身についての、直接な会話は、それで終った。後は、記憶や、質問や、思い出などの糸をたぐって、離れ離れであった二人の五年間を、物語でゆっくりと築きあげた。

おなつかしいマーティンさま

ここは、よいところです。そして暖かです。私たちは、リドーで、海水浴をしました。ヨットにもりました。ボンデルモントの興さんの、ライオン使いはなくなりました。そしてあの人はお金持ちのアメリカ娘と結婚しました。それでピーチーとバンは、ジニーがおかあさんからもらったような、またブランカが、私からとってしまったようなお土産を、たくさん貰えるものと思つて、とてもはしやいでいます。でも私は、マーティンさんが下さったのが、一番好きです。なぜかといいますと、それは、あなたが下さった上に、またとないものですから。ボンデルモントさんは、お金持ちになったので、バンを連れにきはしないかと、私は心配しています。もしバンが連れて行かれると、ピーチーは、死んでしまうでしょう。ですから、私は、スコープの御本を借りてきて、どんなことがあっても行かないと、バンに誓わせました。

母と父が、大げんかをしました。母がジニアさんとレンチさんを、ヨットに招待しようとしたら、父が下品なことだといいました。母が、それならば、なぜ私がよましようといった時に、あなたは氣にしたのですかといったことからです。母は、あの人たちいっしょにいる、メンディップ公爵と、ちかづきになりたいのです。それからジニアさんが、毎日ジェラルドさんをおひるの食事と呼んでいることが、母のしやくにさわたたのです。こんなことをいってはいけなないと、あなたはおっしゃるかもしれませんが、おなつかしいマーティンさん。もしジェラルドさんのことで、父と母との間に争いがおこっ

て、テリーが先生をなくすることにもなりましたら、私はどうしたらよいのでしょうか。私は、早く子供たちを連れて、こゝを出発したいと思います。テリーは、私がスベルをまちがえるといけないから、見せてくれと申しましたが、出すのとめるといけませんから、見せませんでした。

マーティンさん、お願いですから、あなたから父にお手紙を下さって、早く私たちが出発できるようにして下さいませ。テリーの熱が出てきましたし、なにもかも、私は心配になってあまりません。あなたがこゝにいて下さったらどんなによかったでしょう。みんなが、あなたのおっしゃる通りにするでしょうから。

お慕いする ジュデイスより

追伸、私がお手紙をさし上げたことは、どうぞホキータのものに、おっしゃらないで下さい。

この手紙を読み終えて、まづボインが思ったことは、バルコニーでの、あの晩の出来ごとの後でよかったということであった。出来ごとというのは、今まで永い間の沈黙のために、できていた障壁がとりのぞかれて、ローズ・セラーズを、ボインが腕の中に抱いたということであつた。それは深い、そして静かな涸の、澄みきった水面のような抱擁であつた。セラーズは、ものをいわなかった。ボインは、それを神に感謝した。二人の静かな結合は、沈黙の中に、美しい花を開いた。セラーズは急ぎもせず、またためらいもしなかった。完全な黙語によって、お互の心の奥底にあつたものが、手と唇とを通して、通じあつたのである。

「今ならば、楽々とセラーズに相談することができ——かの女もよく理解してくれるであろう。」なにとはなしにボインはこう思った。つい昨日までは、セラーズはホキータ家の問題を、どう思うであろうか。またかの女は、ホキータ家のたれとも、またその世界について、どのような共通点を持っているであろうか、などと、ボインは不安に思っていたのである。けれども今の二人は、一体なので、ボインの重荷は、当然セラーズがわけ持たなければならぬ。

ジュデイス・ホキータからの手紙は、もう一週間の余も、ポケットの中にはいったまゝで、ボインがとり出した時は、しわ

くちゃになっていた。ボインとセラーズは、岩の赤い出張りのところによりそって、松に覆われた絶壁や、牧場や、林が青いドロマイツの果てしないかなたに、連なっているのを見下していた。

セラーズは、時々眉をよせて、ジュデイスのちがつたスベルを判読しながら、熱心に読んだ。

「ジェラルドとおっしゃる方は。」

「テリーの家庭教師ですよ。ぼくは、この男もいやな奴だと思っています。だが、テリーという子は、よい子ですよ。この子と、ジュデイスと、スコープとは、どんなことがおこっても、間ちがいなく、やって行くと思うんです。ただテリーの身体さえ、健康が続けば。」

「ホイータ御夫婦は、子供さんのことを、少しもかまわないのでしょうか。」セラーズの目には途方にくれたような、悲しみがいっぱいであった。

「気にはかけていますよ。子供たちといっしょにいる時は、たしかに好きなのです。だが、好きなのと、世話をすることとはちがう。ぼくの見るところでは、ずっと以前から、自分たちに世話をする能力のないことは、知っていたらしい。だからそうしたことは、全部ジュデイスにまかせていたという訳でしょうな。」

「ずっと前から。でも、ジュデイスさんは、おいくつかしら。この筆蹟は、十ぐらいの子供のですわ。」

「学問をする時が、なかったのですよ。六人の子供の世話をするので。十五か、六にはなりましよう。」

「十五か、六。私の娘としても、若いくらいですわ。」セラーズは、ため息をついた。

「あなたの子供だったら。」ボインは、危く口に出すところであった。その代りに、手をさし出して、手紙をとりあげた。この様子が、セラーズを、問題の実際方向にむかわせた。

「あなたは、どうなさろうと思いいなりまして。」

「それは、ぼくが、あなたに聞きたいと思つてゐることなのです。」ボインは、セラーズに相談して、よかったと思つた。

「あなたは、そのお子のおとうさまに、お手紙をあげなければ。」

「しかし、出しやばるようですね。」

「いいじゃないませんか。お子さんたちを、あまり長くヴェニスにおいとくことは、よくないということを申し上げるのですよ。その気候は、その男のお子に、いけないことは、おとうさまも御存じだと、あなたはおっしゃっていらっしゃいましたわねえ。」

「いかにも。それには、ホキータ君も、すぐに賛成しますよ。言葉の上だけでは。そしてこういうでしょう。『だめじやないか、ジョイス。ポイン君のいう通りだ。子供たちは、ここでなにをしているんだ。一まとめにして、明日、エンガディーンへ出発させよう。』とね。それから、あの男は、多くの手紙をポケットにつこんで、二度と見やしませんよ。自分でコートに、ブラシでもかけなければ。」

「でも、おかあさまが——ジョイスさんと申しましたね。その方に、御主人がお話なされば——」

「ええ、そこが面倒なのですよ。」

「どうして。」

「そのおかあさんが、ジェラルドのいるために、子供たちをヴェニスにおいときたいとも思っていたら。」

「家師教師の方。まあ、マーティン——それでも、その方、自分のお子をおっしゃっているとおっしゃるの。」憎悪のふるえが、セラーズの身体を走った。

「そうです。とても、かわいがりはしています。だが、いろんなことが一つの渦うずになって、あの女のまわりを、とりまいているのです。こういう人にとっては、人生というものは、始終回転しているフィルムなのです。あなたが見物席から出て行って、フィルムの流れをかせようとすることはできない。」

「では、あなた、どうなさるおつもり。」

ポインは、草の上に寝ころんで、顔をしかめながら、空を見た。

「考えがうかばない。ぼくが、一日、二日、ヴェニスへよって、あの人たちに、直接話してみるより外ありません。手紙な

どでは役にたちませんよ。」

セラーズは、ボインのかたわらに、きちんとすわっていた。その目は、少しくもってボインをのぞきこんでいた。

「ヴェニスへお帰りになる。」セラーズの声の中に、ボインは、反抗のやいばを感じた。「そうなさっても、なんの益もありませんわ。二度もあなたに、いやな旅行をして頂くなんて、私、たくさん。それに、手紙に書きようがないとおっしゃるのなら、口で表しようもありはしません。」

「いいようはないかもしれませんが、とにかく、なんとかしましょう。ジュデイスを、少しでも慰めてやれるでしょう。」
「かわいいそうなお子。そうしてあげられれば。でも、まづお手紙をあげた方がよいと思いますの。そのお子にも。どっちにしても、大体の見当をおつけになってから、なさる方がよろしゅうございます。家庭のいざこざに、口をお出しになるのは、いつでも気まづいものですから。」セラーズの調子は、もとのやさしさにもどっていた。

「なるほど。」と、ボインは相づちをうって、パイプをポケットにしまいながら、立ちあがった。折角の休みが、他人の家庭のいざこざで、だいなしにされようとは思いつかなかった。腹立たしそうに、ジュデイスの手紙を、ポケットに押しこんだ。結局、自分に、なんの関係があるのか。だが、あの子には、手紙を書いてやろう。セラーズのいったことは、正しかった——
ヴェニスへ行くということは、ばかげたことだ。しかも、ジュデイスの手紙がきてから、もう一週間の余になる。おそらく今ごろは、あの一行は散り散りになって、子供たちは、どこかの山地で、安全に暮しているかも知れない。

「かわいそうに、あの娘は、いつも過労だ。多分、あの手紙を書いた時も、なにか心配ことがあったのだらう。ああ、面倒だ。手紙などよこさなければ、よかったのに。」ボインは、よくも遠いところの問題を、こんなにも気に病んだものだと思った。そしてセラーズと、腕と腕を組みあって、山を下った。(つづく)

幼稚園と小学校

中川 武夫

幼児に疾迎を如何に語るべきか

五月の保育

第六号

小鳥を飼う楽しみ(2)

笠原 秀定

保育所の現状と問題

高島 春雄

楽しいおしごと(3)

平野 恒子

アメリカ童話から(33)

及川 ふみ

四月の保育

松原 至大

第五号

人間性の涵養(1)

倉橋 惣三

(ヌース) 幼稚園の先生の今昔

及川 ふみ

幼児保育団体について

多田 鉄雄

幼稚園児のグループブリーダー形成

摩瀬 靖正

について(1)

富田 陽子

絵画の具体的指導目標の設定について

津守 真

アメリカ通信(5)

及川 ふみ

たのしいおしごと(4)

松原 至大

この子供たち(1)

教育実務指導研究会のお知らせ

五月の保育

堀合 文子

第六号

人間性の涵養(2)

倉橋 惣三

(ヌース) しつけの時機

波多野 完治

幼全と団体生活

山下 俊郎

遊びと生長

小川 正通

幼稚園児のグループブリーダー形成

摩瀬 靖正

について(2)

保育研究大会の準備と処理の記録

をたどつて

高橋 寿美夫

(講話) 生理欲望の教育(3)

加藤 常吉

たのしいおしごと(5)

及川 ふみ

懐しい先生方へ

津守 真

アメリカだより

相場 均

この子供たち(2)

松原 至大

教育実務指導研究会

六月の保育

堀合 文子

鈴木 文子

人間性の涵養(3)

倉橋 惣三

(ヌース) 一つの希望

多田 鉄雄

特集・夏季保育誌上講習会

幼児の製作の新しい指導

幼児の精神衛生

及川 ふみ

夏の保育医学

松村 康平

幼稚園の最近のすう勢

平井 信義

(講話) 生理欲望の教育(4)

玉越 三朗

この子供たち(3)

加藤 常吉

ゆうぎ講習会

松原 至大

幼稚園教員免許法認定講習会

(予告)

官庁公示連絡事項

堀合 文子

七月の保育

鈴木 文子

第八号

人間性の涵養(4)

倉橋 惣三

(ヌース) 特別保育

牛島 義友

日光と幼児

幼児ばなしの裏と表

(講話) 生理慾望の教育(5)

平井信義
上沢謙二

アメリカ通信(6)

たのしいおしごと(5)

セミとトンボ

アメリカだより

この子供たち(4)

官庁公示連絡事項

八月の保育

堀合文子
鈴木とく

第九号

開会の辞

特集・日本保育学会第六回大会研究発表

幼稚園児の絵本に対する好み

倉橋惣三
奥野あや子
前田美和

乳幼児の発達段階に伴う保育方法

についての一考察

高橋さやか
幼稚園児の發育に及ぼす季節的影響

知能検査としての指テスト(Finger-Test)の検討

遊戯におけるフラストレーションの表現

幼児のことば

排便排尿の躰(トイレット・トレニンク)の調査

幼児の生活習慣の早期樹立について

要求の心理からみた保育用品

江上秀雄

平井信義

千羽喜代子

野口幸江

種橋正徳

野崎とし子

児玉省

岡野伊津子

斎藤愛子

甲斐久生

渡辺紀久子

珠川善子

高島栄美子

白木喜美子

桜井良子

鈴木とく

秋田美子

平井信義

音遊び

幼児の相談事例について

年令別にみた乳歯ムシバ罹患程度

両親からみた理想の保育者

子供は両親に何を与えるか

私立幼稚園の健康管理の一形態

シンボジウム

幼児保育と準備教育

(村山・柿内・滑川・平井・周郷)

記録

日本保育学会記事

人間性の涵養

(メース) 身辺のことから

已れ自らを知る

重田定正

山下俊郎

倉橋惣三

第十号

音遊び

幼児の相談事例について

年令別にみた乳歯ムシバ罹患程度

両親からみた理想の保育者

子供は両親に何を与えるか

私立幼稚園の健康管理の一形態

シンボジウム

幼児保育と準備教育

(村山・柿内・滑川・平井・周郷)

音遊び

幼児の相談事例について

年令別にみた乳歯ムシバ罹患程度

両親からみた理想の保育者

子供は両親に何を与えるか

私立幼稚園の健康管理の一形態

シンボジウム

幼児保育と準備教育

(村山・柿内・滑川・平井・周郷)

記録

日本保育学会記事

人間性の涵養

(メース) 身辺のことから

已れ自らを知る

重田定正

山下俊郎

倉橋惣三

第十号

音遊び

幼児の相談事例について

年令別にみた乳歯ムシバ罹患程度

両親からみた理想の保育者

子供は両親に何を与えるか

私立幼稚園の健康管理の一形態

シンボジウム

幼児保育と準備教育

(村山・柿内・滑川・平井・周郷)

わが国幼稚園の史的変遷(1)

保育者の精神衛生(1) 古木 弘造
生理慾望と教育(終結) 西本 脩
この子供たち(5) 加藤 常吉
六十年前の幼稚園 松原 至大
吉田 昇
幼稚園に於ける言語の指導(1)

報告(4)話の理解について

今輩倍 素行
谷口 和子

第十一号

人間性の涵養(拾遺) 倉橋 惣三
(ヌース) 幼稚園の起源

はき出させる教育 多田 鉄雄
厳肅なる幼児教育 三木 安正
わが国幼稚園の史的変遷(2) 安間 公観

アメリカだより 古木 弘造
相 埜 均

倉橋惣三著「幼稚園真諦について」

沖繩の叫び

山下 俊郎
内山 憲尙

幼稚園に於ける言語の指導(2)

アメリカ通信(7) 今輩倍 素行
津 守 真
第六回関東保育研究大会記録
この子供たち(6) 松原 至大

第十二号

人間性の涵養(拾遺2) 倉橋 惣三
(ヌース) 大きな舞台と小さな舞台
及 川 ふみ

幼稚園の「社会」の指導はどうしたら

よいか 鈴木 信政

保育者の精神衛生(2) 西本 脩
改訂された「音楽リズムの指導書」

にもとずいて 山村 きよ
冬の室内衛生(暖房其の他の注意) 山 村 きよ

クリスマスのおはなしと幼児 広 瀬 興

和歌俳句にある「雪」 上 沢 謙二
アメリカ通信(8) 石 井 庄司

この子供たち(7) 津 守 真

第五十二巻総目録 松原 至大

幼児の教育 第五十二巻 第十二号

定価金五十円

昭和二十八年十一月二十五日印刷
昭和二十八年十二月 一日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉 橋 惣三
発行者

東京都文京区大塚町三十五
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読について注文申込その他はす
べて発売所フレイベル館宛願います。

戸倉ハル・小林つや江両先生著

うたとあそび

B5判上製
定価三二〇円
四八円

ラジオでもお馴染みの楽しいうたを、著者独特の美しく、おもしろい振付けをし、これを教材として春夏秋冬の四季に分類配列したもの。挿絵と、直ぐ役立つ楽譜を豊富に収めてあり、幼稚園、小学校低学年用の教材として好適のもの、全国諸先生方の好評の中に、第六版発売中。

ハンドカスタのゆうぎ

B5判上製
定価三〇〇円
四八円

ハンドカスタをつかってする楽しいおゆうぎのしかたを楽譜付でくわしく説明したもの。けだし、ハンドカスタを使ってするあそびの独創的なもの。

「ベビー・ハンドカスタ」も発売中

日本リズム運動協会著

運動とリズム

B6判一〇〇頁
一〇〇円
二五円

邦正美氏を中心に問答形式により、リズムと運動について説明する。

発行所

株式会社 不味堂書店

東京都文京区大塚仲町二
電話(94)二七〇三・〇九九二
振替東京六八七三九

★★★ 幼児のための教育書とテスト ★★★

九州大学教授 牛島義友 監
お茶の水大学教授 及川ふみ 修
お茶の水大学教授 同附属幼稚園
及川ふみ 修

お茶の水大 平井信義
お茶の水大 松村康平
お茶の水大 水原泰介
お茶の水大 共編

幼児保育の知識

最新刊 幼児教育の最新の原理と実際上の諸問題を凡ゆる面から親切に説明！一般家庭、幼稚園、保育所、保育科生徒の必読必備の保育事典。

松村康平著 B4〇判一〇〇頁

幼児の教育

幼児の観方、接し方、導き方を最新の心理学と自己の経験にもとづいて解説した！

守屋光雄著 B6判 二五〇頁

幼稚園児

就学前の幼児についての具体的な日常生活の問題解決を中心に、その心理と保育を説明

武政太郎 小見山栄一 岡本奎六 共著
新乙式団体知能検査

用紙 10円
手引 30円

二色刷の絵で楽しく適用 幼稚園児、小学二年
できる知能テスト！

榊原 清著 幼稚園児・小学三年
繪本低学年知能検査

用紙 16円
手引 50円

文字も数も知らない幼児にも適用でき
児童が興味をもつ画期的色刷テスト！

金子書房

東京文京区小石川局区内
振替東京一〇三三六

A5 函入 価 320円

1 月 号 予 告

観
察

キンダーブック

KINDER-BOOK

絵
本

第 8 集

【どうぶつのおしょうがつ】

第 10 編



☆お子さま方の感情と知識の

成育のために古く広く好評の高い本☆

解 説
A 4 判 16 頁・月一回発行
定 価 45 円・送 料 8 円 付

へどうぶつのおしょうがつ

「お正月おめでとう」
動物村にも、たのしいお正月が来ました。山は動物の子供たちの歌声でにぎわっています。

今年も仲良く
くらしましょうね

初日が山の向ふにぴかぴかと大きな顔を出しました。

この号は、動物村のうれしそうなお正月風景を画いていただきました。
お正月毎に大きく育つていく子供さん方のたのしい初夢の世界とでも云えるでせう。

発行所

東京都千代田区神田
小川町二丁目五番地

株式
会社

フ レ ー ベ ル 館

振替口座東京
一六四〇番

解題・索引篇
目次

解題 津守 真…………… 3

幼児の教育 総目次

第四十五卷・昭和二十一年～第五十二卷・昭和二十八年…………… 13

幼児保育史年表 大戸美也子・国吉栄共編…………… 51

幼児の教育 著者別索引…………… I
Ⅶ

解題

津 守 真

「幼児の教育」誌は、昭和十九年（一九四四）十二月、第四十四卷十二号をもって休刊となった。昭和十九年四月には、東京都は幼稚園閉鎖令を出し、学童疎開及び疎開保育所が相次いだ。同年十一月には東京の初空襲があり、戦争はますます熾烈となり、書物・雑誌出版の用紙配給は極度に統制されることとなった。「幼児の教育」誌が昭和十九年末をもって休刊となったのは、こうした事情による。

昭和二十一年十月、「幼児の教育」誌は復刊し、第四十五卷一号を出した。発行所は以前と同じく東京女子高等師範学校附属幼稚園内日本幼稚園協会、編集主幹は倉橋惣三、発売所はフレール館である。第一号は三十二頁で、定価は貳圓五拾錢である。

第四十五卷は、十二月一日に第二号を出し、十二月三十一日に第三号を出して終っている。用紙の入手には、戦時中のような統制はなかったが、實際上多くの困難があつたためである。第四十六卷は、昭和二十二年十二月までに十号、第四十七卷は、昭和二十三年十月までに十号を出した。第四十八卷、昭和二十

四年からは、毎月定期的に発行されるようになった。

今回の復刻第三期は、昭和二十一年（一九四六）第四十五卷一号よりはじまり、昭和二十八年（一九五三）第五十二卷十二号までを収めることとした。昭和二十年八月十五日、日本の敗戦の後、占領下社会の混沌とした状況をへて、昭和二十七年には平和条約および日米安全保障条約が調印発効し、日本は独立国となり、現在の国際社会の一員としての一步を踏み出すことになる。この間に、現行の日本の諸教育制度がつくられる。他方、「幼児の教育」誌については、戦前よりひきつづいて、倉橋惣三が昭和二十八年まで編集主幹であった。その後は私が編集をひきつづき、現在に至っている。これらのことを考え、昭和二十八年、第五十二卷までを復刻第三期とすることとした。

復刻第三期のこの時代に、私は大学を卒業し、幼児教育を専攻しはじめたので、この時期を直接に生きた者としてこの時代に強い関心を持っている。昭和二十年八月末に兵隊から帰ってきた私は、その年の秋から再開された大学で、再び学究にもどれたよろこびを感じつつ、ガラス窓の破れた教室で、軍隊の外套を頭からかぶって講義をきいた。外地からは毎日のように引き揚げ、復員がつづき、食糧も物質も不足した窮乏の時代であった。占領下にあつて、将来のわからない不安があつたが、他方、もう戦争は終つて、平和がきたという心の底の明るさがあつた。何もかも焦土となつたところに、文化国家の再建、日本の復興という希望と、ひとつの時代の区切りの意識が、人々の間に共通にあつたと思う。昭和二十一年に、「幼児の教育」誌が復刊されたのは、こういうときであつた。

四十五卷第一号に、復刊のことばとして、倉橋惣三は、まず、休刊以来のことについて次のように述べている。

「二ヶ年の休刊は、本誌の長い歴史における遺憾なる間隙であつた。目の前に幼児を護る焦眉の急、将来のために幼児を正しく保育する緊要、それに与る本誌の責務の緊急を痛感し、痛感しつゝけながら、遂に休刊の餘儀なきに至つたのであつた。その二ヶ年の前半は、いよく迫る必死の当時であり、」と戦時中のことを述べ、そして更に戦後のことについて、次のように云う。

「後半は激動からの立ち上りの革新への進出との、自奮自勵の今日である。本誌も亦、新たに起ち、旧くして新らしき、小なるが如くにして実は大いなる、その位置に復り附かなくてはならぬ、……」と。わずか二年の間に、敗戦を中間にはさんで、日本の社会は大きな転換をした。その中に身をおいて、戦時中から継続して本誌の編集者であつた倉橋惣三の意識の中では、新らしく起つ日本の、新らしい幼児教育は、旧くして新らしきもの、逆に云えば、新らしくして旧きものであつたことを知ることができる。具体的な社会情勢はかわつても、幼児教育の本質は時代によってそんなに変動するものではないという彼の主張をここにも見ることが出来る。

復刊第一号からは、新らしい企画として、編集委員が名前を列ねる。牛島義友、及川ふみ、斉藤文雄、多田鐵雄、山下俊郎の諸氏であり、昭和二十三年から波多野完治が加わる。後にこれらの人々が「ヌース」という欄を担当執筆されるが、これはギリシャ語で知性あるいは理性という意味である。新らしい日本の幼児教育は、かつてのような偏狭な国家主義でなく、世界に通用する人間の知性に根ざし、互いに耳を傾けながら一緒に話すことのできる理性をもって進めたいという編集者の願いがあらわれていると見てよいと思う。

復刊された昭和二十二年当時の現実の日本の社会および子どもの状況は、それから三十五年をへた現在とは著しく違っている。この雑誌はそのころの様子を私共にのこしてくれている。第四十五巻一号に、愛育病院の院長であった小児科の斉藤文雄は、「新しい保育と幼児保健」と題して、次のように記している。

「この頃の幼児の保健問題、考へてみれば誠にみぢめな状態で可哀想な子供達である。客観的に冷静に記事を扱ふのが科学者の責任であるが、あまりにみぢめで、堂々と世界に向つて発表する勇氣もないくらいである」と。「あまりにみぢめで」と云うその内容として、第一に栄養失調、第二に伝染病とくに結核があげられている。私自身、このころ東京の東本願寺で戦争孤児、浮浪児の調査に、心理学の学生として参加したことがあつた。焼け崩れたコンクリートの建物の中であつた。また、いつも満員であつた養護施設、乳児院を訪れたときのことなどを考えると、「あまりにみぢめで」というのは決して誇張ではない。「しかも、子供達はその中であつて嬉々として遊び戯れてゐるいぢらしさ」とこの文章はつけ加えている。いまは東京に浮浪児はいない。栄養失調も結核もとりたてる程ではない。それに代つて、自動車事故、自殺、栄養過多による障害がある。そして路上で遊び戯れる子どもの姿を見ることはいまは稀になつてしまつた。

復刊された「幼児の教育」誌には、更に、引揚母子援護対策について、竹田俊雄が記しているが、これもその時代の児童問題であつた。

東京では焼野原の地平線に夕陽が沈むのを見ることができた。復刻第一号の中に倉橋惣三は「私信」として次のように記している。

「東京は道路を除いて一面の蔬菜畑。匍ふ藎の蔓、竹柱に攀ぢ登る南瓜の蔓、朝露につやくしい茄子、

夕風に鳴る唐もろこし、京に田舎ありどころか、田園に都ありの風景。自然の色の美しさは、敗戦国だつて変りはない。」これも、今の東京を見ると、信じられない風景である。

「幼児の教育」誌は、敗戦後のこういう状況の中で復刊した。そして、それから二、三年の間に、日本の新しい教育制度が着々とつくられてゆく様子を、幼児教育の側から報告してゆく。

第四十六巻十号に、「保育界にとって記念すべき昭和二十二年」と云われているように、昭和二十二年という年は、教育および福祉についての制度が次々に定められた特別な年であつた。「教育基本法」「学校教育法」の制定、「学校教育法施行規則」の制定、「教育刷新委員会」で、幼稚園を学校体系の一部とするこの建議等は昭和二十二年のできごとであり、また、児童福祉法も、保育要領の制定も、その実体は昭和二十二年のものである。「幼児の教育」誌では、第四十六巻五号より、倉橋惣三による「学校教育法における幼稚園」の連載がなされるなど、新しい教育制度に関する記事が次々に掲載される。このころに作られた教育制度は、現行の制度の基礎をなすものであり、本誌の記事を見ることにより、その当時、新しい制度が人びとにどのように理解されていたかを見ることができて興味深い。

これよりさき、昭和二十一年に、連合軍総司令部（GHQ）の要請で、米国教育使節団が来日し、約一カ月にわたつて、日本の教育事情を視察した。その報告書において、「民主政治のもとでは個人は至上の価値を持つものであつてその利益を国家的利益に従属させてはならず」したがつて教育の基盤は、「個人の価値と尊厳に対する認識」であることが強調され、「学校施設を更に年少の児童にまで及ぼすこと」を勧告している。それに関する記事も本誌に散見される。

米国教育使節団が、東京女子高等師範学校附属幼稚園を視察したときの逸話に、日本の幼稚園の内容については、小中学校と異なり、何ら云うべきことではないという評であつたと伝えられている。「幼児の教育」誌第二期復刻に見るように、米国におけるフレーベル主義―進歩主義教育論争と、個人の発達を基礎とした新しい幼児教育の実際とは、すでに戦前にわが国において相当に論議され、實地に研究されてきたものであつた。そして倉橋惣三の誘導保育論は、女高師の附属幼稚園で工夫され実践されて、その成果を見ていた。それは昭和初年に最盛期があるが、戦時中も実質的にはかわりなく実践されつづけた。遊びの内容としては、戦時の環境が反映されることはあつても、保育の形態にはかわりなく、また、子どもに対する保育的配慮にもかわることなく、幼稚園において幼児の遊びは尊重されつづけた。それには戦時下にあつて幼児の生活の本質を守り抜こうとする先輩たちの人知れぬ苦勞が幾多あつたと思う。戦後直ちに米国教育使節団の視察のときに、日本の幼稚園は軍国主義教育ではなく、米国の幼稚園とかわるところはないという印象を与えたのも当然であらうと思う。

いうまでもないことであるが、それは当時の幼稚園が占領軍に媚びたのではない。むしろ逆で、戦争に敗れたからと云つて、勝者に対して卑屈になることをこころよしとしない気概は、今回の復刻第三期に明瞭に見ることができる。第四十五卷二号 倉橋惣三「保育者の新しいノート(2)」には、園庭でブランコのとりあいに、一人の男の子が、「民主主義だよ」ということを口にする場面が記されている。筆者は、根本の意味の理解を欠いた流行語である「おとな語」を幼児に使わせたくなないと記す。その他「とんでもない」問答などこうした例をいくつも見るができる。幼児の遊びは、どこの国でも、いつの時代にもかわることはないし、幼児教育の本質も、時代や国をこえて共通であらう。それだから、昭和二十二年に保育要領の作成が手がけられ、C・I・Eのヘレン・ヘファナン女史の示唆もあつて、それが米国の進歩主

義教育の手引き書とはぼ同じ線に沿って、ごく實際的に作られたとき、それは当時の幼児教育界の識者から自然に受け入れられたのであると思う。後になって云われたような、保育要領は占領軍の圧力によってできたのであるから、日本の国情には不適當であるというような論議は当を得ていないと私は思っている。このころの保育界の論調も、この復刻の中に見ることができる。

昭和二十三、四年からは、各種の保育連合会が結成され、研究会や大会が各地で開催されるようになる。その中でも、日本保育学会は研究会として最大の規模のものであるが、その第一回研究発表会が昭和二十三年十一月に行われ、本誌の第四十八巻二、三号合併でその報告記事が掲載される。

昭和二十六年（一九五一）には、「幼児の教育」誌は、明治三十四年（一九〇一）に、「婦人と子ども」と題して創刊されて以来、第五十巻を迎えた。創刊時の編輯者であった東基吉による「婦人と子ども」創刊當時の子どもとその頃の幼稚園の状況について」と題する文が第五十巻十一号に掲載されている。この年はフレール嬢死後百年の記念の年であり、六号と十号とはその記念特集とされている。また、この年の八月には、サンフランシスコ対日平和条約および日米安全保障条約が調印された。十一号には、倉橋惣三による「獨立心と世界心の教育」と題する文章が掲載される。この前年には児童憲章が公布され、第五十巻七号には、倉橋惣三「児童憲章の悲願——草案準備委員会に加って」及び高島巖「児童憲章とその精神」が掲載される。

こうして、この「幼児の教育」誌復刻第一期（明治三十四年——大正九年）から、第二期（大正十年——

昭和十九年）をへて、今回の第三期（昭和二十一年——昭和二十八年）のこの雑誌の歩みをふり返るとき、どんな時代にも、やわらかい性情の幼児にふさわしい生活をつくり上げようとする幼児教育の課題が、一貫して追求されているのを見ることができて、感動を覚える。この課題はまだ終っていない。形をかえて、これからも追求されつづけられるであろう。

昭和五十六年、一九八一年に、「幼児の教育」誌は第八十巻を迎えた。フレールベル生誕二百年の記念の年であり、スタンレー・ホールが児童研究をはじめてから百年の年でもある。そしてまた、戦後三十五年をへて、軍備拡張の記事が新聞に載らないことはなく、平和憲法の確信が揺いでいる。この時に、戦後の日本の原点とも云えるこの第三期復刻がなされることに、特別な意味があるように思う。

三期にわたった「幼児の教育」誌復刻を、これをもって完了する。この大業を、英断をもってはじめられ、完成に至らせた名著刊行会・西沢楯雄氏、株式会社コーディック・丸山直英氏に、あらためて、敬意と感謝の意を表する次第である。

第三期復刻に当っては、お茶の水女子大学付属幼稚園の所蔵本、及びお茶の水女子大学付属図書館、倉橋文庫の所蔵本を底本とした。関係の方々の協力に謝意を表したい。

昭和五十六年八月

追記

倉橋文庫の所蔵本は、当文庫設立の際、甲府進徳幼稚園、進藤りう氏より寄贈されたものである。第一期復刻別巻の解題に、進藤つる氏より寄贈と記したが、つる氏は同幼稚園の創設者でりう氏の御母堂にあたる。寄贈者は進藤りう氏であるので、謹んで訂正したい。

また、第一期別巻解題中、読者より次の点を指摘されたので、左記のように訂正する。

七頁八行目九号を七号に訂正

二九九頁最終行九月を七月に訂正

幼児の教育 総目次

第四十五卷
昭和二十二年
第五十二卷
昭和二十八年

第四十五卷 (昭和二十一年)

第一号

復刊のことば

新日本建設と幼児教育の使命……………倉橋惣三

新しい保育と幼児保健……………齊藤文雄

農村幼児保育に就て……………山下俊郎

これからの幼稚園問題……………多田鐵雄

保育の実際

民主的性格の方向づけ……………倉橋惣三

玩具手技「ぶらんこ」……………及川ふみ

保育者の新しいノート……………S K 生

引揚母子援護対策協議会……………竹田俊雄

玩具についての協議会の成立……………副島ハマ

幼児保育刷新方策 (案)……………日本教育会保育部会

再建の保育界

東京都内保育施設の概況……………愛育研究所教養部

愛知保育界の意気……………浅野寿美子

彙報

教育刷新委員会

日本保育研究会の活動

大阪府私立幼稚園連盟講習会

仏教保育協会講習会

日本幼稚園協会講習会

キンダーブックの復刊

私信……………倉橋生

会から

第二号

米国教育使節団報告書中の幼児教育に関する提言と

学校教育の下への延長……………倉橋惣三

子どもに興へる神話に就て……………石森延男

保姆養成に関する意見……………森脇要

アメリカの幼児教育

アメリカに観る……………坂西志保

アメリカの幼稚園見学……………功刀よし子

保姆は何を望むか……………副島ハマ
乳幼児保育の整備拡充に関する建議……………日本保育研究会

保育の実際

民主的性格の方向づけ……………倉橋惣三
秋晴の音楽……………菊池ふじの
戸外遊び……………上遠文子
保育者の新しいノート……………S K 生

彙報

日本教育会保育専門部会
体育施設計畫協議会
三井鉦山部保育講習会
日本児童学会例会
日本童話協会の再発足
会から

第三号

幼児保護と幼児教育……………倉橋惣三
保育問題の現在及び将来……………三木安正
アメリカの幼稚園に愛児を通して……………遠藤恵子
晩秋の観察……………吉田とみ

保育の実際

民主的性格の方向づけ(三)……………倉橋惣三
遊戯くるくまはる……………戸倉ハル
再建の保育界……………
東京都保育所の復興……………秋田美子
全焼に新しく生まれる保育……………林成子
保育者の新しいノート……………S K 生

彙報

新童話教育講習会
民主保育連盟創立
保育芸能会
東京都私立幼稚園協会の創立

第四十六卷 (昭和二十二年)

第一号

新しい心	倉橋惣三
幼児の科学教育	堀七蔵
これからの童話材の取扱い	内山憲尚
玩具の今後	山田徳兵衛
幼児と冬	内藤寿七郎
保育の実際	
シーソー	及川ふみ
子どもとかけっこ	岡崎修子
再建の保育界	
千葉県保育界だより	土屋真砂子
母と語る (一)	倉橋惣三
講座	
個性の心理と指導	牛島義友
附録	

現代かなづかい
会より

第二号

やわらかい心	倉橋惣三
幼児皆保育のために	小川正通
個性保育	森田清
終戦後の幼児の特質	竹田俊雄
保育の実際	
幼稚園の新学期	及川ふみ
保護者として近頃おもうこと	増子とし
母と語る (二)	倉橋惣三
保育者の新しいノート (四)	S・K・生
講座	
個性の心理と指導 (二)	牛島義友
附録	
現代かなづかい (二)	
会から	

第三号

まごころ	倉橋惣三
現代幼稚園教育の発達	ヘレン・ヘフアーナン
楽しい幼稚園の構想	井手達郎
からだで味わう音楽	井上武士
幼児保育に関する新しい法律案	副島ハマ
保育の実際	

遊戯「ごまんのまえ」	戸倉ハル
母と語る(三)	倉橋惣三
保育者の新しいノート(五)	S・K・生
会から	
講座	
病気のくせ	広瀬興

第四号

詩心	倉橋惣三
楽園の再興	坂元彦太郎
ことばで育てる	石井庄司
保育の実際	

話させるまでのいとぐち	上沢謙二
遊戯「六月」	戸倉ハル
幼児保育施設の整備拡充に関する建議案	関西連合保育会
教育基本法及び学校教育法の掲載に添えて	全日本保育連盟
保育者の新しいノート(六)	編集者
会から	S・K・生
附録	

教育基本法	
学校教育法	

第五号

幼児保育者と教養	倉橋惣三
子どもの生活の観方	山下俊郎
学校教育法に幼稚園が規定せられるまで	中谷千蔵
保育の実際	

遊戯「うみ」	戸倉ハル
母の知識	
二歳から五歳まで	巴陵宣祐
保育の味	倉橋惣三

保育者の新しいノート(七) S・K・生
講座

学校教育法における幼稚園(一) 倉橋惣三

一、新しくなった幼稚園(教育基本法から)

二、学校教育法における幼稚園の目的(上)

第六号

休養 倉橋惣三

教育に於ける自由と指導 吉田昇

談話の偏重に就て 内山憲尚

学校教育法施行規則幼稚園の部解説 笠原謙二郎

母と語る(五) 倉橋惣三

幼稚園教員認定講習会に就いて 編集部

保育者の新しいノート(八) S・K・生

講座 倉橋惣三

学校教育法における幼稚園(二) 倉橋惣三

三、学校教育法における幼稚園の目的(下)

四、学校教育法における保育の目標(一)

第七号

教育の絶対境 倉橋惣三

図画工作教育雑感 山形寛

幼児向きの音楽 井上武士

学校教育法施行規則解説(二) 笠原謙二郎

秋の保育

秋に行われてよい観察遊び 堀七蔵

秋の保育計画 吉田とみ

遊戯『山のともだち』 戸倉ハル

母と語る(五) 倉橋惣三

保育者の新しいノート(九) S・K・生

講座 倉橋惣三

学校教育法における幼稚園(三) 倉橋惣三

五、学校教育法における幼稚園の目標(中)

第八号

気がつく、手が届く、行き渡る 倉橋惣三

社会的な生活能力検査 牛島義友

「言葉の使い方を正しく導く」とは何か 石井庄司

新しい方向への保育研究録 松石治子

母と語る(六) 倉橋惣三

保育者の新しいノート(一〇) S・K・生

講座 倉橋惣三

学校教育法における幼稚園(四) 倉橋惣三

学校教育法に於ける幼稚園の目標(下)

(四) 幼稚園保育目標の四と五

会から

第九号

幼児教育者とユーモア

倉橋惣三

幼児童話の発展

波多野完治

科学・生活・教育

木場一夫

地上の花

根岸草笛

保育の実際

講話

幼児の生活の場としての幼稚園

倉橋惣三

運動会

岡崎修子

講座

幼稚園の生活形態

倉橋惣三

会から

第十号

保育界にとって記念すべき昭和二十二年

倉橋惣三

保育所と幼稚園

松崎芳伸

野外保育における保健に就て

平井信義

保育の実際

冬の計画.....上遠文子

保育界

全国保育大会

和と力を求めて

内山憲尚

全国保育大会報告

東京都保育連合会

関西連合保育会

京都保育連盟

会から

第四十七卷 (昭和二十三年)

第一号

昭和二十三年 (時言)	西村 厳
新憲法と教育の根本理念	松原至大
英詩に見る子供の姿 (一)	倉橋惣三
美術展覧会の子ども	
保育の実際	

おもいで.....奥 寿 儀

郵便屋さんごっこ.....宮 本 杏 子

保育大会餘録 (一).....編 集 部

講 話

幼児の科学心の教育 (一).....森 脇 要

会から

第二号

新幼稚園と保育者の自己再教育 (時言)	
幼稚園を幼児の生活に返せ	倉 橋 惣 三

英詩に見る子供の姿 (二)	松原至大
保育の実際	

保育記録のかずく.....田 北 み つ

郵便屋さんごっこ (二).....宮 本 杏 子

保育大会餘録 (二).....本誌編集部

講 話

幼児の科学心の教育 (二).....森 脇 要

会から

第三号

幼稚園の汎社会性と汎教育性 (時言)

身体諸機能の調和的発達.....松 井 三 雄

新しい母の会とその運営.....内 山 憲 尚

英詩に見る子供の姿 (三).....松 原 至 大

幼稚園に関する新法令に疑義あり.....和 田 実

保育大会餘録 (三).....本誌編集部

講 話

幼児の科学心の教育 (三).....森 脇 要

会から

第四号

幼稚園を實踐するもの(時言)

樂園の新生

英詩に見る子供の姿(四)

乳幼児栄養とカルシウム

幼児のすきな春から夏の生物

保育の實際

實際興味と主題による遊戲指導

幼児と語る心

新入園児を迎える心

講習会予告

会から

第五号

今日の家庭(時言)

幼児の宗教教育

英詩に見る子供の姿(五)

リズムと教育

我國の近世の幼児教育

盲聾啞兒教育の過去と現在

—ヘレン・ケラーの教育過程を中心として—川本宇之介

講習会予告

会から

第六号

全日本保育大会(時言)

幼児保育の芸術性

英詩に見る子供の姿(六)

リズムと教育(二)

近世の幼児教育(二)

保育の實際

講話

母の心理(二)

会から

第七号

ヒューマニズム断片

英詩に見る子供の姿(七)

坂元彦太郎

松原至大

森重静夫

堀七藏

岡崎修子

大塚喜一

倉橋惣三

倉橋惣三

松原至大

小林宗作

村山貞雄

及川ふみ

牛島義友

高崎能樹

松原至大

小林宗作

村山貞雄

勝部真長

松原至大

幼児ばなしと赤ちゃんばなし……………上沢謙二
導いてくれた子供達……………上遠文子

保育の祭典……………内山憲尚
全国保育連合会

講話

母の心理 (二)……………牛島義友
会から

第八号

何よりもはつきりした話しかたを……………釘本久春

幼児の積極的保健教育……………広瀬興

リズム遊び……………副島ハマ

製作の指導……………吉田とみ子

全国保育連合会長に推されて……………倉橋惣三

こどもらといっしょに秋を歩く……………倉橋生

教育委員会法への理解と関心……………記者

講話

母の心理 (三)……………牛島義友

会からお願い……………

会から……………

第九号

児童観について……………波多野完治

幼児の積極的健康保育……………広瀬興

「おやつ」の意義と幼稚園に於ける実施成績……………平井信義

サリバン女史に学ぶ……………内山憲尚

保育の実際

遊戯指導の経験……………岡崎修子

講話

母の心理 (四)……………牛島義友

会から……………

第十号

絵本のことば……………石井庄司

おやつ の意義と幼稚園における実施成績 (二)……………平井信義

母の講座について……………村山貞雄

幼稚園における二部保育の実際……………徳良貞代

読書推薦

こどもらといっしょにひなたを楽しむ……………倉橋惣三

講 話

保育案と生活計画……………倉 橋 惣 三

フレール館前社長発田栄藏氏の逝去を悼む

会から

第四十八卷 (昭和二十四年)

第一号

本年の保育界の展望 (年頭語)

幼児教育断想……………井 本 農 一

分園保育の実態調査……………山 村 き よ

東京都私立幼稚園協会の現状……………青 柳 義 智 代

保育界報

全国保育連合会建議案

関西連合保育会建議案

第一回日本保育学会

東京都保育連合会

こどもらといっしょにお正月を迎える……………倉 橋 惣 三

講 話

幼児の心理的発達 (一)……………山 下 俊 郎

会から

第二・三号

特集・日本保育学会第一回大会研究発表

日時・昭和二十二年十一月二十一日午前九時半
場所・東京女子高等師範学校附属幼稚園

幼児学校における両親教育……………愛育研究所 村山貞雄

小児期に於ける急性伝染病の罹病時期……………大森品子

罹病年齢について……………日本女子大学児童研究所 久保貞次郎

幼児と絵画……………東京高等保育学校 内山憲尚

幼児の『時』の観念と童話について……………愛育研究所 平井信義

幼児の睡眠の実態について……………愛育研究所 竹田俊雄

幼児の遊びについて……………愛育研究所 鈴木とく

年少児保育の方法的問題……………東京都児童課 小川正通

「保育要領」批判……………奈良女子高等師範学校 玉省

都市と農村児童の性格発達の研究……………日本女子大児童研究所 副島ハマ

……………厚生省保育課 森脇要

……………愛育研究所 森脇要

……………愛育研究所 森脇要

……………愛育研究所 森脇要

シンポジウム 幼児の教育年齢の問題 (倉橋・三木・吉見
山下・斎藤・城戸)
記録

日本保育学会記事
日本保育学会会則

総司令部ヤイデイ女史のメッセーヂ

日本保育学会からアメリカ児童教育協会へのメッセーヂ
会から

第四号

民主々義的性格の教師……………倉橋惣三

保育効果に関する研究……………山下俊郎

幼児の性行と発達の記録項目の諸案……………編集部

児童福祉法と保育所……………副島ハマ

読書推薦

○石川謙氏著「我国における児童観の発達」

○鈴木治太郎氏著「実際の個別的智能測定法」

子どもの日……………「子どもの日」中央協議会

子どもらといっしょに新しくなる……………倉橋惣三

附録

……………山下俊郎

……………山下俊郎

会から

第五号

教員養成制度の改革について……………上野芳太郎

全国師範学校附属幼稚園主事会議

幼児の絵の指導者……………久保貞次郎

春の旅……………及川ふみ

附 録

幼児の心理的発達 (三)……………山下俊郎

会から

第六号

製作の教育的価値……………副島ハマ

幼児の文字に対する関心……………村上米子

幼児の性格に及ぼす諸条件に関する一調査……………和田典子

三歳児の保育小惑……………土屋真砂子

講 話

幼児の心理的発達 (四)……………山下俊郎

記 録

第一回九州保育大会記録

第二回関東保育協議大会

会から

第七・八号

特集・日本保育学会第二回大会研究発表

日時・昭和二十四年五月二十九日午前九時半

場所・東京女子高等師範学校附属幼稚園

幼児の性教育……………愛育研究所 平井信義

幼児童話の性格……………檉の実幼稚園 檉葉勇

幼児の生活の研究……………日本女子大学児童研究所 児玉省

子供のレクリエーションの研究について……………宮本美沙子

……………レクリエーション研究所 相場均

幼児画における創造と模倣の意味……………久保貞次郎

家庭に於ける難質問の研究……………愛育研究所 村山貞雄

保育の教養に関する一考察……………愛育研究所 竹田俊雄

シンポジウム 「幼児教育における訓練と自由の問題」

(坂元彦太郎・山下俊郎・上村哲弥)

記 録

日本保育学会記事

児童交通事故防止についての建議

アメリカ児童教育協会からのメッセージ

会から

第九号

和の教育……………倉橋惣三

保育要領に於る「お話」の解釈……………内山憲尚

フレーベル著「リナは如何にして読み書きを学ぶか」(一)……………莊司雅子

第三回全国保育大会の記……………全国保育連合会

坂元彦太郎君を送る……………倉橋惣三

子供讃歌……………倉橋惣三

全国保連制定「保育歌」(歌詞並曲譜)

講話・幼児の心理的発達(五)……………山下俊郎

記 録

第三回全国保育大会

全国保育連合会昭和二十四年度総会

保育歌の新制定

日本幼稚園協会保育講習会

官庁公示連絡事項

資格のない先生と新免許状

教育用品の物品税免除

会から

第十号

和を好む心……………倉橋惣三

法的に見た幼稚園の姿……………玉越三朗

二通の手紙……………平井信義

幼児研究の進め方……………松村康平

フレーベル著「リナ」は如何にして読み書きを学ぶか(二)……………莊司雅子

子供讃歌……………倉橋惣三

講話・幼児の心理的発達(六)……………山下俊郎

記 録

厚生省主催・保母指導者講習会

全国幼稚園教員養成所長会議

官庁公示連絡事項

無認可幼稚園の取扱いについて

幼稚園設置についての疑義

ユニセフからの始めての物質
会から

第十一号

和の理想

法的に見た幼稚園の姿 (一)

幼児研究の仕方

フレイベル著「リナ」は如何にして読み書きを学ぶか (二)

子供讃歌

保育関係文献解説 (一)

記 録

第三回関西連合保育会研究協議会

中国保育会発会

福井県保育連盟大会

官庁公示連絡事項

ユニセフ寄贈ミルクによる保育所給食の実施について
全国保育連合会制定保育歌・歌詞曲譜 (訂正版)

倉橋惣三
玉越三朗
松村康平
莊司雅子
倉橋惣三
竹田俊雄

会から

第十二号

和の教育者

法的に見た幼稚園の姿 (三)

フレイベル著「リナ」は如何にして読み書きを学ぶか (四)

保育関係文献解説 (二)

統計にあらはれた幼稚園の現状

子供讃歌 (四)

(講話) 幼児の心理的発達 (七)

記 録

幼稚園設置基準に対する協議会

官庁公示連絡事項

教育における宗教の取扱ひについて
会から

倉橋惣三
玉越三朗
莊司雅子
竹田俊雄
玉越三朗
倉橋惣三
山下俊郎

第四十九卷(昭和二十五年)

第一号

幼児教育の反省(年頭語).....	倉橋惣三
楽園の再建.....	坂元彦太郎
北国の冬の保育.....	根岸草笛
童心の教育.....	守安了
保育要領に示された「劇あそび」の実際.....	山村きよ
フレーベル著「リナは如何にして読み書きを学ぶか」(五)	山
.....	莊司雅子
保育関係文献解説.....	竹田俊雄
子供讃歌(五).....	倉橋惣三
記 録	
幼稚園教育課程幼児指導要録協議会	
官庁公示連絡事項	
私立学校法公布さる	
教育用関係用品の物品税減免について	

会から

第二号

カリキュラム論の立場.....	吉田昇
保育の広い視野.....	秋田美子
遊戯治療の諸問題について.....	相場均
新しい保育.....	副島ハマ
フレーベル著「リナは如何にして読み書きを学ぶか」(六)	山
.....	莊司雅子
幼稚園舎構造の一考察.....	守安了
講話 幼児の心理的発達(八).....	山下俊郎
記 録	
幼稚園教育課程・幼児指導要録協議会	
私学審議会の発足と「全私幼連」の運動	
群馬県保育連合会総会	
官庁公示連絡事項	
児童福祉施設最低基準の特例について(厚生省)	
幼稚園教育過程研究協議会開催について(文部省)	
会から	

第三号

先生方の休養	倉橋惣三
性格形成論	波根治郎
戸外保育と日光	平井信義
年中行事と保育	内山憲尚
保育における生活ばなし	上沢謙二
子供讃歌(六)	倉橋惣三
東京都保育連合会のカリキュラム立案に当って	松石治子
講話 幼児の心理的発達(九)	山下俊郎

記 録

CIEヤイデー女史都内幼稚園を視察

官庁公示連絡事項

児童福祉法による措置等のため支出する費用の限度(厚生省)

国立幼稚園教員の採用について(文部省)

会から

第四号

理想の保育都市	倉橋惣三
わが国における保育法の伝統(近世一)	村山貞雄

季節の花や葉っぱや茎でつくるおもちゃ(一)……滝田要吉
街の片すみの幼児教育にも夢はある……鈴木とく

伊豆山童園記……中田保

我國の再建築……浅野寿美子

子供讃歌(七)……倉橋惣三

講話 幼児の心理的発達(二〇)……山下俊郎

記 録

保育所運営及び指導要領(案)作成懇談会

第二回全国保母養成所長会

官庁公示連絡事項

幼稚園教員養成短期大学の誕生(文部省)

昭和二十四年度幼稚園教員養成所修了者の措置について(文部省)

ユニセフ寄贈物資による保育所給食範囲の拡張について(厚生省)
会から

第五号

先生の創意の尊重	倉橋惣三
性格の形成論(二)	波根治郎
保母養成についての雑感	秋田美子
わが国における保育法の伝統(近世二)	村山貞雄

季節の花や葉っぱや茎でつくるおもちゃ (二)	滝田要吉
保育関係文献解説 (三)	竹田俊雄
子供讃歌 (八)	倉橋惣三
講話 幼児の心理的発達 (一一)	山下俊郎
記 録	

第三回関東地区保育協議会

官庁公示連絡事項

短期大学第二回の認可 (文部省)
 国立大学における現職教員講座開設 (文部省)
 幼稚園・小学校研究会打合せ (文部省)
 会から

第六号

保育精神の団結	倉橋惣三
幼児教育と特殊教育	津守真
アメリカ童話から (二)	松原至大
幼稚園独詠	寺西聴学
幼児をつれて見学 (エクスカーション)	宮本杏子
保育関係文献解説 (五)	竹田俊雄
幼稚園教育の立遅れを救へ	

第四回全国保育大会の開催要綱・提出協議題	倉橋惣三
子供讃歌 (九)	平井信義
講話 幼児の健康保育 (一)	
記 録	

第二回東海保育大会

保育施設給食講習会開かる

官庁公示連絡事項

モデル保育所設定標準案成る (厚生省)
 会から
 保育講習会 (予告)
 幼稚園教諭免許法認定講習会 (予告)

第七号

先生方のマナー	倉橋惣三
保育所所感	田頭晴彌
アメリカ童話から (二)	松原至大
幼稚園保育所におけるケース・ワーク (二)	森脇要
蟻の話	新村太郎
子供讃歌 (一〇)	倉橋惣三
講話 幼児の健康保育 (二)	平井信義

記 録

お茶の水奈良岡女大で幼稚園教員養成を開始
埼玉県保連春季大会

官庁公示連絡事項

幼稚園職員免許状授与資格の大幅拡張(文部省)
保母養成所教授要目研究協議会(厚生省)
会から

保育講習会(予告)

幼稚園教諭免許法認定講習会(予告)

第 八 号

保育連合の真義	倉橋惣三
幼児時代(一)	松村康平
幼稚園保育所におけるケース・ワーク(二)	森脇要
アメリカ童話から(三)	松原至大
あさひで	石井哲夫
誌上相談室	相場均
子供讃歌(一一)	倉橋惣三
町や村に幼稚園の増設を	

講話 幼児の健康保育(三)	平井信義
記 録	

第二回東北保育連合大会

保母養成施設現況

幼稚園小学校研究集会

官庁公示連絡事項

幼稚園教育に類する教育を行う施設について(文部省)
会から

保育講習会(予告)

幼稚園教諭免許法認定講習会(予告)

第 九 号

幼児の音楽的発達	山下俊郎
新教育における指導について(一)	玉越三朗
幼児時代(二)	松村康平
幼稚園保育所におけるケース・ワーク(三)	森脇要
幼稚園小学校研究集会参加報告(二)	小山田幾子
講話 幼児の健康保育(四)	平井信義
記 録	

日本保育学会記事

幼稚園関係者懇談会

こどものレクリエーション指導講習会

官庁公示連絡事項

幼稚園の幼児指導要録について (文部省)
会から

保育講習会 (公告)

幼稚園教諭免許法認定講習会 (公告)

第十号

朝の心.....倉橋惣三

アメリカ童話から (四).....松原至大

新教育における指導について (二).....玉越三朗

母の育児態度について (一).....和田豊子

第四回全国保育大会を終えて.....内山憲尚・岡田栄資

幼稚園小学校研究集会参加報告 (二).....山村きよ

子供讃歌 (一一).....倉橋惣三

講話 幼児の健康保育 (五).....平井信義

記 録

文部省科学奨励金受賞者の発表

全国々立大学附属幼稚園主事協議会

長崎県保育会総会並に保育講習会

官庁公示連絡事項

免許法施行法第七条の期間延長 (文部省)

昭和二十五年栄養士試験施行要領 (厚生省)

会から

第十一号

幼稚園保育所の新しい教師.....小林操

母の育児態度について (二).....和田典子

カリキュラム論.....鈴木信政

アメリカ童話から (五).....松原至大

幼稚園小学校研究集会参加報告 (三).....徳久孝

福岡大会記.....秋田美子

子供讃歌 (一二).....倉橋惣三

講話 幼児の健康保育 (六).....平井信義

記 録

全国仏教保育大会

幼稚園小学校研究集会 (北海道ブロック)

保母指導者協議会

会から

第十二号

幼児の教育第四十九卷総目録
会から

第二次アメリカ教育使節団の報告中

幼児教育に関する提言について……………倉橋惣三

第二次アメリカ教育使節団へ保育会からの要望

健康と保育……………波根治郎

お話のおはなし……………上沢謙二

法燈を高く掲げて……………内山憲尚

アメリカ童話から(六)……………松原至大

北海道ワークショップに参加して……………山村きよ

子供讃歌(一四)……………倉橋惣三

認められた幼稚園の先生……………友田静恵

講話 幼児の健康保育(七)……………平井信義

記 録

保育所運営要領刊行

教育指導者講習(IFEEL)の実施

第四回関西連合保育会研究協議会

官庁公示連絡事項

学校教育法施行規則の一部改正について(文部省)

第五十卷（昭和二十六年）

第一号

表紙	脇田和
本誌が第五十巻に入るに当って	日本幼稚園協会
幼児の性格教育	吉田昇
保育鼎談	波多野完治 多田鐵雄 倉橋惣三
アメリカ童話から（七）	松原至大
よき幼稚園	及川ふみ
幼児のリズム指導	戸倉ハル
羽根さんと侃さんのお話	大熊米子
幼児生活の記録の記入についての研究	お茶の水女子大学幼稚園
記 録	

第一回全国国立幼稚園長会協議会
官庁公示連絡事項

昭和二十六年度文部省科学研究奨励交付金について
学校における「文化の日」その他国民の祝日の行事について

会から

第二号

表紙	脇田和
等二次アメリカ教育使節団の報告中	
就学前教育に関する提言に就て	倉橋惣三
幼稚園の現況について	玉越三朗
よき幼稚園（二）	及川ふみ
アメリカ童話から（八）	松原至大
ぼうけん・ぴこちゃんのおはなし	美知子
幼児の社会性の發達の調査記録	渡辺俊枝
子供讃歌（一五）	倉橋惣三
講話 幼児の健康保育（八）	平井信義
記 録	

第六回幼稚園小学校研究集会（中国地区）
第二回山静保育研究会
教育指導者講習会（IFEL） 第一次幼稚園教育終了
東京都公立幼稚園長会發足
第一回全国公立幼稚園長会協議会記録補遺
会から

第三号

表紙	脇田和
幼稚園の三月	倉橋惣三
幼児における描画の発達	山下俊郎
よき幼稚園（二）	及川ふみ
幼稚園の歌	作詞・倉橋惣三 作曲・小松耕輔
幼稚園のP・T・A	多田鐵雄
カリキュラムはこうしてつくられる（一）	鈴木信政
アメリカ童話から（九）	松原至大
講話 幼児の健康保育（九）	平井信義
幼稚園教員臨時養成所入学募集要項	お茶の水女子大学
会から	

第四号

表紙	脇田和
新しい幼稚園の四月	倉橋惣三
幼稚園P・T・A協会の県組織	宮内孝
アメリカ童話から（二〇）	松原至大
私の記録から（一）	堀合文子
都市幼稚園の保育の実際	東京都港区立西桜幼稚園

子供の日の歌	作詞・倉橋惣三 作曲・弘田竜太郎 振付・戸倉ハル
幼児の国際教育・「八にんの子ども」	上沢謙二
幼稚園保育所の先生を語る	秋田美子
講話 幼児の健康保育（一〇）	倉村惣三
記 録	平井信義
全国国公立幼稚園長協議会請願	
会から	

第五号

表紙	脇田和
芽を愛する人	倉橋惣三
カリキュラムはこうしてつくられる（二）	鈴木信政
幼稚園における指導要録について	玉越三朗
記 録	
幼稚園の幼児指導要録について（文部省）	
会から	

第六号

表紙……………脇田和

フレーベル百年記念特集

フレーベル年譜

フレーベル百年記念特集号に序して

日本に於けるフレーベル研究を顧る……………倉橋惣三

フレーベル教育学の根本問題……………長田新

フレーベルの幼児教育論……………莊司雅子

アメリカに於けるフレーベル運動……………水野浩

フレーベルの生涯……………津守真

フレーベル百年記念講演会予告

記 録

単位修得のお知らせ……………日本幼稚園協会

会から

第七号

表紙……………脇田和

フレーベル百年記念講演会予告

皇太后陛下の御崩御を悼み奉る……………倉橋惣三

児童憲章の悲願……………倉橋惣三

児童憲章とその精神……………高島巖

児童憲章……………

幼児期の経験……………松村康平

小学校入学前全幼児保育……………小原武雄

園長学第一歩……………玉越三朗

第四回全国保育大会開催要綱

講話 幼児の健康保育(十一)……………平井信義

官庁公示連絡事項

教育職員免許法同施行法の改正(文部省)

会から

保育講習会予告

幼稚園教諭免許法認定講習会予告

保育応答研究会予告

第八号

表紙……………脇田和

全保連仙台大会の盛会を祈る……………倉橋惣三

保育の充実……………倉橋惣三

夏の自然観察……………堀七蔵

アメリカ童話から(一一)……………松原至大

幼稚園指導研究議会议録(東京淡路幼稚園)

第四回関東保育協議大会記

フレイベル没後百年を記念する二つの催し

官庁公示連絡事項

附属幼稚園の名称変更(文部省)

単位修得のおしらせ

日本幼稚園協会主催・保育講習会

お茶の水女子大学主催・幼稚園教員免許法認定講習会
会から

第九号

特集・日本保育学会第四回大会研究発表

日時・昭和二十六年五月二十七日午前九時
場所・お茶の水女子大学附属幼稚園

幼児の神経質に関する調査……………平井信義
幼児童話に於ける道德観……………内山憲尚
幼児の生活と童話教育について……………寺田豊子
保育知識のアチーヴメントテストについて……………森脇要
保育効果に関する一調査……………竹田俊雄

保育医学の諸問題……………砂田恵一・深田英朗・相場均

保育歯科学の必要性を提唱する……………深田英朗・砂田恵一

乳歯むし歯の意義……………高橋勝哉

保母の健康に関する調査……………平井信義

幼児保育施設一元化問題共同研究報告……………山下俊郎

特別講演 アメリカの幼児教育……………小川正通

シンポジウム 保育施設と家庭及び学校(山下・鈴木・平井・武田)

記 録

日本保育学会記事

会から

第十号

表紙……………脇田和

フレイベル百年祭記念第二特集

フレイベル遺跡巡礼の思い出……………倉橋惣三

新しいフレイベルの発見……………海後宗臣

フレイベルと現代教育の理念……………石山脩平

放送劇「幼稚園の父フレイベル」……………寺田太郎

放送劇「幼稚園の父フレイベル」聴観記……………倉橋惣三

園長学第一歩 (二)	玉越三朗
私の記録から (二)	堀合文子
講話 幼児の健康保育 (十二)	平井信義
会から	

第十一号

表紙	脇田和
独立心と世界心の教育	倉橋惣三
数から見た幼児教育施設の現状	村上米子
言葉に現われた幼児の情緒の一端	鈴木正子
「婦人とこども」創刊当時のこどもと	

幼児の教育相談の方法	村山貞雄
何を話すか	上沢謙二
アメリカ童話から (二三)	松原至大
沖繩の印象	牛島義友
たのしいおしごと帖について	及川ふみ
子供讃歌 (二六)	倉橋惣三
講話 幼児の健康保育 (一四)	平井信義
幼児の教育第五〇巻総目録	
会から	

其の頃の幼稚園の状況について	東基吉
アメリカ童話から (一一)	松原至大
私の記録から (三)	堀合文子
第五回全国保育大会記	
第二回全国国公立幼稚園長会	
講話 幼児の健康保育 (十三)	平井信義
会から	

第十二号

表紙	脇田和
幼児の教育半世紀の辞	倉橋惣三

第五十一卷（昭和二十七年）

第一号

表紙

すべての子供たちのために

ヌース 肯定と否定

協力委員座談会

日本保育界発展のために考慮すべき重要諸問題

牛島・及川・斎藤・多田・波多野・山下・倉橋

就学前の数教育

幼稚園の言語教育

アメリカ童話から（一四）

子供讃歌（一七）

講話 幼児の健康保育（一五）

会から

第二号

表紙

中川紀元

倉橋惣三

山下俊郎

堀七蔵

石井庄司

松原至大

倉橋惣三

平井信義

中川紀元

常に親しく幼児に接する人々

ヌース ころろ温い湯ヶ原幼稚園

農村と都市の保育

農村幼児の保育（一）

都市幼児の保育

ソヴェートの就学前教育

アメリカ童話から（一五）

アメリカだより

日教組第一回全国教育研究大会参加記

冬期における幼児の保健問題

絵本に関する調査について

官庁公示連絡事項

小学校学習指導要領社会科篇の改訂

会から

第三号

表紙

保育の対象は幼児一人一人にある

ヌース わた一貫目と鉄一貫目

倉橋惣三

及川ふみ

根岸草笛

清水桔梗

小川正通

松原至大

相場均

山下俊郎

広瀬興

宮内孝

中川紀元

倉橋惣三

波多野完治

特集Ⅰ 幼稚園と小学校の連絡

幼稚園の立場から..... 檀 葉 勇

内 山 憲 尚

松 石 治

小 林 仲 子

青 柳 義 智 代

小学校の立場から..... 中 川 武 夫

武 藤 光 太 郎

小 林 操

佐々木良治

特集Ⅱ 幼稚園と保育所の先生養成の問題

幼稚園教諭養成の現状について..... 上 野 芳 太 郎

保育母養成施設の現状..... 上 村 一

幼稚園と保育所の先生を養成するについて

昭和二十七年年度募集要綱一覧

子供讃歌(一七)..... 倉 橋 惣 三

アメリカだより(Ⅱ)..... 相 場 均

会から

第 四 号

表紙..... 中 川 紀 元

保育者自省の好機..... 倉 橋 惣 三

ヌース ある新聞記事から..... 多 田 鐵 雄

評価の簡易基準及び評価の手引..... 鈴 木 信 政

農村幼児の保育(Ⅱ)..... 根 岸 草 笛

新入園児の保健..... 齋 藤 文 雄

アメリカ童話から(一六)..... 松 原 至 大

小児麻痺について(Ⅰ)..... 多 田 富 士 雄

講話 幼児の心理(Ⅰ)..... 波 多 野 完 治

第六回全国保育大会予告

幼稚園と保育所の先生を養成するについて

昭和二十七年年度募集要綱一覧

会から

第 五 号

表紙..... 中 川 紀 元

幼児の修身教育に就ての基本的考え方..... 倉 橋 惣 三

ヌース 戦争玩具に関連して..... 牛 島 義 友

農村幼児の保育(Ⅲ)..... 根 岸 草 笛

変った幼児(Ⅰ)..... 村 山 貞 雄

特集座談会

幼児問題を語る……………吉見静江・大島文義・山村きよ・

青柳義智代・秋田美子・鈴木とく・倉橋惣三

芽……………佐竹義輔

子供讃歌(一九)……………倉橋惣三

小児麻痺について(Ⅱ)……………多田富士雄

講話 幼児の心理(Ⅱ)……………波多野完治

官庁公示連絡事項

幼稚園の設置基準について

第六回全国保育大会予告

会から

第六号

表紙……………中川紀元

幼児の自らもつものを……………倉橋惣三

ヌースのびてくる力……………斎藤文雄

児童と文化……………中山茂

若い人の健康……………重田定正

幼児保育者の教養……………松村康平

ことしのわれらの保育大会……………倉橋惣三

変った幼児(Ⅱ)……………村山貞雄

幼児の遊びと保育計画(Ⅱ)……………飯沼てる

アメリカ通信(Ⅰ)……………津守真

講話 幼児の心理(Ⅲ)……………波多野完治

第三回全国国公立幼稚園長会要領

第一回全国保育事業大会案内

教育実習指導研究会

第六回日本保育大会開催要綱

日本保育学会第五回大会開催案内

会から

第七号

表紙……………中川紀元

幼児の帰った後のしゝま……………倉橋惣三

夏期に於ける幼児健康上の注意……………広瀬興

幼児の性教育……………平井信義

どんな幼稚園がよい幼稚園でしょうか(上)……………小川正通

谷間におちた保母のうた……………鈴木とく

蜜蜂の世界から……………岡田一次

アメリカ童話から(一七)……………松原至大

京都の保育界……………柳沢静子

個別指導について―記録法による―……………国分順子
 第五回関東保育研究会……………高橋寿美夫

官庁公示連絡事項

幼稚園教育理解のために

日本幼稚園協会主催保育講習会

幼稚園教員免許法認定講習会

日本保育事業大会予告

会から

第八号

表紙……………	中川紀元
先生の読書期……………	倉橋惣三
私の幼児教育研究の宿題……………	三木安正
疲労の生理と病理……………	重田定正
幼児の宗教性をさぐる……………	上沢謙二
幼児の絵画製作の種類(一)……………	副島ハマ
自家中毒症……………	斎藤文雄
蟻と蜂の生活から……………	深谷昌次
アメリカ童話から(一八)……………	松原至大

講話 幼児の心理(Ⅳ)……………波多野完治
 お茶の水女子大学主催幼稚園教員免許法認定講習会
 日本幼稚園協会主催講習会

官庁公示連絡事項

モデル幼稚園候補校の指定

幼稚園基準について

会から

第九号

表紙……………	中川紀元
我国の保育界……………	倉橋惣三
九月の保育……………	堀合文子・鈴木とく
キンダーブックに浮世絵を入れたことについて……………	倉橋惣三
私と浮世絵……………	山田徳兵衛

特集・日本保育学会第五回大会研究発表

愛育研究所……………	竹田俊雄
日本乳児教育研究所……………	砥上種樹
愛育研究所……………	平井信義
愛知学芸大学……………	鈴木信政
名古屋市みらる幼稚園……………	峯親吉

記 録

会から

第 十 号

表紙

秋の賦

ヌース 育てる者の喜びと淋しさ

シンポジウム 幼稚園と保育所をどう考えるか

山下俊郎・大島文義・筑紫孝一・副島ハマ・

小宮山主計・森脇要・小川正通

保育医学研究所 深田英朗
神戸市立神戸幼稚園 中谷久子
保育医学研究会 梶原文子

大阪キリスト教短期大学聖愛幼稚園 小木曾光子

愛知学芸大学 水野久一郎

名古屋市立保育専門学園 珠川善子

千葉大学 宮内孝

高田幼年教育研究会 根岸草笛

京都市児童院保育所 坂本幸子

東京高第保育学校 内山憲尚

頤栄短期大学 西本脩

第十一号

表紙

ゆきと、かない人

ヌース 考えてみましょう

幼児の躰と道徳教育

私のみてきたアメリカ教育

保育所の家庭化的運営

自由遊びの性格

こどもの怪我の応急手当

幼児の絵画製作の種類 (二)

いたずらっ子

私の幼児教育研究の宿題 (二) 三木安正
どんな幼稚園がよい幼稚園でしょうか (下) 小川正通

アメリカの幼児教育視察報告 安間公観

名古屋市・愛知県の保育界 浅野寿美子

青いヴェール 松村康平・倉橋惣三

十月の保育 堀合文子・鈴木とく

アメリカ童話から (一九) 松原至大

楽しい幼稚園の給食 鹿野京子

アメリカ通信 (二) 津守真

会から

中川紀元

倉橋惣三

及川ふみ

吉田昇

児玉省

鈴木豊蔵

宮内孝

平井信義

副島ハマ

谷口和子

十一月の保育……………堀合文子・鈴木とく

アメリカ通信 (三)……………津 守 真

折にふれて

第十二号

表紙……………中川 紀 元

冬を迎える……………倉 橋 惣 三

ヌース P・T・Aとスライド……………波多野完治

弱い子供を丈夫に……………内藤寿七郎

保育所における保育の健康管理について……………珠 川 善 子

幼児の遊びと保育計画 (二)……………飯 沼 てる

都会の幼児は日光を求める……………徳 久 孝 子

英語国民の一大宝庫 (マザー・グースについて)……………松 原 至 大

幼児の信仰教育に就て……………高 崎 能 樹

終戦前後の長崎保育界から……………荒 木 嘉 弘

報告 (二) たべものに関した話を創る子供……………谷 口 和 子

十二月の保育……………堀合文子・鈴木とく

アメリカ通信 (四)……………津 守 真

第五十一巻総目録

折にふれて

第五十二巻 (昭和二十八年)

第一号

表紙……………三 岸 節 子

日の丸の国旗……………倉 橋 惣 三

ヌース 仔馬の思い出……………多 田 鐵 雄

幼児ともだち……………山 下 俊 郎

問いに答えて

日光と健康……………重 田 定 正

講話 生理慾望の教育 (二)……………加 藤 常 吉

変わるということ……………松 村 康 平

岡山県保育界の今昔……………從 野 静 江

たのしいおしごと (一)……………及 川 ふ み

アメリカ童話から (二〇)……………松 原 至 大

一月の保育……………堀合文子・鈴木とく

折にふれて

折にふれて

第二号

表紙……………三 岸 節 子

芽を愛する心……………倉 橋 惣 三

ヌース ひとりひとりの保育……………斎 藤 文 雄

特集 希望と計画 (一)

先生方と童話の話方について語る……………櫻 葉 勇

雪国の幼稚園……………藤 幼 稚 園

雪国の保育所……………藤 沢 う め

第一回九州幼稚園連合大会を終りて……………高 森 豊

第二回全国仏教保育大会について……………鳥 越 正 道

講話 生理慾望の教育 (一)……………加 藤 常 吉

報告 (三) 内気な子供……………谷 口 和 子

アメリカ童話から (二)……………松 原 至 大

二月の保育……………堀合文子・鈴木とく

第 三 号

表紙……………三 岸 節 子

幼稚園近感……………倉 橋 惣 三

ヌース テスト雑感……………牛 島 義 友

希望と計画 (二)

幼児の神経質……………村 山 貞 雄

ひなまつりとその飾り方……………山 田 徳 兵 衛

春の雑草……………佐 々 木 尚 友

小鳥を飼う楽しみ (一)……………高 島 春 雄

たのしいおしごと (二)……………及 川 ふ み

アメリカ童話から (三)……………松 原 至 大

三月の保育……………堀合文子・鈴木とく

折にふれて

第 四 号

表紙……………三 岸 節 子

希望と計画……………倉 橋 惣 三

ヌース 子どもの研究と理解について考えること……………山 下 俊 郎

新入園児を迎える……………松 石 治 子

新入園児の母への手紙……………鹿 野 京 子

新入園の子供たちに……………平 井 信 義

幼稚園と小学校……………中 川 武 夫

幼児に釈迦を如何に語るべきか……………笠 原 秀 定

小鳥を飼う楽しみ (二)……………高 島 春 雄

保育所の現状と問題……………平 野 恒 子

たのしいおしごと (三)	及川 ふみ
アメリカ童話から (二三)	松原 至大
四月の保育	堀合文子・鈴木とく
お茶の水女子大学児童相談部開設のお知らせ	
折にふれて	

第五号

表紙	三 岸 節 子
人間性の涵養(一)	倉 橋 惣 三
ヌース 幼稚園の先生の今昔	及川 ふみ
幼児保育団体について	多 田 鐵 雄
幼稚園児のグループリーダー形成について(一)	摩 瀬 靖 正
絵画の具体的指導目標の設定について	富 田 陽 子
アメリカ通信(五)	津 守 真
たのしいおしごと(四)	及川 ふみ
五月の保育	堀合文子・鈴木とく
この子供たち(一)	松原 至大
教育実習指導研究会のお知らせ	お茶の水女子大

第六号

表紙	三 岸 節 子
人間性の涵養(二)	倉 橋 惣 三

ヌース しつけの時機	波多野完治
幼児と団体生活	山下俊郎
遊びと生長	小川 正 通
幼稚園児のグループリーダー形成について(二)	摩 瀬 靖 正
保育研究大会の準備と処理の記録をたどって	高橋寿美夫
講話 生理欲望の教育(三)	加藤 常 吉
たのしいおしごと(五)	及川 ふみ
懐しい先生方へ	津 守 真
六月の保育	堀合文子
アメリカだより	相 馬 均
この子供たち	松原 至大
教育実習指導研究会(お知らせ)	お茶の水女子大
キンダーブックまつりのお知らせ(フレーベル館)	

第七号

表紙	三 岸 節 子
人間性の涵養(三)	倉 橋 惣 三
ヌース 一つの希望	多 田 鐵 雄
夏季保育誌上講習会	

幼児の製作の新しい指導	及川 ふみ
幼児の精神衛生	松村 康 平

夏の保育医学.....	平井信義
幼稚園の最近のすう勢.....	玉越三朗
講話 生理欲望の教育(四).....	加藤常吉
七月の保育.....	堀合文子・鈴木とく
この子供たち.....	松原至大
ゆうぎ講習会・幼稚園教員免許法認定講習会 (予告).....	お茶の水女子大

官庁公示連絡事項

昭和28年度の幼稚園、小学校研究会の実施について

.....文部省

盛大に行われたキンダーブックまつり.....フレイベル館

第八号

表紙.....	三岸節子
人間性の涵養(四).....	倉橋惣三
ヌース 特別保育.....	牛島義友
日光と幼児.....	平井信義
幼児ばなしの裏と表.....	上沢謙二
講話 生理欲望の教育(五).....	加藤常吉
アメリカ通信(六).....	津守真
たのしいおしごと(五).....	及川ふみ
セミとトンボ.....	古川晴男

八月の保育.....	堀合文子・鈴木とく
アメリカだより.....	相場均
この子供たち(四).....	松原至大
官庁公示連絡事項	
昭和28年度の文部省建築モデルスクール	
候補校の申請について.....	文部省

第九号

表紙.....三岸節子

特集・日本保育学会第六回大会研究発表

日本女子大学 奥野あや子・前田美和	稲毛卓
東京学芸大学	種崎正徳
愛知学芸大学	野崎とし子
一宮市浅井保育園	甲斐久生・渡辺紀久子
名古屋市立保育短期大学	鈴木とく
江東橋保育園	秋田美子
東京都庁	平井信義
愛育研究所	小木曾光
大阪基督教短期大学	深田英朗
保育医学研究会	小川正通
大阪学芸大学	

シンポジウム 『幼児保育と準備教育』

西南学院短期大学	高橋さやか
お茶の水女子大学	平井信義・千羽喜代子・野田幸江
日本女子大学	児玉省・岡野伊津子・斎藤愛子
名古屋市立保育短期大学	珠川善子・白木喜美子・桜井良子
一宮市養育園	高島栄美子
愛知県立女子短期大学	江上秀雄
愛育研究所	竹田俊雄
頤栄短期大学	西本脩
栄光幼稚園	日名子太郎

第十一号

わが国幼稚園の史的変遷(一).....	古木弘造
保育者の精神衛生(一).....	西本脩
生理欲望と教育(終結).....	加藤常吉
この子供たち(五).....	松原至大
六十年前の幼稚園.....	吉田昇
幼稚園に於ける言語の指導(一).....	今輩倍素行
話の理解について報告(四).....	谷口和子
九州水害地見舞の記.....	フレール館

第十号

表紙.....	三岸節子
人間性の涵養(一).....	倉橋惣三
ヌース 身辺のことから.....	山下俊郎
己れ自らを知る.....	重田定正
日本女子大学	村山貞雄
成蹊小学校	滑川道夫
お茶の水女子大学	周郷博
音羽幼稚園	柿内三郎
愛育研究所	平井信義

表紙.....	三岸節子
人間性の涵養(拾遺).....	倉橋惣三
ヌース 幼稚園の起源.....	多田鐵雄
はき出させる教育.....	三木安正
厳肅なる幼児教育.....	安間公観
わが国幼稚園の史的変遷(二).....	古木弘造
アメリカだより.....	相場均
倉橋惣三著「幼稚園真諦について」.....	山下俊郎
沖繩の叫び.....	内山憲尚
幼稚園における言語の指導(二).....	今輩倍素行
アメリカ通信(七).....	津守真
第六回関東保育研究大会記録.....	運営本部員(長沼依山)

この子供たち(六)……………松原至大

第十二号

表紙……………三岸節子

人間性の涵養(拾遺二)……………倉橋惣三

ヌース 大きな舞台と小さな舞台……………及川ふみ

幼稚園の「社会」の指導はどうしたらよいか……………鈴木信政

保育者の精神衛生(二)……………西本脩

改訂された「音楽リズムの指導書」にもとづいて……………山村きよ

冬の室内衛生(暖房其の他の注意)……………広瀬興

クリスマスのおはなしと幼児……………上沢謙二

和歌俳句にある「雪」……………石井庄司

アメリカ通信(八)……………津守真

この子供たち(七)……………松原至大

第五十二卷 総目録

大戸美也子・国吉榮共編
幼児保育史年表

昭和十九年
一九四四年
昭和三〇年
一九五五年

本年表作成に当たっては、『幼児の教育』誌に関連のある事項に重点をおき、戦後日本の社会及び教育事情との関連が明瞭になるように配慮した。年表上欄「日本の幼児保育事項」には、日本の幼児保育に関する事項及び刊行物を記載し、下欄「関連事項」には、社会・文化の主要事項及び教育関係刊行物を記載した。第一期復刻別巻の年表とあわせて参考にされたい。なお、本年表作成に当たっては、主として次の書物を参照した。

日本幼稚園協会編『幼児の教育』第四四卷～第五四卷 フレーベル館

文部省『幼稚園教育百年史』 ひかりのくに株式会社 一九七九

岡田・久保・坂元・穴戸・鈴木・森上編『戦後保育史Ⅰ・Ⅱ』 フレーベル館 一九八〇

大田堯編著『戦後日本教育史』 岩波書店 一九七八

『近代日本総年表』 岩波書店 一九六八

渡辺柴郎實『フレーベル館七十年史』 フレーベル館 一九七七

一番ヶ瀬康子他篇『日本の保育』 ドメス出版 一九六二

『日本キリスト教保育八十年史』 基督教保育連盟 一九六六

お茶の水女子大学文教育学部附属幼稚園「年表・幼稚園百年史」 国土社 一九七九

日本保育学会『日本幼児保育史』第六卷 フレーベル館 一九七五

『倉橋文庫』蔵書（お茶の水女子大学図書館蔵）

〔凡 例〕

- 一 記載順序は、各月日付の早いもの順とし、日付不明の場合はその月の末尾に記載してある。また月日不明の場合はその年度の終りに一括して記載してある。
- 二 刊行物は、上欄に保育専門図書を、下欄に関係図書をそれぞれ著者名のアルファベット順に記載してある。
- 三 「」は行政関係の法令・通達等及び書名を示す。「」は雑誌名を示す。
- 四 (米)は米国、(英)は英国、(ソ)はソビエト連邦、(カ)はカナダを標記している。

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和一九 一九四四 『幼児の教育』 第四四巻	四・一九 東京都、幼稚園閉鎖令を出す 五・一七 「学校身体検査規定」制定 五・—— 「戦時託児所設置規準」制定 六・一三 城戸幡太郎検査される 七・—— 東京都、疎開保育所を開設する 九・一 東京女子高等師範学校附属幼稚園休園 三・—— 愛育研究所附属保育所で集団疎開始まる（この年、農 繁期保育所五万を超える） 三・—— 『幼児の教育』誌、十二月を最後に休刊となる（一・二 一・九）	一・二六 東京、名古屋、指定区域内の建築物強制取壊 し、以後各都市で強制疎開実施される 二・二五 「決戦非常措置要綱等」閣議決定 三・二八 「学校ニ於ケル休業日ニ関スル件」公布 四・一 雑誌『日本ノコドモ』創刊（三月、東京大空 襲により休刊（二・一・三） 国民図書刊行 会 六・六 連合軍ノルマンディー上陸 六・三〇 国民学校初等科児童の集団疎開決定 日本出版会、空襲対策として児童用絵本三〇 〇万冊を疎開 七・一八 東条内閣総辞職 七・—— （ソ）妊婦および多子家庭に対する国家の援 助決定 二・一 B 29 東京初爆撃 三・—— （ソ）幼稚園規定制定 —— （英）バトラー法制定 —— （米）二五四人以上の集会禁じられる

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
<p>昭和二〇 一九四五</p> <p>『幼児の教育』 休 刊</p>	<p>三木安正「乳幼児の保育」 柴山教育出版社</p> <p>守屋光雄「乳幼児心理学」 内外出版</p> <p>関猛、功刀よし子「保育教材幼児の遊びと指導」 照林堂書店</p> <p>竹下直之他編「就学前の児童」 国民図書刊行会</p> <p>山下俊郎「幼児の家庭保育」 大理書房</p> <p>三・一八 「決戦措置要綱」閣議決定（国民学校初等科を除き、学校における授業を四月から一年間停止することとする）</p> <p>二・九 東京女子高等師範学校附属幼稚園、保育開始式</p> <p>三・― 東京都、都立託児所集団疎開を引揚げ、野外保育をはじめ。</p> <p>守屋光雄「児童心理学研究」 京都印書館</p>	<p>一・六 東京高師附属国民学校・中学校等で自然科学特別学級発足</p> <p>二・四 英米ソ、ヤルタ会談</p> <p>三・九 B 29 東京大空襲（死者12万人）</p> <p>三・― （ソ）「幼稚園教師のための指導書」第二版出版</p> <p>四・一 米軍沖繩本土に上陸</p> <p>四・一二 ルーズベルト大統領没して、副大統領トルーマン 第三十二代大統領に就任</p> <p>四・― 全米ナースリー協会のパンフレット発刊（一九五四年、The J. of Nursery Education と改称後、一九六四年 Young Children に改称）</p>

- 五・七 独軍、連合軍へ無条件降伏
- 五・二二 「戦時教育令」公布（全学校・職場に学徒隊
結成）
- 八・六 広島に原子爆弾投下
- 八・九 長崎に原子爆弾投下
- 八・一五 ポツダム宣言受諾 無条件降伏
- 八・二〇 教科書の黒塗り始まる
- 八・二七 ラジオ放送「小国民の皆さんへ」始まる
- 九・一〇 GHQ、「言論及び新聞ノ自由ニ関スル覚書」
を政府に通告
- 九・一五 文部省、「新日本建設の教育方針」発表
- 九・―― 「戦災孤児等保護対策要綱」閣議決定
- 一〇・四 雑誌『世界』創刊 岩波書店
- 一〇・五 「戦時教育令」廃止
- 一〇・一〇 集団疎開児童帰京開始
- 一〇・一五 「私立学校ニ於ケル宗教教育ニ関スル件」訓
令（私立学校の宗教教育許される）
- 教學練成所を教育研修所に改編 所長城戸幡
太郎（四九・六、国立教育研究所となる）
- GHQ、「日本教育制度ニ関スル管理政策」指
令

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
		<p>一〇・二四 国際連合正式に成立</p> <p>一〇・三〇 GHQ、教育関係者の超国家主義者追放を指 令</p> <p>二・二六 GHQ、図書館開設（アメリカ文化センター の前身）</p> <p>二・—— NHK、幼児の時間始める</p> <p>三・一 全日本教員組合発足（二一・五 全日本教育 労働組合に改称）</p> <p>三・一五 GHQ、国家神道の禁止を指令</p> <p>三・一七 「婦人参政権」公布</p> <p>三・二四 劇団東童「青い鳥」上演</p> <p>三・三一 GHQ、修身・日本歴史及び地理の授業停止 と教科書回収を指令</p> <p>—— 「お山の杉の子」「りんごの歌」など流行</p> <p>—— （米）パティ・ヒル基金、戦時下のノルウェ ー教師に授与される</p> <p>Piaget, J.: La Formation du symbole chez l'enfant (英語訳 Play, Dream and Imitation</p>

<p>昭和二 一九四六 『幼児の教育』 第四五巻 (一〇月復刊)</p>	<p>一——「ヒカリノクニ」創刊(全日本保育連盟監)昭和出版 (二二・六に「ひかりのくに」に改題) 二——恩賜財団母子愛育会研究所内、日本保育研究会再発足 三・五第一次アメリカ教育使節団来日 三・三—アメリカ教育使節団、報告書提出(四・七発表 第三章「子どもの成長についての正しい原則からいって、学校的な施設を幼児にまで拡張することが、正当である。正規な学校教育組織に必要な修正がなされ、適当な予算を与えた後に、補助的な保育学校(ナーセリー・スクール)や幼稚園を設置して、それを初等学校の一部分に編入することを勧告する。」) 四——東京女子高等師範学校附属幼稚園、第一部、第二部の編成を廃止 休園していた幼児も復園し前年募集の園児と合併し、組編成する 四——奈良女子高等師範学校、保育科を再開 四——日本保育研究会、「保育巡回懇談会」を都内一二か所で開催 四——厚生省、社会局に援護課設置(児童福祉所管) 五・一雑誌『保育』復刊 全日本保育連盟監 昭和出版 五・一四「国民学校及幼稚園の調査に関する件」通達 六・二〇「公立学校官制」改正(公立幼稚園の職員は地方教官</p>	<p>in Childhood 一九五二) Spitz, R.A.: Hospitalism in Psychoanalytic Study of the Child vol. I 一・一 天皇、神格否定の詔書(人間宣言) 二・二二「国民学校令等戦時特例」廃止 三・四「国民学校令施行規則」改正(修身、国史、地理の關係条項の執行を停止) 三・一五(ソ)第四次五ヶ年計画(一五〇年 教育費を一九四〇年の二・六倍にする) 三——雑誌『子供の教養』高崎能樹編復刊 子供の教養社 四・一「公立学校令」公布 四——雑誌『日本ノコドモ』復刊 国民図書刊行会 四・二二「サザエさん」、「夕刊フクニチ」に連載開始 四——雑誌『赤とんぼ』創刊(一四八・十)実業之日本社 四——雑誌『思想の科学』創刊 思想の科学社 五・一雑誌『子供の広場』創刊 新世界社 五——メーデー、一年ぶりに復活 五——文部省、「新教育指針」発表 五——後藤梢根、日本童話会結成 雑誌『童話』創刊</p>
--	--	---

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
六・二一	となり、職名は園長のみ残る) 「幼稚園令」改正(「保姆」を「幼児ノ保育ヲ掌ル職員」、「保姆免許状」を「幼稚園教員免許状」とする)	六・二一 「国民学校令」改正(訓導を教員とする)
七・二七 ^三	仏教保育協会講習会開催	六・—— 「リーダーズダイジェスト」日本語版創刊 リーダーズダイジェスト日本支社
八・一〇	「教育刷新委員会」設置	七・七 日本童画会結成
八・二〇	觀察絵本『キンダーブック』復刊 フレーベル館	八・二八 「階名唱法について」通達(戦時中のイロハ音法を改める)
九・二二 ^四	日本幼稚園協会講習会再開される	九・七 雑誌「日本児童文学」創刊 新世界社
九・——	生活保護法により、託児所が保護施設となる	一〇・九 「男女共学制度の実施について」通達 雑誌「銀河」創刊(一四九・八) 新潮社
一〇・一	「幼児の教育」復刊される(編集主幹・倉橋惣三 編集委員・牛山義友、及川ふみ、斎藤文雄、多田鉄雄、山下俊郎 巻頭論文・倉橋惣三「新日本建設と幼児教育の使命」印刷、発売、発送等実務一切をフレーベル館に委託) 倉橋惣三「保育者の新しいノート」、「幼児の教育」に掲載される(第四五卷一・二号)	二・二六 当用漢字表(一八五〇字)および現代かなづかい告示
一〇・一一	「幼稚園令施行規則」改正(六・二一の「幼稚園令」改正に準ずる)	三・—— 「学校給食の普及、奨励について」通達 出版社の復活、誕生が相次ぎ、その数は四〇〇社を超えた。空前の出版ブーム到来 (米)パティ・ヒル、アリス・テンプル死去 (英)保健法制定(新設保育所への一〇〇%)
一〇・——	民主保育連盟発足(会長 羽仁説子、民主保育ニュース 創刊)	
二・三	「日本国憲法」公布(五・三施行)	

<p>昭和二二 一九四七 『幼児の教育』 第四六卷</p>	<p>二・—— 基督教保育連盟、戦後第一回大会開催、（於 京都）</p> <p>三・一 東京都私立幼稚園協会再発足（理事長 青柳義智代）</p> <p>三・二七 教育刷新委員会「教育の理念及び教育基本法に関すること」、「学制に関すること」、「私立学校に関すること」、「教育行政に関すること」を建議</p> <p>三・—— 倉橋惣三「米國教育使節団報告書中の幼児教育に関する提言と学校教育の下への延長」、「幼児の教育」に掲載される（第四五卷二号）</p> <p>「アメリカの幼児教育」の紹介記事『幼児の教育』に掲載される（第四五卷二・三号）</p> <p>高崎能樹「新教育の実際 育ての道」 子供の教養社</p> <p>一・—— 「現代かなづかい」が『幼児の教育』に附録として掲載される（第四六卷一号・二号、『幼児の教育』第四十六卷の掲載論文から現代かなづかいに統一される）</p> <p>一・二五 中央社会福祉事業委員会、「児童福祉要綱案」答申</p>	<p>援助停止、無認可保育所の発生を促す）</p> <p>Allport, T. and Postman, L.: The Psychology of Rumor (南博訳「噂の心理学」 岩波書店 一九五二)</p> <p>Carmichael, L. (Ed.): Manual of Child Psychology</p> <p>Gessell, A.: The Child from Five to Ten (周郷博・山下俊郎・大羽綾子・神山正治訳「学童の心理学 五才より十才まで」 新教育協会 一九五四)</p> <p>Jersild, A.T.: Child Development and the Curriculum (依田新・正木正・長島貞夫訳「児童の発達とカリキュラム」 新教育協会 一九四九)</p> <p>Spock, B.: Common Sense Book of Baby and Child Care (高津忠夫監修「スポック博士の育児書」 暮しの手帖社 一九六六)</p> <p>一・—— 東京で学校給食開始（ララ物資による副食のみ）</p>
---	--	--

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>二・六 「新学校制度の実施について」通達</p> <p>二・一二 幼児教育内容調査委員会発足（保育要領の作成はじまる）</p> <p>二・—— 全日本保育連盟、「幼児保育施設の整備拡充に関する建議案」発表</p> <p>三・三一 「教育基本法」「学校教育法」公布（幼稚園法制化される。幼稚園令の廃止）</p> <p>三・—— 厚生省に児童局新設</p> <p>四・—— GHQのヘレン・ヘフアーナン女史「現代幼稚園教育の発達」、「幼児の教育」に掲載される（第四六卷三号）</p> <p>五・二三 「学校教育法施行規則」制定（幼稚園令施行規則を廃止）</p> <p>笠原謙二郎「学校教育法施行規則幼稚園の部解説」、「幼児の教育」第四六卷六・七号に掲載される</p> <p>五・—— 「教育基本法」「学校教育法」が「幼児の教育」に附録として掲載される（第四六卷四号）</p> <p>倉橋惣三「学校教育法における幼稚園」、「幼児の教育」に連載始まる（第四六卷五・八号 東京都主催、倉橋講師による「学校教育法における幼稚園の性格とその保</p>	<p>二・—— 石井桃子「ノンちゃん雲にのる」刊 光文社</p> <p>三・一二 （米）トルーマン・ドクトリン発表（共産化防止のための対外援助を提案）</p> <p>三・二〇 「学習指導要領」（一般編試案）刊</p> <p>四・一 六・三・三制実施 新制中学校発足</p> <p>四・七 「労働基準法」公布（九・一施行）</p> <p>四・一七 「地方自治法」公布</p> <p>四・—— 戦後初の「全日本おもちゃ展」開催</p> <p>五・二一 「教職員の除去、就職禁止及び復職に関する政令」公布</p> <p>五・二三 「学校教育法施行規則」制定（小学校の教科は、国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、家庭、体育、自由研究の九教科が基準となる）</p>

	<p>育原理」の講習会筆記)</p> <p>五・—— 第一回全国児童福祉大会開催(会長 中川望、於 東京日赤)</p> <p>第一回全国児童福祉週間実施</p> <p>六・一一 東京都保育連合会結成</p> <p>六・一八 「小学校、新制中学校及び幼稚園教員認定講習会実施基準に関する件」通達</p> <p>七・三〇 幼稚園教員認定講習会第一期開催(於 東京女高師 課目・「新憲法及び教育基本法」その他)</p> <p>七・—— 基督教保育連盟第一二回(戦後第一回)夏期講習会開催</p> <p>七・—— 文部省初等教育課に特殊教育と幼稚園担当視学官がおかれる</p> <p>八・一三 土川五郎死去</p> <p>九・—— 私立学校教職員組合幼稚園部設立</p> <p>一〇・八二 幼稚園教員認定講習会第二期開催(於 東京女高師 課目・「保育要領」その他)</p> <p>一〇・一七 関西連合保育会研究協議会第一回大会(戦後再開されたはじめての会合 於 京都 『幼児の教育』第四六卷十号に内容紹介)</p> <p>二・三三 全国保育連合会発足 第一回全国保育大会開催(於 東京女高師 『幼児の教育』第四六卷十号、第四七卷</p>
<p>六・八 日本教職員組合結成</p> <p>七・—— 菊田一夫「鐘の鳴る丘」放送開始(七九〇回、主題歌「とんがり帽子」流行)</p> <p>六 教育刷新委員会、「教育養成について」建議</p> <p>二・一一 視学制度を廃止し、指導主事の設置を通達</p> <p>—— (米)ACE(児童教育協会)、ACEI(国際児童教育協会)に改称される</p> <p>田中寛一「田中びねー式知能検査法」世界社</p> <p>Y M C A 編「ゲームと指導」日本基督教女子青年会</p> <p>Axline, V. M.: Play Therapy (小林治夫訳「遊戯療法」岩崎書房 一九五九)</p> <p>Early Childhood Education (National Society for the Study of Educationの第四六年次第一部で特集す</p>	

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
<p>昭和二三 一九四八 『幼児の教育』 第四七巻</p>	<p>一（三号に内容紹介）</p> <p>三・八 教育刷新委員会、「学制に関する事」の追加を建議 （幼稚園を学校体系の一部とし、五歳以上の幼児の保育を義務制とすることを希望すること）</p> <p>三・一二 「児童福祉法」公布（二三・一・一施行）</p> <p>三・—— 厚生省児童局に保育課新設</p> <p>木田文夫「遺伝体質学」 雄山閣 日本幼稚園協会編「幼稚園お話集」 フレーベル館 飛田多喜雄「幼児の言語教育」（保育叢書二二） 巖松堂</p> <p>一・二八 「公立中学校、小学校及び幼稚園官制」公布（公立幼稚園の職員を園長、教諭、地方教官とし、地方教官は園長又は教諭をもって充てることとする 二二・四・一から適用）</p> <p>三・一 「保育要領―幼児教育の手びき―」刊行</p> <p>三・一〇 幼児保育協議会開催（東京他三会場、各三日、保育要</p>	<p>る J・E・アンダーソン博士他編集）</p> <p>一・—— 児童詩雑誌『きりん』創刊 尾崎書房 『小学一年の学習』『小学二年の学習』創刊 学習研究社</p> <p>二・一六 義務教育漢字八八一字 発表</p> <p>二・—— 「手をつなぐ子等」「蜂の巣の子どもたち」 上映</p>

領の趣旨徹底)

- | | |
|--|---|
| <p>三・—— 和田実「幼稚園に関する新法令に疑義あり」、「幼児の教育」に掲載される(第四七卷三三号)</p> <p>三・—— 厚生省、「児童福祉法施行令」公布</p> <p>四・—— 第一回児童福祉委員会(審議会)開催</p> <p>四・二四 「学校教育法施行規則」改正(第四百四条第三号の規定により、幼稚園教諭仮免許状を有する者とみなす者を指定)</p> <p>五・二三 関東保育連合会結成、同協議会第一回大会開催(於埼玉師範学校)</p> <p>七・三〇 日本幼稚園協会保育講習会開催(「保育要領」研究討議会・司会 倉橋惣三・他)</p> <p>七・三〇 第二回全国保育大会(於 奈良、会長 倉橋惣三)</p> <p>七・二八 「幼児の教育」第四七卷七号に内容紹介</p> <p>七・二八 全国私立幼稚園連盟(現在の日私幼)結成(二四年日本私立幼稚園連合会と改称)</p> <p>九・二二 保育要領改訂委員会発足(「幼稚園のための指導書音楽リズム」の作成)</p> <p>二〇・七 「公立学校職員等臨時設置制」公布(公立中学校、小</p> | <p>四・一 ベルリン封鎖</p> <p>四・七 「中学校の就学義務及び設置義務に関する政令」公布</p> <p>五・一一 世界保健機構(WHO)発足</p> <p>五・一一 厚生省、母子手帳の配布を開始</p> <p>五・—— 美空ひばり、デビュー</p> <p>六・四 「学校基本調査規則」公布</p> <p>六・二七 PTA第一回全国協議会開催</p> <p>七・一〇 「市町村立学校職員給与負担法」公布(市町村立小学校、中学校の教職員の給与を都道府県の負担とする)</p> <p>七・一五 「教育委員会法」公布(一一・一施行)</p> <p>七・二〇 「国民の祝日に関する法律」公布</p> <p>九・二〇 雑誌『暮しの手帖』創刊 暮しの手帖社</p> <p>二〇・四 教育長、指導主事等を対象とする教育指導者</p> |
|--|---|

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>○・一六 学校及び幼稚園官制を廃止)</p> <p>関西連合保育会研究協議会第二回大会開催 (於 大阪、幼児教育の向上発展に関する建議書提出「幼児の教育」第四七卷一〇号に内容紹介)</p> <p>○・一 日本私学団体総連合会、日私幼の加盟を承認</p> <p>二・二一 日本保育学会発足 第一回研究発表会開催 (於 東京 女高師附属幼稚園 会長 倉橋惣三、副会長 小川正通・山下俊郎) 発表論文12、シンポジウム「幼児の教育年令の問題」(「幼児の教育」第四八卷二三合併号に論文収録)</p> <p>二・一二 第二回全国保育大会開催 (於 奈良、「幼児保育機関の刷新振興に関する建議及び請願」を提出)</p> <p>三・二九 「児童福祉施設最低基準」施行</p> <p>上沢謙二「幼児のお話教育」(保育叢書一六) 巖松堂</p> <p>倉橋惣三「幼稚園雑草」再刊 乾元社 (初版昭和二) 内田老鶴園</p> <p>百田宗治「子供の世界」 小峰書店</p> <p>文部省「保育要領」 師範学校教科書株式会社</p> <p>奈良島知堂「子供へのお話の仕方」 小峰書店</p> <p>根岸草笛「農村乳児保育」「農村幼児保育」(保育叢書一二・一四)</p>	<p>二・三〇 講習 (IFEI) 開始 コアカリキュラム連盟発足 (二八年、生活教育連盟と改称)</p> <p>三・一 父母と先生の会参考規約を都道府県に配布 (PTAの結成の普及を促す)</p> <p>三・一二 「小学校学籍簿について」通達</p> <p>「童謡絵本」刊行開始 トッパン</p> <p>世界幼児教育機構 (OMEP) 結成 (英) 保育所、託児規制法 (Nursery and Child Minders Regulation Act)</p>

<p>昭和二四 一九四九 『幼児の教育』 第四八巻</p>	
<p>二・一 学校施設の確保に関する政令」公布</p>	<p>巖松堂</p> <p>日本幼稚園協会編「幼稚園お話集」下篇 フレーベル館</p> <p>小川正道「新しい幼児教育のために」 昭和出版</p> <p>酒田富治「幼児の音楽教育」(保育叢書一五) 巖松堂</p> <p>副島ハマ「子供と母親の製作玩具」 片井商会出版部</p> <p>外林大作「児童心理学」 銀杏書房</p> <p>武政太郎「最近発達心理学(上)」 世界社</p> <p>戸倉ハル他「うたとゆうぎ」(春の巻・秋の巻) 二葉書店</p> <p>東京文理科大学内児童研究会編「児童の行動と発達(下)」(児童心理叢書二) 金子書房</p> <p>東京都保育研究会音楽部編「子供たちの楽しい歌」(全4冊) 白眉社</p> <p>一・一二 「教育公務員特例法」公布</p>
<p>二・一〇 大学設置委員会、新制公私立大学79校を決定</p>	<p>青木誠四郎「精神薄弱児及中間児童」 壮文社</p> <p>後藤岩男「児童理解の方法」 世界社</p> <p>警視庁保安少年部少年第二課編「少年の補導」 警視庁</p> <p>大宮録郎「浮浪児の保護と指導」 中和書院</p> <p>大阪市民援護会編「子供の不良化はどうして防ぐか」 大阪市民援護会</p> <p>大伴茂「日本天才児の研究」 平凡社</p> <p>鈴木鎮一「才能教育」 才能教育研究会</p> <p>鈴木治太郎「実際の知能測定法」(修正増補) 東洋図書</p> <p>東京文理科大学内児童研究会編「特殊児童の心理」(学習指導)(児童心理学叢書九) 金子書房</p> <p>牛島義友「不良化傾向の早期発見」(児童研究叢書一) 金子書房</p> <p>一・五 トルーマン、年頭教書でフェア・デイルを發表(ニュー・デイルを継続)</p> <p>一・一 雑誌「幼稚園」復題誌刊 小学館</p> <p>一・一 ヤング「ブロンディ」連載開始(朝日新聞)</p> <p>一・一 「成人の日」実施</p>

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
二・二六	全国師範学校附属幼稚園主事会議（於 東京女高師『幼児の教育』第四八巻五号に内容紹介）	二・—— 雑誌『少女』創刊
三・二五	「保育指針」刊行	三・一八 「学校身体検査規程」制定（一九九年の規程を廃止）
三・七〇三	九州保育連合会結成、第一回保育大会開催	四・—— 岩波新書、装を新らたに再発足
四・五	学校教育法施行規則第四百条第三号の規定により、幼稚園教諭仮免状を有する者とみなす者を指定	
四・二八	第二回関東保育協議会第二回大会開催	
四・——	雑誌『保育カリキュラム』創刊 ひかりのくに昭和出版	
五・二九	日本保育学会第二回大会開催（於 東京女高師附属幼稚園）発表論文？ シンポジウム「幼児教育における訓練と自由の問題」（『幼児の教育』第四八巻七・八合併号に論文収録）	五・五 「子どもの日」制定（「母の日」も実施される）
五・三一	「教育職員免許法」「教育職員免許法施行法」公布（二四・九・一施行）	
四・九・一施行	「国立学校設置法」公布（新制国立大学69校を各都道府県に設置）	
六・一	東京高等女子師範学校、お茶の水女子大学となる	六・一 「教育刷新審議会令」公布
六・二三	「幼稚園に対する保育用図画用紙について」通達（図	六・二四 図書新聞社創業 「図書新聞」創刊

<p>画用紙を配給)</p> <p>七・三〇三 日本幼稚園協会保育講習会開催(坂元彦太郎「新しい幼稚園」他)</p> <p>七・二六三 第三回全国保育大会開催(於 佐渡、保育の歌「花のおさなご」制定)</p> <p>九・一九 「教育職員免許法施行令」公布</p> <p>九・二六元 厚生省「保母指導者講習会」開催(於 大宮、「幼児の教育」第四八巻十号に内容紹介)</p> <p>九・一 倉橋惣三「子供讃歌」、「幼児の教育」に連載始まる(第四八巻九号―第五一卷五号)</p> <p>〇・一 第一回全国幼稚園教員養成所長会議開催(於 東京フレーベル館「幼児の教育」第四八巻十号に内容紹介)</p> <p>〇・二九 第三回関西連合保育会研究協議会(於 神戸、「幼児の教育」第四八巻二号に内容紹介)</p> <p>〇・三一 中国保育連合会発足(「幼児の教育」第四八巻二号に内容紹介)</p> <p>〇・一 文部省、「無認可幼稚園に対する処置について」発表(「幼児の教育」第四八巻十号に内容紹介)</p> <p>二・一 「教育職員免許法施行規則」、「教育職員免許法施行法施行規則」制定</p> <p>二・一 文部省調査普及局調査課「就学前教育施設の分布状況」</p>	
<p>七・五 「文部省の各種審議会に関する政令」公布</p> <p>七・一 「世界文学全集」(全40巻)刊行開始 河出出版</p> <p>九・一八 ユニセフから初めての物資が届く</p> <p>九・二二 「学籍簿の名称並びにその取扱について」通達(「学籍簿」を「指導要録」に改める)</p>	<p>〇・一 中華人民共和国政府樹立</p> <p>〇・一 雑誌「チャイルドブック」創刊 国民図書刊行会(「日本ノコドモ」一九・四創刊の改題誌)</p> <p>二・一 「世界の絵本」(全50巻)刊行開始 新潮社</p>

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>刊行</p> <p>三・一 幼稚園設置基準に関する協議会開催(於 東京フレール館 『幼児の教育』 第四八巻一二号に内容紹介)</p> <p>三・一五 「私立学校法」公布</p> <p>三・一 倉橋惣三、お茶の水女子大学教授退官(六七歳) 及川ふみ、その後を受けて附属幼稚園主事となる</p> <p>—— 東京女子高等師範学校の新制大学への移行にあたって、倉橋惣三は児童学科を創設することに尽力する</p> <p>波多野完治「児童心理学入門」 金子書房</p> <p>ホーマア・レイン、小此木訳「親と教師に語る」 日本評論社</p> <p>上澤謙二「幼児の談話教育」(保育叢書二二) 巖松堂</p> <p>古木弘造「幼児保育史」(保育叢書二二) 巖松堂</p> <p>松葉重庸「幼児の紙芝居と人形芝居」(保育叢書一七) 巖松堂</p> <p>松葉重庸「幼児の人形芝居脚本集」(保育叢書二二) 巖松堂</p> <p>三木安正「幼児の心理と教育」 国土社</p> <p>村山貞雄「両親教育学」(保育叢書七) 巖松堂</p> <p>守屋光雄「育児心理学」 白井書房</p> <p>長沼依山訳述「アンデルセン童話集」 萩原星文館発行</p>	<p>—— 竹山道雄「ピルマの竖琴」刊</p> <p>垣内芳子編「こどもとレクリエーション」 社会教育連合会</p> <p>木田文夫「虚弱病児童の教育」 金子書房</p> <p>教育心理研究会編「現行知能検査法」 金子書房</p> <p>額田年「ワンハンドレッドゲームズ」 日本社会事業協会</p> <p>高橋四郎・松田稔「ゲームとその導き方」 日本基督教青年同盟</p> <p>高崎能樹「子供の個性と癖」(子供の教養叢書二) 草美社</p> <p>戸川行男「性格の類型」 金子書房</p> <p>特殊教育研究連盟編「精神遅滞児教育の実際」</p> <p>東京文理科大学内児童研究会編「児童の行動と発達(上)」(児童心理叢書二) 「児童研究」(同叢書一) 「生活指導と性格教育」(同叢書八) 金子書房</p> <p>牛島義友「教育のための標準検査」 金子書房</p> <p>牛島義友・波多野完治編「児童の心理と能力検査」(教育研究一) 「性格と社会性の検査」(同二) 巖松堂</p> <p>Forest, L.: Early Years at School</p>

滑川道夫「こどもの読書指導」 国土社

日本社会事業協会「保母ノート三・四・五」

長田新訳「フレーベル自伝」 岩波書店

酒田富治編「行進、リズム曲集」 白眉社

副島ハマ「幼児の絵畫と製作」(保育叢書一八) 巖松堂

副島ハマ「こどもの集団遊び」(上・下) 片井商会

瀧田要吉「自然物のおもちゃ」 フレーベル館

東京文理科大学内児童研究会編「児童文化」(児童心理叢書六)

金子書房

東京都保育会文化部編「劇あそび脚本」(改訂増補) フレーベル館

東京都保育研究会遊戯部会編「たのしい遊び」 フレーベル館

内山憲尚「幼稚園・保育所お話と人形芝居」 フレーベル館

内山憲尚「幼児と低学年の実演童話集」 中央公論社

内山憲尚「幼児と低学年のリクリエーションゲーム集」 中央公論社

牛島義友他「乳幼児精神発達検査」(児童研究叢書二) 金子書房

山下俊郎・竹田俊雄・森田宗一「困った子どもの問題」 新経営社

與田準一・波多野勤子編「幼児に聞かせるたのしい話」(婦人新

書二) 中央公論社

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和二五 一九五〇 『幼児の教育』 第四九卷	<p>一・—— 波多野完治、『幼児の教育』編集委員に加わる</p> <p>一・—— 「官廳公示連絡事項」の欄『幼児の教育』に設置</p> <p>一・一九 幼稚園教育課程、幼児指導要録協議会発足（委員長 小川正通、幼児指導要録の作成を始める『幼児の教育』第四九卷二号に内容紹介）</p> <p>二・—— 幼稚園教育課程研究協議会開催 宮城県他二県各二日</p> <p>三・七〇三 厚生省主催、保育所運営及び指導要領（案）作成懇談会開催（『幼児の教育』第四九卷四号に内容紹介）</p> <p>三・一七 「教育職員免許法施行法」第二条の表、第二四項による教員養成機関指定</p> <p>〇二五年度開設された幼稚園教員養成短期大学（第一回分）</p> <p>東洋英和女学院短期大学・聖和女子短期大学・頌栄短期大学・天理大学短期大学部</p> <p>（第二回分）</p> <p>日本女子体育短期大学・北陸学院保育短期大学・平安女学院短期大学・西南学院短期大学部・純心女子短期大学</p> <p>〇二五年度から、お茶の水、奈良岡女子大学でも幼稚園教員養成を開始</p>	<p>一・—— 満年齢の採用</p> <p>二・二〇 （米）マッカーシー旋風始まる</p>

<p>三・二七 第二回全国保母養成所長会開催（三日間）</p> <p>四・三 厚生省「ユニセフ寄贈物資による保育所給食範圍の擴張について」通達（『幼児の教育』第四九卷四号に内容紹介 関連記事『幼児の教育』第四八卷一一号）</p> <p>四・二六〇 第三回関東地区保育協議会開催（於茨城、『幼児の教育』第四九卷五号に内容紹介）</p> <p>四・一 基督教保育連盟『基督教保育』『母の光』再刊</p> <p>五・二三 モデル保育所設定標準（案）成る（『幼児の教育』第四九卷六号に内容紹介）</p> <p>「教育職員免許法」「教育職員免許法施行法」改正（『幼児の教育』第四九卷七号に内容紹介）</p> <p>六・一一 日本保育学会第三回大会（於奈良女子大学）研究発表8、シンポジウム「幼児の早教育の問題」（『幼児の教育』第四九卷九号に論文収録）</p> <p>六・一二 文部省、『幼稚園の幼児指導要録について』調査実施</p> <p>六・一 厚生省、『全国要保護児童』調査実施</p> <p>六・九〇二 GHQ、公衆衛生福祉部ブルーガ女史指導の下に「保母養成所教授要目研究協議会」開催</p> <p>六・一 幼稚園小学校教員研究集会開催 千葉県他六県 各六日（『幼児の教育』第四九卷九・一〇号に参加者の報告文掲載）</p>	<p>三・三〇 「盲学校及びろう学校の就学義務に関する政令」公布</p> <p>四・一 短期大学発足</p> <p>四・一八 「教育課程審議会令」制定</p> <p>四・一 「世界美術全集」（全29卷）刊行開始 平凡社</p> <p>五・三〇 「地方財政平衡交付金法」公布（児童保護措置費など交付金制度の中に繰り入れられる）</p> <p>六・一 一月から六月の雑誌の休廃刊五二に及ぶ</p> <p>六・二五 朝鮮戦争勃発（二・八・七）</p>
---	--

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>七・三〇 日本幼稚園協会主催保育講習会第一期開催（戸倉ハル「幼児の歌あそびの実際指導」）</p> <p>七・三〇 第四回全国保育大会開催（於 福岡）</p> <p>八・四 「教育職員免許法」改正（普通免許状及び仮免許状の経過措置の効力期間を昭和二十八年三月三十一日から三十二年三月三十一日まで延期。教員養成を主とする国立大学等において「免許法認定講習会」開催される。『幼児の教育』四九巻五号に内容紹介）</p> <p>八・七 日本幼稚園協会主催保育講習会第二期開催（酒田富治「幼児の器楽指導の実際」）</p> <p>九・二 幼稚園小学校研究集会（北海道ブロック）開催（『幼児の教育』第四九巻一一号に内容紹介）</p> <p>九・六 幼稚園教育に関する第一次教育指導者講習会（I F E L）開催、一二週間（『幼児の教育』第五〇巻二号に内容紹介）</p> <p>九・二二 第二次アメリカ教育使節団、マッカーサーに報告書提出（九・三〇発表 第三章「保育学校と幼稚園は、付属の小学校に接属するものとして維持されるべきものである、幼稚園の教師を養成するための幼児の観察と学生の実習のために用いられなくてはならぬ」）</p>	<p>七・三一 「地方税法」公布</p> <p>八・一〇 新学期からのガリオア資金による完全給食実施を発表</p>

- 九・—— 厚生省「保育所運営要領」刊
- 九・—— 玉越三朗「新教育における指導について—幼児指導要録の基礎としての指導」、『幼児の教育』に掲載される
(第四九卷九・一〇号)
- 三〇・六七 全国仏教保育大会開催(戦後はじめての大会)
- 三〇・九 「学校教育法施行規則」改正(幼稚園の教育課程は保育要領の基準による、分校の設置は認可を受けることとする)、『幼児の教育』第四九卷一二号に内容紹介)
- 三〇・一一 第四回関西連合保育会研究協議会開催(於 名古屋)
- 二・一九 第一回全国国公立幼稚園長会協議会開催(『幼児の教育』第五〇卷一・二号に内容紹介)
- 三・二二 教育課程審議会、「幼稚園の教育課程について」答申
- 荒起彦「私の楽器指導」 白眉社

- 三〇・三 教育刷新審議会、「優良教育の確保に関する対策について」建議
- 三〇・九 「学校教育法施行規則」改正(教科課程を「教育課程」に、「学籍簿」を「指導要録」に、「試験」を「成績評価」に、「体操場」を「運動場」に改め、「自由研究」を廃止)
- 三〇・一七 「国旗掲揚、君が代斉唱について」通達
- 三〇・二八 「小学校の教科と時間配当について」通達
- 三〇・—— 「世界名作童話全集」(全60巻)刊行開始 大日本雄弁講談社
- 二・七 文相、全国教育長会議で道徳教育振興を提言
- 二・—— 「小川未明童話全集」(全12巻)刊行開始 大日本雄弁講談社
- 三・五 「学校教育法施行規則の一部改正について」通達
- 三・二五 岩波少年文庫刊行開始(第一回配本「宝島」)

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和二六 一九五一 『幼児の教育』 第五〇巻	<p>井阪・周郷他編「幼児保育講座」(全5巻) 国民図書刊行会 川島三郎「児童福祉の諸問題」 港出版合作社 城戸幡太郎「幼児の教育」 福村出版 厚生省「児童福祉関係法令通知集」刊 教育大学講座 第九巻「幼稚園教育」 金子書房 松葉重庸「児童文化概論」 巖松堂 小高吉三郎「日本の遊戯」再刊(初版一八年) 羽田書房</p> <p>一・—— 中央社会福祉協議会発行 一・—— 日本幼稚園協会「本誌が第五〇巻に入るに当って、 『幼児の教育』に掲載される(第五〇巻一号) 二・—— 教育刷新審議会「教育財政問題について」建議(幼稚園教員給を都道府県負担とする、戦争復興に国庫援助</p>	<p>「ふたりのロッテ」 —— 北原白秋編「日本伝承童謡集成」(全6)刊行 開始 国民図書刊行会</p> <p>デューイ、宮原訳「学校と社会」 春秋社 Gardner: Long Term Results in Primary Schools (フォーマル教育とインフォーマル教育との教育効果に関する縦断研究。インフォーマル教育の児童はよりラックスとしており、不安感が少なく仲間や調査者と気楽な関係をもつと指摘) Erikson, E.H: Childhood and Society. (草野栄三郎訳「幼年期と社会」 日本教文社 一九五五)</p> <p>一・四 教育課程審議会「道徳教育について」答申 一・八 教育指導者講習会(I F E L)開催 二・—— (ソ)第五次五ヶ年計画発表</p>

<p>二・二 「幼稚園に入園を希望する幼児の取扱について」通達</p>	<p>二・一 倉橋惣三「第二次アメリカ教育使節団の報告中就学前教育に関する提言について」、「幼児の教育」に掲載される（第五〇巻二号）</p>	<p>三・三 「幼稚園の指導要録について」通達（『幼児の教育』第五〇巻五号に内容掲載）</p>	<p>三・三一 「教育職員免許法」「教育職員免許法施行法」の一部改正（『幼児の教育』第五〇巻七号に内容掲載）</p>	<p>四・一 堀合文子「私の記録から」、「幼児の教育」に連載される（第五〇巻四・一〇・一一号）</p>	<p>五・五 児童憲章制定</p>	<p>五・二七 日本保育学会第四回大会（於 お茶の水女子大学附属幼稚園）研究発表10 シンポジウム「保育施設と家庭及び学校」（『幼児の教育』第五〇巻九号に収録）</p>	<p>五・一 幼稚園小学校教員研究会開催 幼稚園教育要領編集委員会発足 カリキュラムと指導要録関係の記事、『幼児の教育』に掲載される（第五〇巻五号）</p>	<p>三・一 無着成恭編「山びこ学校」（山形県山元村中学生作文）刊</p> <p>四・一一 トルーマン、マッカーサーを日本占領軍、連合軍の最高指令官から解任</p>
---	--	---	--	---	-----------------------	--	--	--

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
六・――	「児童福祉法」改正（保育所が「保育にかける」児童を入所させるものであることを明記した―三九条）	六・三 NHK実験TV放送
六・――	「フレール百年記念」、「幼児の教育」に特集される（第五〇巻六号）	六・二二 「教職員の除去、就職禁止等に関する政令の一部を改正する政令」公布
七・三〇	日本幼稚園協会主催保育講習会（戸倉ハル「わらべうたと遊び」他）	六・二六 ユネスコ加盟
七・――	「児童憲章」関係の記事、「幼児の教育」に掲載される（第五〇巻七号）	七・一 学習指導要領一般篇（改訂版）刊
八・七	第五回全国保育大会（於 仙台、「全国保育連合会」を「日本保育連合会」に改称）	七・一〇 朝鮮休戦会議開かれる（於 開城）
九・一七	幼稚園設置基準作成協議会発足	八・二六 フルブライト法に基づく日米教育交換計画に調印（二七・七第一回留学生出発）
九・一七	「学校法人以外の私立幼稚園に対する助成について」通達	九・八 対日講話条約・日米安全保障条約、サンフランシスコで調印
九・二七	「保育所の給食用ミルク等の譲与並びにこれに伴う財政措置に関する政令」公布	九・―― 雑誌『少女ブック』創刊
一〇・――	福祉事務所発足	九・―― 雑誌『少女ブック』創刊
一一・――	「フレール百年記念」、「幼児の教育」に再び特集される（第五〇巻一〇号）	九・―― 雑誌『少女ブック』創刊
一二・一一	日本教職員組合、第一回全国教育研究大会開催（第9分科会「幼児教育の現状とその打開策をいかにするか」）	九・―― 雑誌『少女ブック』創刊

二・—— 東基吉「婦人と子ども」創刊当時の子どもと其の頃の幼稚園の現状について、「幼児の教育」に掲載される
(第五〇巻一一号)

三・—— 倉橋惣三「幼児の教育半世紀の辞」、『幼児の教育』に掲載される (第五〇巻一二号)

安倍盛・藪田義雄共著「わらべ唄一一〇四集」 全音楽譜出版

文部省「初等教育の原理」 東洋館

倉橋惣三「育ての心」再版 (初版一一年) 乾元社

倉橋惣三「フレーベル」再版 (初版一四年) 岩波書店

中塩田小学校「就学前の教育」 信濃教育出版部

酒田富治編「新しい幼児のうた」 1・2 白眉音楽出版

東京教育大学児童研究会編「児童問題新書」(全10巻) 金子書房

山下俊郎「児童の生活とその指導」 東洋館

山下俊郎「幼児の家庭教育」 東洋館

山下俊郎「幼児の心理的発達」 巖松堂

アメリカ合衆国社会保障庁児童局「あなたの子どものために」

厚生省児童局

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和二七 一九五二 『幼児の教育』 第五一卷	<p>一・—— 『幼児の教育』協力委員座談会「日本保育界発展のために考慮すべき重要諸問題」、『幼児の教育』に掲載される（第五一卷一号）</p> <p>二・八 『幼稚園の設置基準案』の答申提出される（『幼児の教育』第五一卷五号に内容掲載）</p> <p>二・—— 小川正通「ソヴェートの就学前教育」、『幼児の教育』二月号に掲載（戦後はじめてのソ連の幼児教育の紹介）</p> <p>三・二 「保育指針」刊</p> <p>三・五 幼稚園教育研究協議会開催、福井県他二県、各二日（幼稚園基準の意見聴取）</p> <p>三・—— 「幼稚園と小学校の連絡」「幼稚園と保育所の先生養成の問題」、『幼児の教育』に特集される（第五一卷三号）</p> <p>四・—— 「幼児問題」（座談会）、『幼児の教育』に特集される（第五一卷四号）</p> <p>四・—— 波多野完治「幼児の心理」、『幼児の教育』に連載される（第五一卷四・五・六・八号）（ピアジェの心理学に基づく講話）</p> <p>五・一七 日本子どもを守る会結成（会長 長田新、機関誌『子ども』のしあわせ）刊</p>	<p>二・一 福音館創業</p> <p>三・二七 「私立学校振興会法」公布</p> <p>四・二八 対日講和条約発効</p> <p>四・—— 雑誌『よいこのくに』創刊 学習研究社</p> <p>四・—— 「小学館の幼年絵本」刊行開始</p> <p>五・一六 モンテッソーリ死去</p> <p>五・一〇 全国社会福祉協議会連合会結成（中央社会福祉）</p>

<p>五・二〇 「公立幼稚園調査」「小学校入学前の幼児施設調査」 実施</p>	<p>五・二一 「幼稚園基準」通達(『幼児の教育』第五一卷八号に内容掲載)</p>	<p>五・二五 日本保育学会第五回大会(於 名古屋市立保育専門学園) 研究発表15、シンポジウム「幼稚園と保育所をどう考えるか」(『幼児の教育』第五一卷九号に発表論文収録)</p>	<p>五・二七 第六回全国保育大会(於 松江)(この時、幼稚園・保育所関係者が別個に会合をもち、全国保育連合会 は実質的に分裂し、解散する)</p>	<p>五・ 初等教育実験学校に東京学芸大学附属幼稚園を指定 (三年間)</p>	<p>五・ 建築モデルスクール候補校に名古屋市立第三幼稚園他 七園が初めて指定される</p>	<p>六・七 第三回国公立幼稚園長会開催</p>	<p>六・二三 フレーベル百年記念講演会(日本幼稚園協会・東京都 保育会・東京都私立幼稚園協会共催 於 お茶の水女 子大学)</p>	<p>六・ 幼稚園小学校教員研究集会開催、山梨県他七県、各六日 七・五 厚生省・全国社会福祉協議会連合会共催 第一回保</p>	<p>五・ 社協議会の改称) 創造美育協会発足</p>	<p>六・一 デューイ死去</p>	<p>六・六 「中央教育審議会」設置(「教育刷新審議会」 廃止)</p>	<p>六・二三 岩波講座「教育」(全8巻)刊行開始(一二八・ 一一)</p>
---	---	--	--	---	--	--------------------------	--	---	---------------------------------	-------------------	--	--

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>育事業大会開催（於 松江）（はじめての保育所関係者の会合）</p> <p>七・三〇 日本幼稚園協会主催保育講習会（戸倉ハル「器楽と遊戯」）</p> <p>九・—— 堀合文子・鈴木とく「九月の保育」、「幼児の教育」に掲載される（第五一卷九一二号 具体的な保育案の紹介）</p> <p>一〇・一九 全国幼稚園施設協議会発足 学校建物規準調査会第二分科会発足（木造園舎標準設計）</p> <p>二九〇〇 全国モデル幼稚園協議会発足、研究協議会開催（三〇年、全国幼稚園施設協議会に改称）</p> <p>三・—— 民主保育連盟解散、保育問題懇談会誕生</p> <p>A・ゲゼル 山下訳「乳幼児の心理学」 大日本図書 宮武辰夫「幼児の絵は生活している」 栗山書房 守屋光雄「幼稚園児」 金子書房 小川太郎「日本の子ども」 金子書房</p>	<p>八・八 「義務教育費国庫負担法」公布</p> <p>一〇・五 （ソ）第一九回ソ連共産党大会開催（五五年までに保育所を20%、幼稚園を40%増加させることを決定）</p> <p>一〇・一四 日本PTA結成大会開催</p> <p>一一・—— 市町村教育委員会、全国一斉に発足</p> <p>二・八 新制大学大学院修士学位決定（教育学・家政学等）</p> <p>三・一〇 壺井栄「二十四の瞳」 光文社</p> <p>——（米）NAEYC（全米ナースリー協会）をNAEYC（全米幼児教育協会）に改称</p> <p>芦田昇「発達と教育の心理学」 東洋書館</p>

<p>昭和二八 一九五三 『幼児の研究』 第五二巻</p>	<p>C・ストラッツ 森訳「子どものからだ」 創元社 幼児指導研究会「子どもは幼稚園でこのように学びます」 ひかりのくに昭和出版</p>
<p>二・一〇 文部省「幼稚園のための指導書 音楽リズム」刊（幼稚園に関する最初の指導書） 乾孝・早川元二を中心に旧保育問題研究会復活</p>	<p>一・二〇 アイゼンハワー、米大統領に就任 二・一 マルシャーク 湯浅訳「森は生きている」</p>
<p>三・五 （ソ）スターリン死去、マレンコフ、首相に就任</p>	<p>三・七 サンテイクチュベリ、内藤訳「星の王子さま」</p>
<p>四・一 国立大学に新制大学院設置 四・― 「世界少年少女文学全集」（全50巻）刊行開始 東京創元社</p>	<p>五・六 全国同和教育研究協議会発足 五・一三 学制八〇年式典挙行</p>
<p>五・一三 初等教育実験学校研究発表会開催（東京 竹早幼稚園が発表）</p>	<p>五・三一 日本保育学会第六回大会（於 日本女子大学）研究発表16 シンポジウム「幼児保育と準備教育」（『幼児の</p>

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	教育』第五二巻九号に発表論文収録） 六・—— 学校施設調査会第一分科会発足（幼稚園） 七・—— 幼稚園小学校教員研究会開催、栃木県他四県、各六日 七・三〇 「教育職員免許法」改正（教員免許状資格付与課程の認定制を実施） 九・—— 雑誌『保育の友』創刊 全国社会福祉協議会 三〇・—— 日本保育連合会々長倉橋惣三、健康上の理由により会長を辞任 二・二七 「学校教育法施行規則」改正（保育要領を幼稚園教育要領に改める） 三・三 国富友次郎（幼児教育功労者）死去 —— この年公立幼稚園施設費及び設備費補助金交付（設備	七・—— 「学習図鑑」（全30巻）刊行開始 保育社 八・七 教育課程審議会「社会科の改善、特に道徳・地理・歴史教育について」答申 八・八 学校図書館法公布（これを機に、学校向けの図書出版が活発になる） 八・二七 公立学校施設費国庫負担法公布 八・三一 私立学校教職員共済組合法公布 九・—— 雑誌『母の友』創刊 福音館書店 三・—— 「岩波子どもの本」刊行開始 —— （ソ）コルホーズは収入の一部で就学前教育

費補助金は三二年度まで)

—— 建築モデルスクール候補校に大分市立金池幼稚園他五園指定

安藤寿美江・渡辺茂共著「リズムミカル表現あそび」 フレーベル館

平井信義「保育のための医学」 恒星社厚生閣

平井信義・松村康平・水原泰介「幼児保育の知識」 金子書房

賀来琢磨「実用遊戯動きのリズム」 フレーベル館

倉橋惣三「幼稚園真諦」 フレーベル館(昭和九年東洋図書出版刊「幼稚園の保育法真諦」から「第四篇誘導保育案の試み」を省き、著者加筆、整理、改題した新版)

増子とし編著「保育のための音楽カリキュラム」 フレーベル館

根岸草笛「保母日記」

高橋さやか「保育とその方法」 博文社

玉山英光「幼稚園の音楽課程」 白眉音楽出版

莊司雅子「フレーベル研究」 講談社

内山憲尚「たのしい幼児の生活遊びの歌」 白眉音楽出版

内山憲尚「幼児の生活と創造の保育」 日本保育教材 K・K

施設をすることを決定

—— (カ) ソーク、小児麻痺のワクチンを完成

Havighust, R.: Human Development and Education

(莊司訳「人間の発達課題と教育」 牧書店 一九五八)

Sullivan, H.: The Interpersonal Therapy

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和二九 一九五四 『幼児の教育』 第五三卷	<p>一・一四 和出實死去</p> <p>一・二五 二六 指導主事教科別連絡協議会（文部省主催）開催（「幼稚園の環境」「幼稚園教育の目標」について協議）</p> <p>二・一 津守真、「幼児の教育」誌の編集主任となる</p> <p>二・一 「教育白書 ―わが国教育の現状―」刊</p> <p>二・一 保育問題研究会「会報」戦後第一号発行</p> <p>二・一 「幼稚園にカリキュラムは必要か」（座談会）、「幼児の教育」に特集される（第五三卷二号）</p> <p>三・一 「新入園児を迎える ―その抱負―」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷二号）</p> <p>四・一 「園児を送る」「新入園児を迎える」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷四号）</p> <p>五・二〇 初等教育実験学校研究発表会開催（東京竹早幼稚園が発表）</p> <p>五・三〇 日本保育学会第七回大会（於 頌栄短期大学）研究発表17 シンポジウム「自由保育と一斉保育」日本保育学会共同研究「本邦幼児発達規準の研究」（第一回中間報告）（「幼児の教育」第五三卷九月号に論文収録）</p> <p>五・一 「幼稚園教育で何が一番重要か」（アンケート調査）、「幼児の教育」に特集される（第五三卷五号）</p>	<p>二・一 力道山のタッグマッチ人気高まる</p> <p>三・一 ビキニ水爆実験（第五福竜丸が死の灰あびる）</p> <p>四・一 キリスト教保育連盟原宿高等保育学校開設（夜間、現在の草苑保育専門学校の前身）</p> <p>五・一五 「地方交付税法」公布（地方財政平衡交付金法）（廃止）</p> <p>五・一七 （米）最高裁、公立学校における人種分離教育に違憲判決</p>

<p>五・—— 全国国公立幼稚園長会主催第一回幼稚園教育研究協議会開催（於 岡山）</p>	
<p>六・三 「教育職員免許法」改正（園長の免許状を廃止し、その資格を教育公務員特例法で規定、仮免許状の廃止、単位修得の方法を改め、臨時免許状の有効期間を三年とする）</p>	<p>六・一 へき地教育振興法公布 六・三 教育公務員特例法一部改正 「学校給食法」公布</p>
<p>六・—— 「家庭に望むこと、幼稚園に望むこと」「家庭との連絡」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷六号）</p>	
<p>七・三〇〜三二 日私幼主催第一回全国私立幼稚園教育研究大会開催（記念講演 羽仁説子「幼児教育に望む」・山下俊郎「幼児教育の新しい方向」）</p>	
<p>七・—— 玉越三朗「教育白書にあらわれた幼稚園の現状」、「幼児の教育」に掲載される（第五三卷七・一一号）</p>	
<p>七・—— 日本私立幼稚園連合会機関誌「私幼時報」創刊</p>	
<p>八・—— 厚生省児童局保育課を母子福祉課に改組</p>	<p>八・一三 映倫、映画と青少年問題対策協議会設置（青少年向きの映画の選定）</p>
<p>九・二八 「幼稚園教育要領」原案発表</p>	<p>九・一四 映画「二十四の瞳」公開</p>
<p>九・—— 「公立学校建物の児童等一人当りの暫定最低基準坪数の補正について」通達 文部省主催幼稚園教育研究集会開催、東京都他一県、各四日（二〇年まで継続）</p>	

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>九・—— 全国社会福祉協議会連合会主催第二回保育事業研究大会 「遠足についてこう思う」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷一〇号）</p> <p>二・ 八 教員養成学部教官教研集会開催（於 大分大学、以後毎年継続）</p> <p>二・—— 「入学・テスト・幼稚園」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷一一号）</p> <p>三・—— 「冬のおそびと保育」、「幼児の教育」に特集される（第五三卷一二号）</p> <p>—— この年、建築モデルスクール候補に西協市立西協幼稚園 園他三園指定</p> <p>波多野勤子「幼児の心理」 光文社</p> <p>アイザックス 懸田訳「幼児のしつけ方」 要書房</p> <p>ゲゼル 依田・岡訳「乳幼児と現代の文化」 新教育協会</p> <p>児玉省「保育理論」 日本女子大学通信教育部</p> <p>厚生省「保育の理論と実際」 全国社会福祉協議会</p> <p>松石治子「幼児の製作一二ヶ月」 三友書房</p> <p>松葉重庸「児童心理学」 医学書院</p>	<p>二・ 三 SF映画「ゴジラ」公開（怪獣映画のはじまり）</p> <p>三・ 六 中央教育審議会、「へき地教育および特殊教育の振興について」答申</p> <p>—— 児童文学同人雑誌の活動盛んとなる</p> <p>—— (ソ) コルホーズ幼稚園の規定制定</p> <p>Macfarlane et al.: Developmental Study of the Behavior Problems Normal Children between 21 months and 14 days.</p>

<p>昭和三〇 一九五五</p> <p>『幼児の教育』 第五四卷</p>	
<p>三・二五 幼稚園教育要領（原案）説明会開催 東京都他三県 各二日</p> <p>四・二一 倉橋惣三死去（七十二才）</p> <p>四・二七 初等教育実験学校に東京都千代田区立番町幼稚園を指</p>	<p>宮内・角尾・鈴木編「幼稚園教育の実際」 フレーベル館</p> <p>長田新・羽仁説子他編「児童問題講座」（全5巻） 新評論社</p> <p>ピアジェ 大伴訳「児童臨床心理学Ⅰ」 同文書院</p> <p>山下俊郎「一人子の心理と教育」 巖松堂</p> <p>山下俊郎「改訂幼児心理学」 朝倉書房</p> <p>山下俊郎「児童相談」 光文社</p> <p>安田浩「年間保育カリキュラム」 白眉音楽出版社</p> <p>全国モデル幼稚園協議会「第二回モデル幼稚園協議会研究資料」 フレーベル館</p>
<p>二・一一 「小・中学校社会科の学習指導要領改正案」 の大綱発表</p>	

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
	<p>定（三年間）</p> <p>四・—— 指導要録研究協議会発足</p> <p>五・三、三 日本保育学会第八回大会開催（於 お茶の水女子大学）研究発表31、シンポジウム「性格教育の問題」</p> <p>（『幼児の教育』第五四卷九・一〇号に論文収録）</p> <p>六・—— 初等教育実験学校発表会開催（於 東京）</p> <p>七・—— 『幼児の教育』誌、第五四卷七号を「倉橋惣三先生追悼号」とする</p> <p>七・—— 教材等調査研究会幼稚園教育小委員会発足（絵画製作編の作成）</p> <p>八・一六 「物品税法施行規則」改正（テレビ・ラジオ・幻燈機などが免税となる）</p> <p>八・—— 文部省主催幼稚園教育研究会開催 神奈川県他一県各四日</p> <p>八・—— 第二回国立幼稚園研究協議会開催（於 東京）</p> <p>三〇・八 「幼稚園幼児指導要録」改訂</p> <p>二・一四 教員養成学部教官研究集会開催（於 岡山大学）</p> <p>芦田昇「幼児の理解と教育」 明玄社</p> <p>羽仁説子「新しい保育園の運営」 博文社</p>	<p>五・—— 公立学校建物の実態調査実施</p> <p>五・三一 （米）最高裁、公立学校における人種差別撤廃の実施を命令</p> <p>七・一二 国語審議会、「かなの教え方」について、かな、ひらがな並行学習を答申</p> <p>八・五 「女子教育職員の産前産後の休暇中における学校教育の正常な実施の確保に関する法律」公布（三一・四・一施行）</p> <p>二・六 （米）アラバマ州モントゴメリー市で黒人差別撤廃バス・ボイコット運動おこる（一五六・一二・三）</p> <p>三・五 中央教育審議会「教科書制度について」答申</p>

上沢謙二「いま・ここ保育」 厚生閣

宮武辰夫「(ミス・ショウの)フィンガー・ペインティングについて」 創造美育パンフレット

中川武夫「基礎的研究に基づいた幼児の教育」 東洋館

お茶の水女子大学附属幼稚園幼児教育研究会「幼児の教育内容とその指導」 フレーベル館

お茶の水女子大学附属幼稚園幼児教育研究会「幼児の劇あそび集」

お茶の水女子大学附属幼稚園

小川正通「保育原理」 金子書房

長田新「フレーベルに還れ」 フレーベル館

ピアジェ 大伴訳「児童臨床心理学Ⅱ」 同文書院

ローウェンヘルド 勝見訳「子どもの絵」 白揚社

酒田富治「幼児の楽器あそび」 白眉音楽出版

関忠夫「雨の日のママ」 大蔵出版

莊司雅子「幼児教育学」 柳原書店

莊司雅子「フレーベルの教育学」(初版一九年) フレーベル館

高橋さやか「保育のための文学」 博文館

幼児の教育 著者別索引

第四五卷～第五二卷

〈凡 例〉

1. この索引は、『幼児の教育』第45巻第1号（昭和21年）より第52巻第12号（昭和28年）の総執筆者を〈個人〉・〈ペンネーム〉・〈外国人〉・〈団体〉の4種に分別し、収録した。

〈個人〉

ペンネーム中、実作者が明らかなものは実名に組み入れ収録してある。

人名中、誤植と判断されるもの、及び同一人物と判断されるものは、一般的表記名に統一した。

〈団体〉

幼稚園・研究所等を収録した。

2. 執筆者名の排列は、原則として50音順にした。

〈記載例〉

倉 橋 惣 三……47-1, 2, 4, 6, 8, 10 50-1~8, 10~12
51-全 ……………

○前の数字は巻数を示し、後の数字は号数を示す。

○47-1, 2, 4……は、第47巻1号、2号、4号に執筆していることを示す。

○50-1~8, 10~12は、第50巻1号から8号及び、同巻10号から12号に執筆していることを示す。

○51-全は第51巻の全ての号に執筆していることを示す。

—個人名—

【あ】

相馬 均……49-2, 8 50-9 51
-2, 3 52-6, 8, 11
青柳 義智代……48-1 51-3, 5
秋田 美子……45-3, 49-2, 5, 11
51-5
浅野 寿美子……45-1 49-4 51-10
東 甚吉……50-11
荒木 嘉弘……51-12

【い】

飯沼 てる……51-6, 12
石井 庄司……46-4, 8
石井 哲夫……49-8
石森 延男……45-2
石山 修平……50-10
井手 達郎……46-3
井上 武士……46-3, 7
今輩倍 素行……52-10, 11
井本 農一……48-1

【う】

上沢 謙二……46-4 47-7 49-3,
12 50-4 51-8 52-8,
12
上野 芳太郎……48-5 51-3
牛島 義友……46-1, 2, 8 47-7
~9 50-12 51-5 52-
3, 8
内山 憲尚……46-1, 6 47-3, 7,
9 48-2, 3, 9 49-3,
10, 12 50-9 51-3, 9
52-11

【え】

江上 秀雄……52-9
遠藤 恵子……45-3

【お】

及川 ふみ……45-1 46-1, 2 47
-6 48-5 50-1~3,
12 51-2, 11 52-1, 3
~8, 12

大熊 米子……50-1
大島 文義……51-5
大塚 喜一……47-4
大森 晶子……48-2, 3
岡崎 修子……46-1, 9 47-4, 9
岡田 栄資……49-10
岡田 一次……51-7
岡野 伊津子……52-9
小川 正通……46-2 50-9 51-2,
7, 10 52-6, 9
小木曾 光子……51-9 52-9
奥 寿儀……47-1
奥野 あや子……52-9
長田 新……50-6
小原 武雄……50-7
小山田 幾子……49-9

【か】

甲斐 久生……52-9
海後 宗臣……50-10
柿内 三郎……52-9
笠原 謙二郎……46-6, 7
笠原 秀定……52-4
檜 葉勇……48-7, 8 51-3 52
-2
梶原文 子……51-9
勝部 真長……47-7
加藤 常吉……52-1, 2, 6~8, 10
鹿野 京子……51-10 52-4
上遠 文子……45-2 46-10 47-7
上村 一……51-3
上村 哲彌……48-7, 8
川本 宇之……47-5

【き】

菊池 ふじの……45-2
城戸 幡太郎……48-2, 3
木場 一夫……46-9

【く】

釘 本 久 春……47-8
功 刀 よし子……45-2
久 保 貞次郎……48-2・3, 5, 7・8
倉 橋 惣 三……45-1~3 46-1~10
47-1, 2, 4, 6, 8, 10
48-1~4, 9, 10~12 49
-1, 3~8, 10~12 50-
1~8, 10~12 51-全 52
-全

【こ】

古 賀 淑 子……52-3
国 分 順 子……51-7
児 玉 省……48-2・3, 7・8 51
-11 52-9
小 林 宗 作……47-5
小 林 伸 子……51-3
小 林 操……49-11 51-3

【さ】

斉 藤 愛 子……52-9
斉 藤 文 雄……45-1 48-2・3 51
-4, 6, 8 52-2
坂 西 志 保……45-2
坂 本 幸 子……51-9
坂 元 彦太郎……46-4 47-4 48-7・
8 49-1
桜 井 良 子……52-9
佐々木 信 子……48-7・8
佐々木 尚 友……52-3
佐々木 良 治……51-3
佐 竹 義 輔……51-5

【し】

重 田 定 正……51-6, 8 52-1, 10
清 水 桔 梗……52-2
莊 司 稚 子……48-9~12 49-1, 2
50-6
白 木 喜美子……52-9

【す】

周 郷 博……52-9

鈴 木 と く……48-2・3 49-4 51
-5, 7, 9~12 52-1~
9
鈴 木 豊 蔵……51-11
鈴 木 信 政……49-11 50-3, 5, 9
51-4, 9 52-12
鈴 木 正 子……50-11
砂 田 恵 二……50-9

【せ】

千 羽 喜代子……52-9

【そ】

副 島 ハ マ……45-1, 2 46-3 47
-8 48-2, 3, 4, 6
49-2 51-11

【た】

高 崎 能 樹……47-5 51-12
高 島 巖……50-7
高 島 栄美子……52-9
高 島 春 雄……52-3, 4
田 頭 晴 彌……49-7
高 橋 勝 哉……50-9
高 橋 さやか……52-9
高 橋 寿美夫……51-7 52-6
田 北 み つ……47-2
滝 田 要 吉……49-4, 5
竹 田 俊 雄……45-1 46-2 48-2・3,
7・8, 11, 12, 49-1 50-9
52-9
多 田 鐵 雄……45-1 50-3 51-4
52-1, 5, 7, 11
多 田 富 士 雄……51-4, 5
谷 口 和 子……51-11, 12 52-2, 10
種 橋 正 徳……52-9
玉 川 喜代子……52-2
珠 川 善 子……51-9, 12 52-9
玉 越 三 朗……48-10~12 49-9, 10
50-2, 5, 7, 10 52-7

【つ】

土屋 真砂子……46-1 48-6 52-3
津守 真……49-6 50-6 51-6,
10, 11 51-12 52-5, 6,
8, 11, 12

【て】

寺田 太郎……50-10
寺田 豊子……50-9
寺西 聴学……49-6

【と】

砥上 種樹……51-9
徳久 孝子……51-12
徳久 孝……49-11
徳長 貞代……47-10
戸倉 ハル……45-3 46-3~5, 7
50-1, 4
富田 陽子……52-5
友田 静恵……49-12

【な】

内藤 寿七郎……46-1 51-12
中川 武夫……51-3
中川 武雄……52-4
中田 保……49-4
中谷 千蔵……46-5
中谷 久子……51-9
中村 道子……52-2
中山 茂……51-6
長竹 正春……48-2, 3
長沼 依山……52-1
滑川 道夫……52-9

【に】

新村 太郎……49-7
西村 巖……47-1
西本 脩……51-9 52-9, 10, 12

【ね】

根岸 草笛……46-9 49-1 51-2,
4, 5, 9

【の】

野口 幸江……52-9
野崎 とし子……52-9

【は】

波多野 完治……46-9 50-1 51-3,
4~6, 8, 12 52-6
波根 治郎……49-3, 5, 12
林 成子……45-3
林 叔子……52-3
巴陵 宣祐……46-5

【ひ】

日名子 太郎……52-9
平井 信義……46-10 48-7, 8, 10
49-3, 6~11 50-2~4,
7, 9~12 51-1, 7, 9,
11 52-4, 7~9
平野 恒子……52-4
弘田 竜太郎……50-4
広瀬 興……46-3, 47-8, 9 52
-12

【ふ】

深田 英朗……50-9 51-9 52-9
深谷 昌次……51-8
藤沢 うめ……52-2
古川 晴男……52-8
古木 弘造……52-10, 11

【ほ】

堀 七蔵……46-1, 7 47-4 50
-8 51-1
堀合 文子……50-4, 10, 11 51-9~
~12 52-1~4, 6~8

【ま】

前田 美和……52-9
増子 とし……46-2
摩瀬 靖正……52-5, 6
松井 三雄……47-3

松 石 治……51-3
 松 石 治 子……46-8 49-3 52-2,
 4
 松 崎 芳 伸……46-10
 松 原 至 大……47-1~7 49-6~8,
 10~12 50-1~4, 8, 11,
 12 51-1, 2, 4, 7, 8,
 10, 12 52-1~8, 10~12
 松 村 康 平……48-10, 11 49-8, 9
 50-7 51-6, 10 52-1,
 7

【み】

三 木 安 正……45-3 48-2・3 50
 -8, 10 51-8, 10 52-
 11
 水 野 久一郎……51-9
 水 野 浩 志……50-6
 峯 親 吉……51-9
 宮 内 孝……50-4 51-2, 9, 11
 宮 本 杏 子……47-1, 2 49-6
 宮 本 美沙子……48-7・8

【む】

武 藤 光太郎……51-3
 村 上 米 子……48-6 50-11
 村 山 貞 雄……47-5, 10 48-2・3,
 7・8 49-4, 5 50-12
 51-5, 6 52-9

【も】

森 重 静 夫……47-4
 森 田 清……46-2
 森 脇 要……45-2 47-1~3 48
 -2・3 49-7~9 50-
 9
 守 安 了……49-1, 2

【や】

安 間 公 観……51-10 52-11
 柳 沢 静 子……51-7
 山 形 寛……46-7

山 口 菊 代……52-2
 山 下 俊 郎……45-1 46-5 48-1,
 4~10, 12 49-3~5, 9
 50-3, 9 51-1, 2, 10
 52-1, 4, 6, 10, 11
 山 田 徳兵衛……46-1 51-9 52-3
 山 名 義 順……52-1
 山 村 き よ……48-1 49-1, 10, 12
 50-4 51-5 52-2, 12

【よ】

善 方 千代子……52-3
 吉 田 と み……45-3 46-7 47-8
 吉 田 とみ子……47-8
 吉 田 昇……46-6 49-2 50-1
 51-11 52-10
 吉 見 静 江……48-2・3 51-5
 従 野 静 江……52-1

【わ】

和 田 典 子……48-6 49-10, 11
 和 田 實……47-3
 渡 辺 紀久子……52-9
 渡 辺 俊 枝……50-2

—ペンネーム—

S・K 生……45-1~3 46-2~8
 美 知 子……50-2

—外国人—

ヘレン・ヘファーナン……46-3

—団体—

愛育研究所教養部……45-1
 お茶の水女子大学……50-3
 お茶の水女子大学幼稚園……50-1
 関西連合保育会……46-4
 京都保育連盟……46-10

全日本保育連盟.....46— 4
全国保育連合会.....48— 9
東京都保育連合会.....42—10 46—10
東京都港区立西桜幼稚園.....50— 4
日本教育会保育部会.....45— 1
日本保育研究会.....45— 2
藤幼稚園.....52— 2
編集部.....46— 4 47— 1 ~ 3, 8 48— 4